
Ⅱ 調査の結果【一般市民】

<回答者の属性別件数>

【一般市民】

性別	男性	女性							
n=1,046	411	614							
年齢	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上				
n=1,046	106	171	265	191	291				
婚姻状況	既婚	未婚	離別	死別					
n=1,046	757	184	58	24					
本人の職業	会社員	公務員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業	農業	内職・在宅就業		
n=1,046	320	53	30	210	65	3	9		
	専業主婦・主夫	学生	無職	その他					
	174	24	100	27					
配偶者の職業	会社員	公務員	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業	農業	内職・在宅就業		
n=757	321	33	20	96	60	2	3		
	専業主婦・主夫	学生	無職	その他					
	83	—	116	9					
子どもの有無	いる	いない							
n=1,046	739	220							
子どもの人数	1人	2人	3人	4人	5人以上				
n=739	160	401	158	10	2				
一番下の子どもの年齢	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上				
n=739	115	91	71	80	374				
同居している家族構成	夫婦のみ	夫婦と子ども	夫婦と親	親・子・孫の三世代	母または父と子ども	単身	その他		
n=1,046	212	430	38	100	75	89	61		

【中学生】

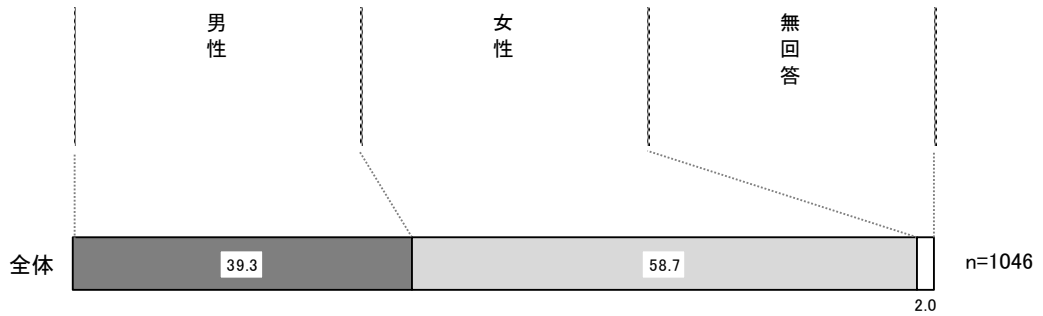
性別	男子	女子
n=521	267	251

【高校生】

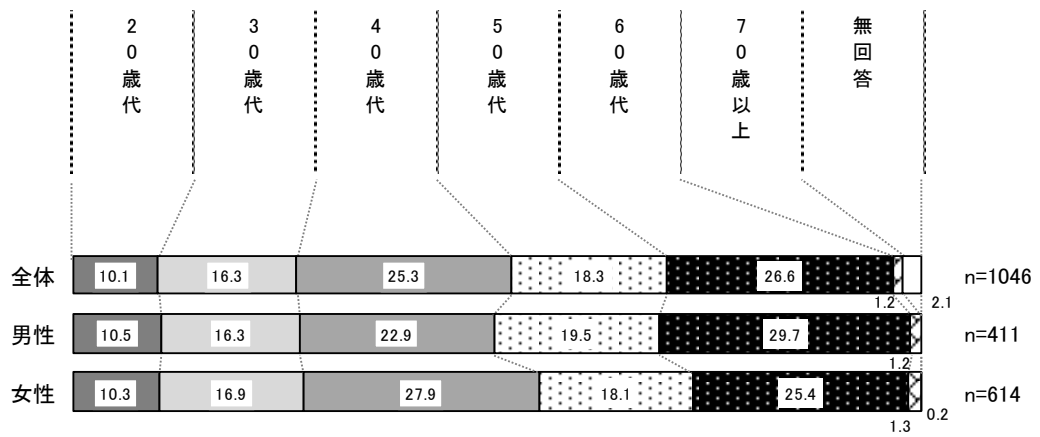
性別	男子	女子
n=612	320	282

1 回答者の属性

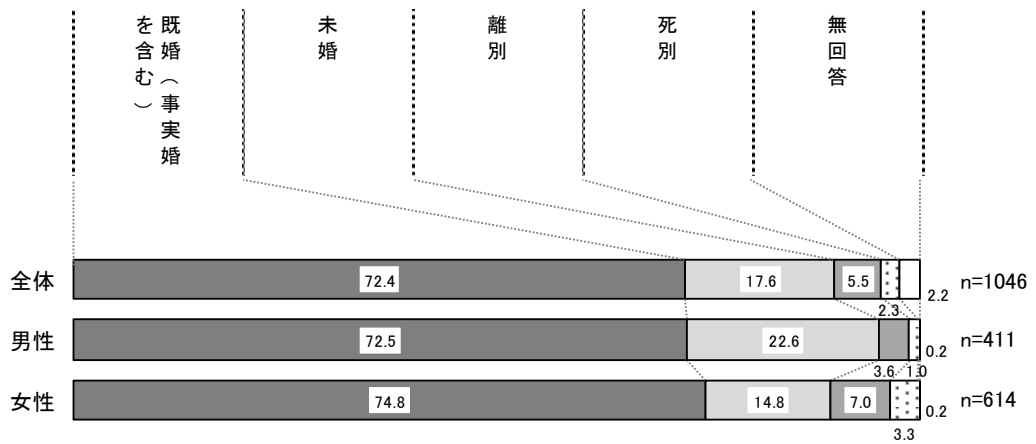
<性別>



<年齢>



<婚姻状況>



<職業>

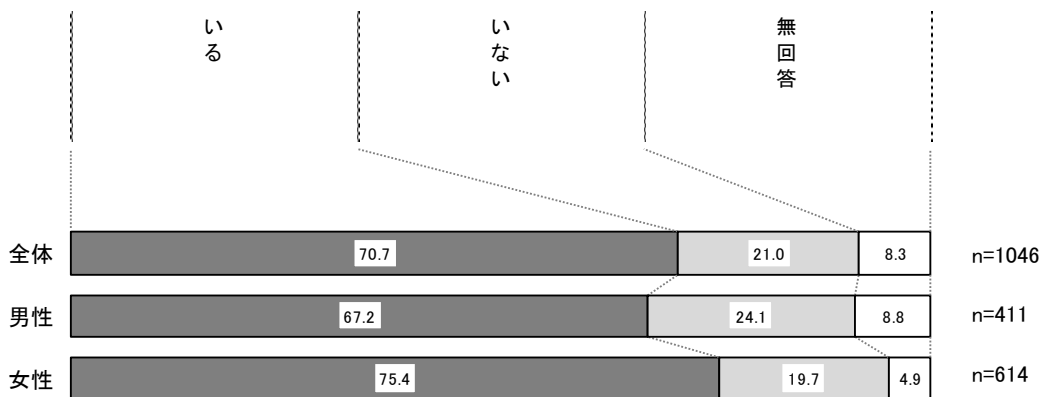
●本人の職業

	会社員	公務員	社員 派遣・契約	パート アルバイト	自営業	農業	就業 内職・在宅	専業主夫 専業主婦	学生	無職	その他	無回答
全体 n=1046	30.6	5.1	2.9	20.1	6.2	0.3	0.9	16.6	2.3	9.6	2.6	3.0
男性 n=411	52.8	6.8	2.4	7.1	9.2	0.7	—	0.5	3.2	14.4	2.4	0.5
女性 n=614	16.8	4.1	3.3	29.5	4.4	—	1.5	28.0	1.8	6.7	2.8	1.3

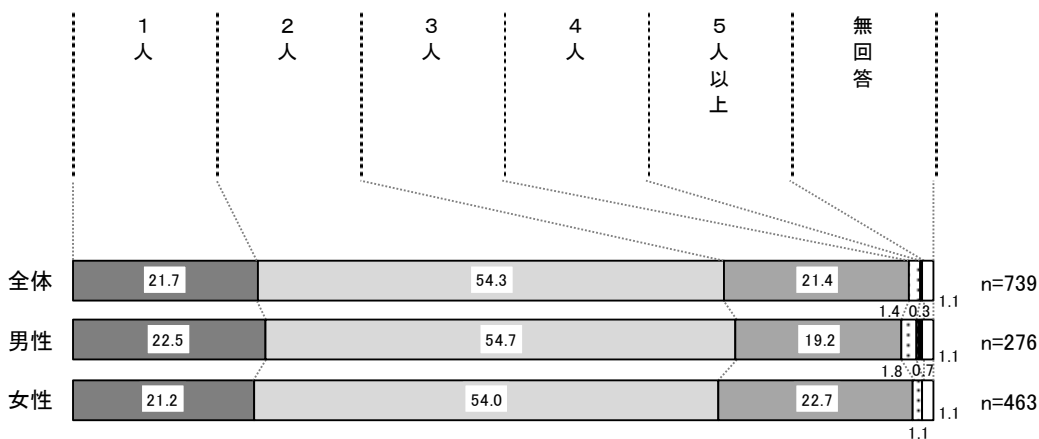
●配偶者の職業

	会社員	公務員	社員 派遣・契約	パート アルバイト	自営業	農業	就業 内職・在宅	専業主夫 専業主婦	学生	無職	その他	無回答
全体 n=757	42.4	4.4	2.6	12.7	7.9	0.3	0.4	11.0	—	15.3	1.2	1.8
男性 n=298	17.1	3.4	2.7	26.2	5.0	—	1.0	26.2	—	17.4	—	1.0
女性 n=459	58.8	5.0	2.6	3.9	9.8	0.4	—	1.1	—	13.9	2.0	2.4

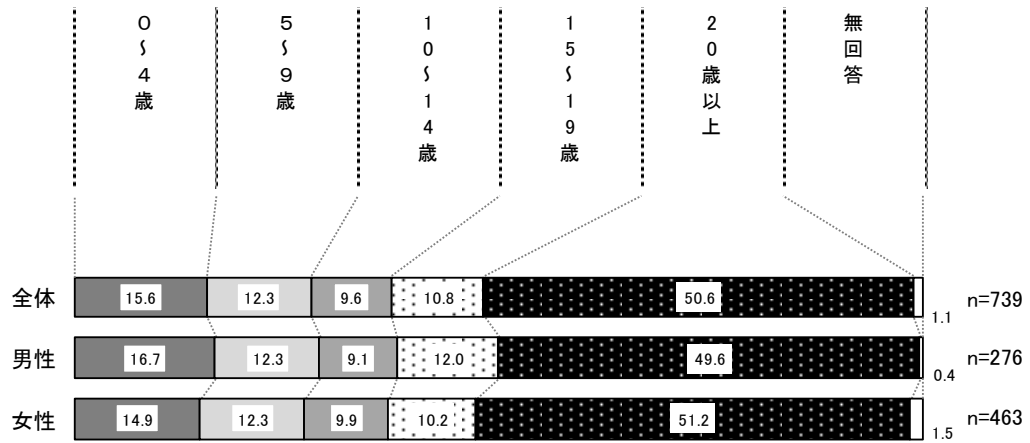
<子どもの有無>



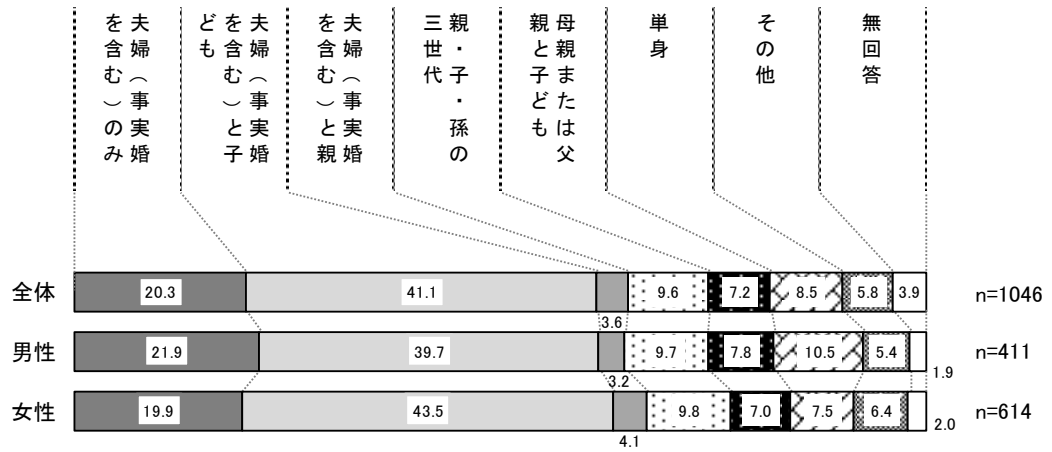
<子どもの人数>



<一番下の子どもの年齢>



<同居している家族構成>



2 男女の平等意識について

2-1 各分野における男女の地位

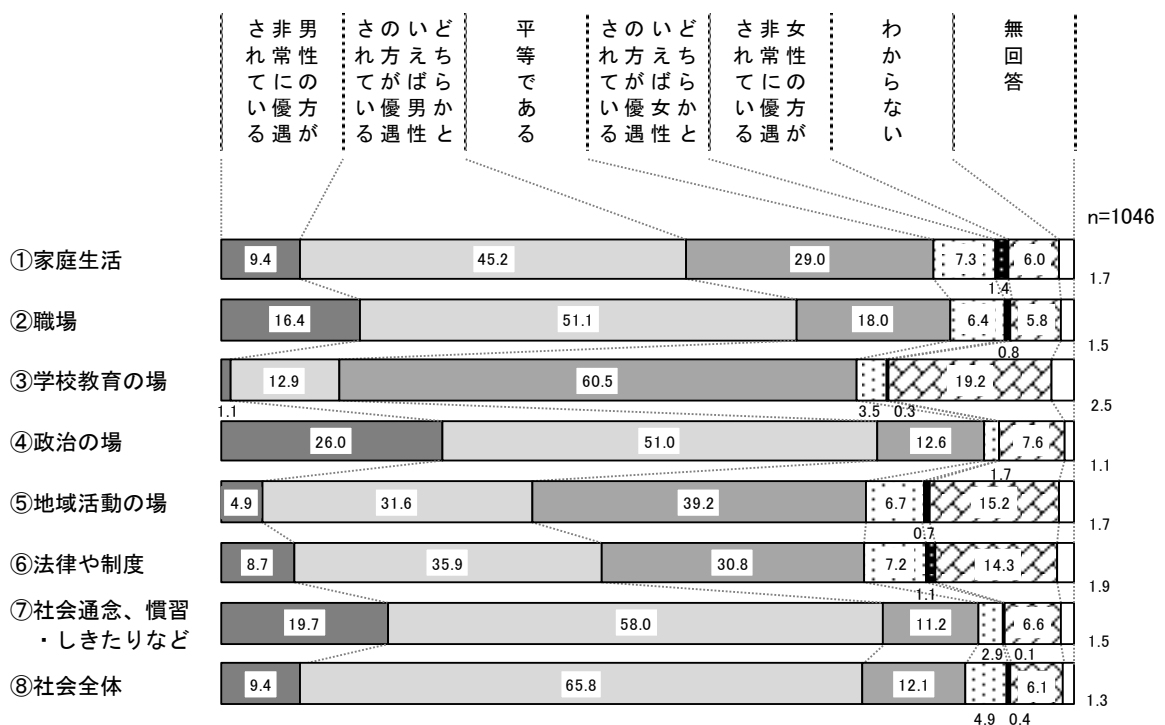
問1 今の社会において、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 次の①～⑧についてあなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

◆『男性優遇』が高い分野は、「社会通念、慣習・しきたりなど」、「政治の場」、「社会全体」、「職場」で6割以上

◆「平等である」は「学校教育の場」で約6割と他の分野に比べて高い

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
『男性優遇』	54.6%	67.5%	14.0%	77.0%	36.5%	44.6%	77.7%	75.2%
男性の方が非常に優遇	9.4%	16.4%	1.1%	26.0%	4.9%	8.7%	19.7%	9.4%
どちらかといえば男性	45.2%	51.1%	12.9%	51.0%	31.6%	35.9%	58.0%	65.8%
平等である	29.0%	18.0%	60.5%	12.6%	39.2%	30.8%	11.2%	12.1%
『女性優遇』	8.7%	7.2%	3.8%	1.7%	7.4%	8.3%	3.0%	5.3%
どちらかといえば女性	7.3%	6.4%	3.5%	1.7%	6.7%	7.2%	2.9%	4.9%
女性の方が非常に優遇	1.4%	0.8%	0.3%	—	0.7%	1.1%	0.1%	0.4%

『男性優遇』…「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合算
 『女性優遇』…「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合算

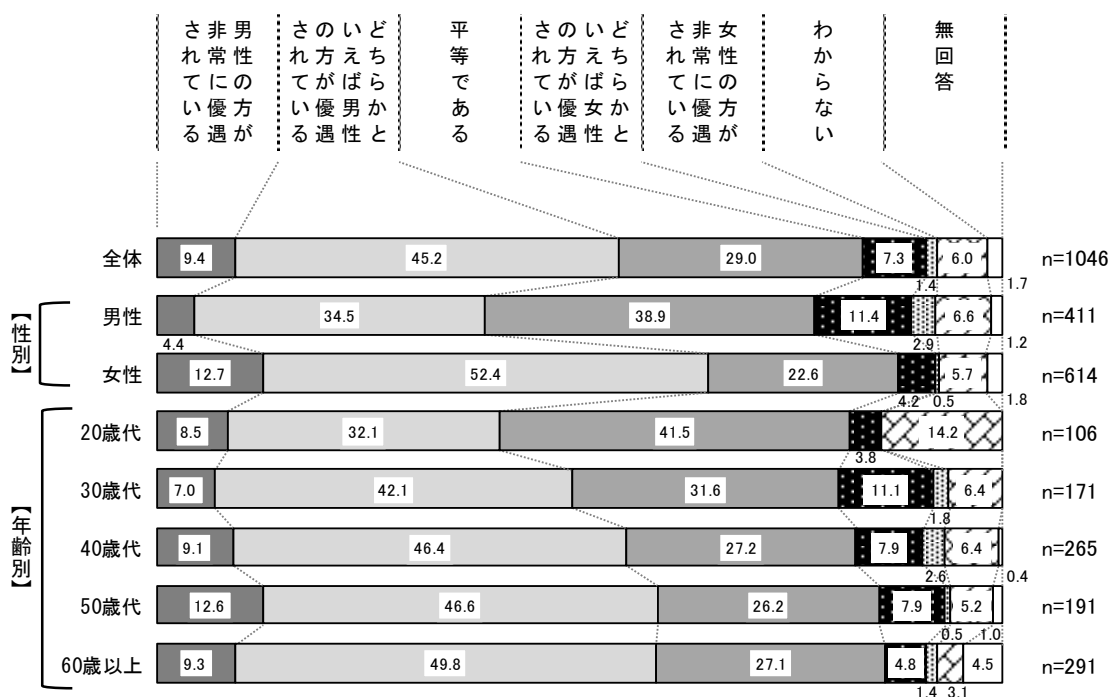


<①家庭生活>

◆『男性優遇』は54.6%、「平等である」は29.0%、『女性優遇』は8.7%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より26.2ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	54.6%	50.3%	55.5%
男性の方が非常に優遇されている	9.4%	7.9%	10.4%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	45.2%	42.4%	45.1%
平等である	29.0%	32.9%	27.1%
『女性優遇』	8.7%	9.2%	9.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.3%	8.1%	8.2%
女性の方が非常に優遇されている	1.4%	1.1%	1.1%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(45.2%)が最も高く、次いで「平等である」(29.0%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より高くなっています。

【性別】

性別では大きく意識が異なり、女性は『男性優遇』が65.1%と高く、男性(38.9%)より26.2ポイント高くなっています。

男性は『男性優遇』(38.9%)と「平等である」(38.9%)が同じ割合になっており、「平等である」が女性(22.6%)より16.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」が41.5%と高く、『男性優遇』（40.6%）とほぼ同じ割合になっています。

50歳代・60歳以上は『男性優遇』が約60%と高くなっています。

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、30歳代は特に意識の差が大きく、女性（66.3%）が男性（22.4%）より43.9ポイント高くなっています。

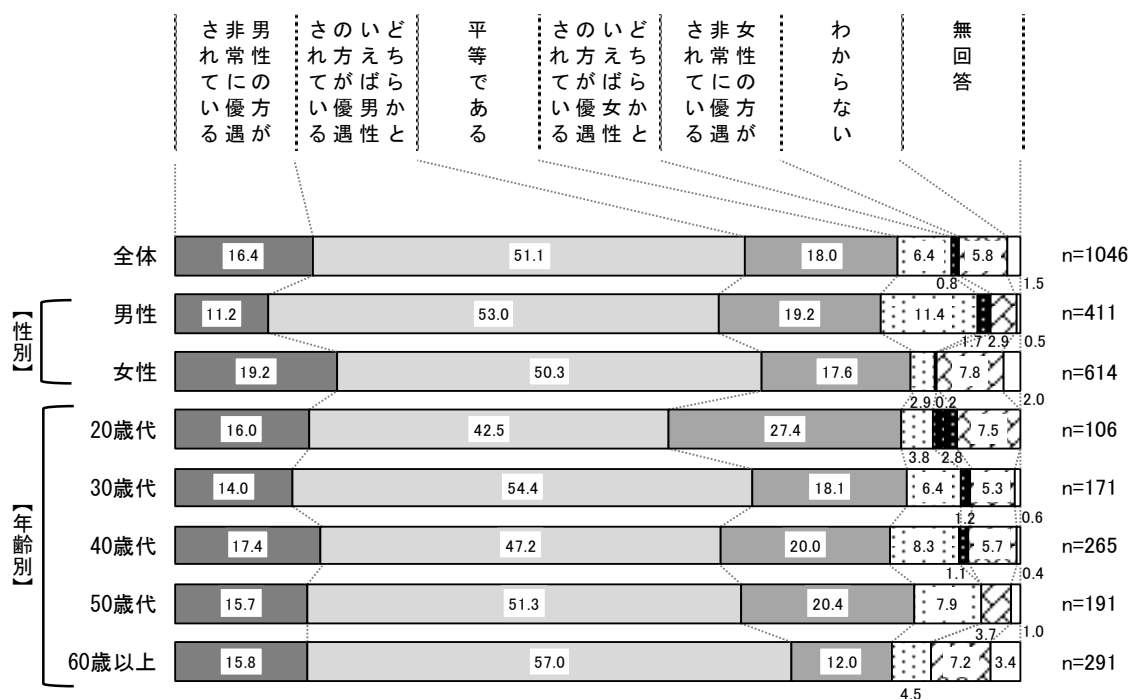
(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	54.6	9.4	45.2	29.0	8.7	7.3	1.4	6.0	1.7
20歳代	男性	43	23.3	—	23.3	48.8	2.3	2.3	—	25.6	—
	女性	63	52.4	14.3	38.1	36.5	4.8	4.8	—	6.3	—
30歳代	男性	67	22.4	—	22.4	44.8	23.9	20.9	3.0	9.0	—
	女性	104	66.3	11.5	54.8	23.1	5.8	4.8	1.0	4.8	—
40歳代	男性	94	40.4	6.4	34.0	36.2	18.1	12.8	5.3	5.3	—
	女性	171	63.7	10.5	53.2	22.2	6.5	5.3	1.2	7.0	0.6
50歳代	男性	80	43.8	3.8	40.0	38.8	15.1	13.8	1.3	1.3	1.3
	女性	111	70.3	18.9	51.4	17.1	3.6	3.6	—	8.1	0.9
60歳以上	男性	127	48.8	7.1	41.7	34.6	10.2	7.1	3.1	3.1	3.1
	女性	164	67.1	11.0	56.1	21.3	3.0	3.0	—	3.0	5.5

<②職場>

◆『男性優遇』は67.5%、「平等である」は18.0%、『女性優遇』は7.2%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	67.5%	63.9%	72.6%
男性の方が非常に優遇されている	16.4%	18.3%	22.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	51.1%	45.6%	50.4%
平等である	18.0%	19.4%	16.1%
『女性優遇』	7.2%	7.7%	2.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.4%	6.9%	2.9%
女性の方が非常に優遇されている	0.8%	0.8%	0.0%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.1%)が最も高く、次いで「平等である」(18.0%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より約50ポイント高くなっています。

【性別】

女性は『男性優遇』が69.5%と高く、男性(64.2%)より5.3ポイント高くなっています。男性は『女性優遇』(13.1%)が女性(3.1%)より10.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」(27.4%)が他の年代に比べて高くなっています。

60歳以上は『男性優遇』(72.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

(%)

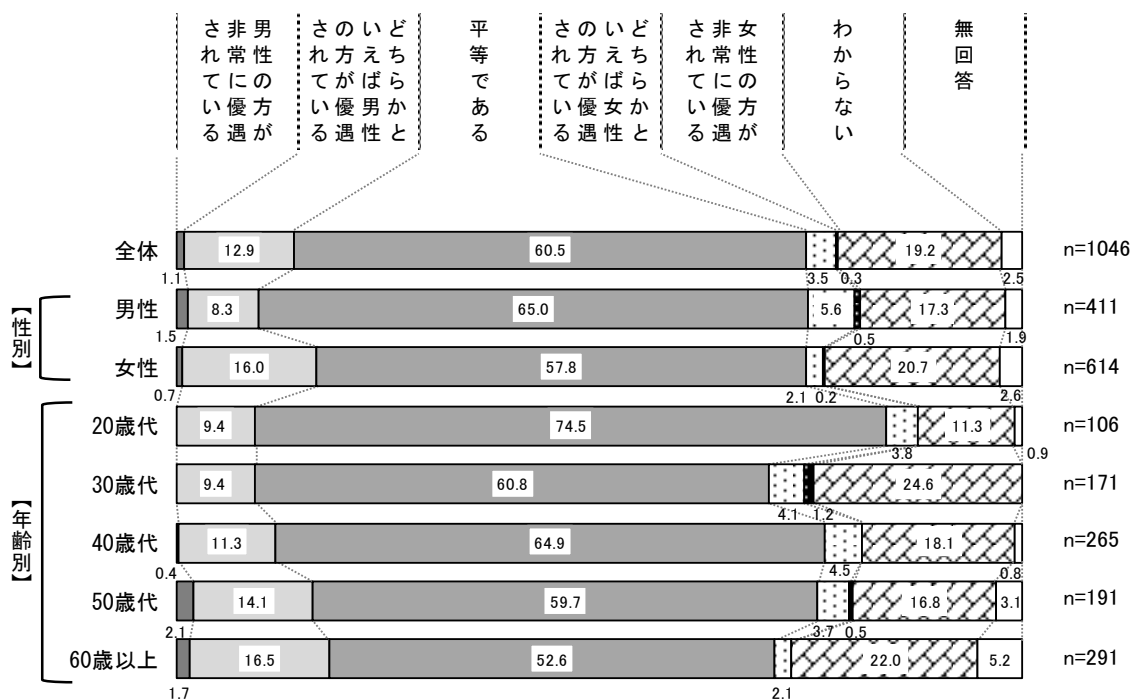
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	67.5	16.4	51.1	18.0	7.2	6.4	0.8	5.8	1.5
20歳代	男性	43	55.8	9.3	46.5	18.6	16.3	9.3	7.0	9.3	—
	女性	63	60.3	20.6	39.7	33.3	—	—	—	6.3	—
30歳代	男性	67	64.1	11.9	52.2	20.9	13.4	10.4	3.0	1.5	—
	女性	104	71.2	15.4	55.8	16.3	3.8	3.8	—	7.7	1.0
40歳代	男性	94	58.5	10.6	47.9	20.2	19.1	17.0	2.1	2.1	—
	女性	171	67.9	21.1	46.8	19.9	4.1	3.5	0.6	7.6	0.6
50歳代	男性	80	61.3	8.8	52.5	22.5	16.3	16.3	—	—	—
	女性	111	71.2	20.7	50.5	18.9	1.8	1.8	—	6.3	1.8
60歳以上	男性	127	73.2	13.4	59.8	15.7	5.5	5.5	—	3.9	1.6
	女性	164	72.6	17.7	54.9	9.1	3.7	3.7	—	9.8	4.9

<③学校教育の場>

◆『男性優遇』は14.0%、「平等である」は60.5%、『女性優遇』は3.8%

◆「平等である」が他の分野に比べて高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	14.0%	12.2%	16.1%
男性の方が非常に優遇されている	1.1%	1.5%	2.7%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	12.9%	10.7%	13.4%
平等である	60.5%	57.8%	63.4%
『女性優遇』	3.8%	3.7%	4.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	3.5%	3.2%	3.6%
女性の方が非常に優遇されている	0.3%	0.5%	0.7%



【全体】

「平等である」(60.5%) が最も高く、「平等である」が『男性優遇』より 40 ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(65.0%) が女性 (57.8%) より 7.2 ポイント高くなっています。
 女性は『男性優遇』(16.7%) が男性 (9.8%) より 6.9 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「平等である」(74.5%)が他の年代に比べて高くなっています。
60歳以上は『男性優遇』(18.2%)が他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

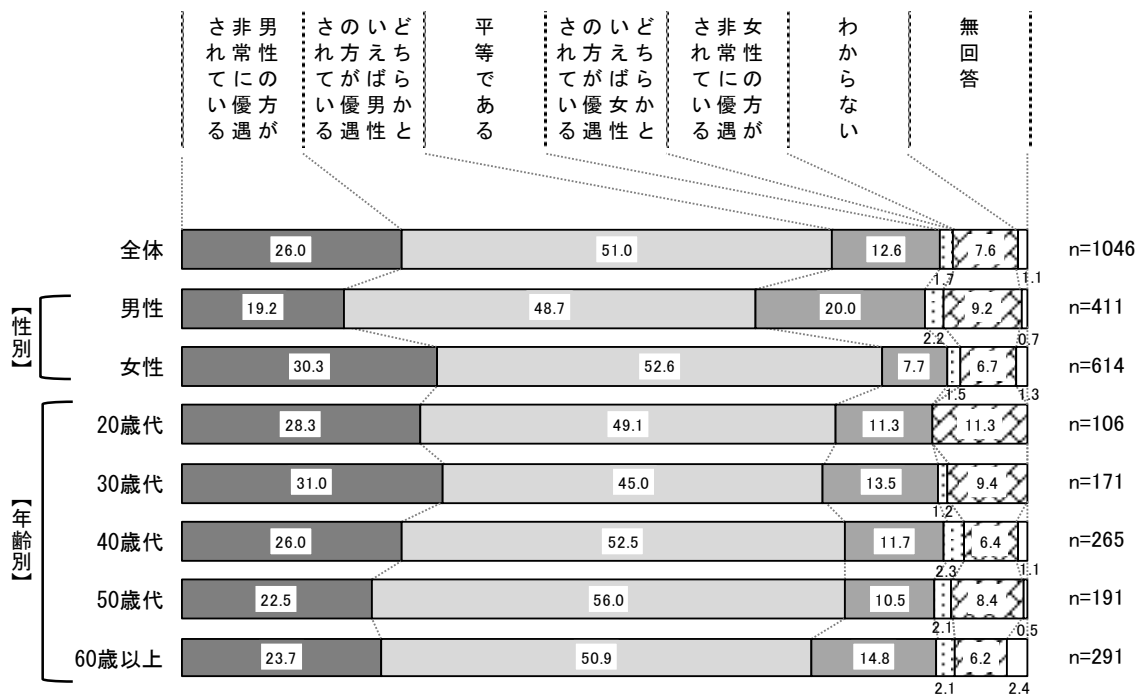
		(%)									
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全体		1,046	14.0	1.1	12.9	60.5	3.8	3.5	0.3	19.2	2.5
20歳代	男性	43	4.7	—	4.7	76.7	7.0	7.0	—	11.6	—
	女性	63	12.7	—	12.7	73.0	1.6	1.6	—	11.1	1.6
30歳代	男性	67	6.0	—	6.0	62.7	7.5	4.5	3.0	23.9	—
	女性	104	11.5	—	11.5	59.6	3.8	3.8	—	25.0	—
40歳代	男性	94	9.6	—	9.6	69.1	6.4	6.4	—	13.8	1.1
	女性	171	12.9	0.6	12.3	62.6	3.5	3.5	—	20.5	0.6
50歳代	男性	80	10.0	2.5	7.5	62.5	7.5	7.5	—	16.3	3.8
	女性	111	20.7	1.8	18.9	57.7	1.8	0.9	0.9	17.1	2.7
60歳以上	男性	127	13.3	3.1	10.2	60.6	3.9	3.9	—	18.9	3.1
	女性	164	21.9	0.6	21.3	46.3	0.6	0.6	—	24.4	6.7

<④政治の場>

◆『男性優遇』は77.0%、「平等である」は12.6%、『女性優遇』は1.7%

◆性別で見ると、女性は『男性優遇』が男性より15.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	77.0%	71.7%	76.4%
男性の方が非常に優遇されている	26.0%	26.9%	36.3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	51.0%	44.8%	40.1%
平等である	12.6%	13.9%	11.8%
『女性優遇』	1.7%	2.3%	9.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	1.7%	2.2%	0.8%
女性の方が非常に優遇されている	—	0.1%	8.9%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(51.0%) が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(26.0%) が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

性別では大きく意識が異なり、男性は「平等である」(20.0%) が女性(7.7%)より12.3ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(82.9%) が男性(67.9%)より15.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

どの年代でも『男性優遇』は7割以上となっており、大きな差はみられませんでした。

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

(%)

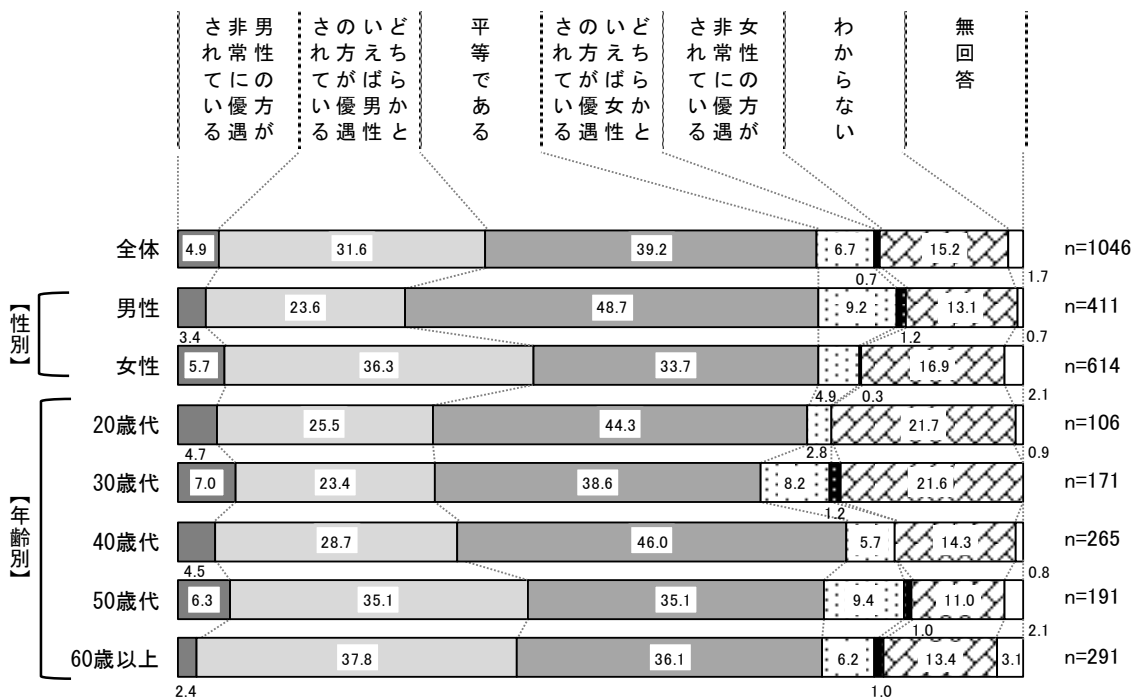
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	77.0	26.0	51.0	12.6	1.7	1.7	—	7.6	1.1
20歳代	男性	43	65.1	20.9	44.2	18.6	0.0	—	—	16.3	—
	女性	63	85.7	33.3	52.4	6.3	0.0	—	—	7.9	—
30歳代	男性	67	70.1	19.4	50.7	17.9	1.5	1.5	—	10.4	—
	女性	104	79.8	38.5	41.3	10.6	1.0	1.0	—	8.7	—
40歳代	男性	94	68.1	23.4	44.7	20.2	3.2	3.2	—	7.4	1.1
	女性	171	84.2	27.5	56.7	7.0	1.8	1.8	—	5.8	1.2
50歳代	男性	80	70.0	15.0	55.0	17.5	2.5	2.5	—	10.0	—
	女性	111	84.7	27.9	56.8	5.4	1.8	1.8	—	7.2	0.9
60歳以上	男性	127	66.1	18.1	48.0	22.8	2.4	2.4	—	7.1	1.6
	女性	164	81.0	28.0	53.0	8.5	1.8	1.8	—	5.5	3.0

<⑤地域活動の場>

◆『男性優遇』は36.5%、「平等である」は39.2%、『女性優遇』は7.4%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より15.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	36.5%	36.0%	42.7%
男性の方が非常に優遇されている	4.9%	4.9%	8.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	31.6%	31.1%	34.2%
平等である	39.2%	35.4%	30.8%
『女性優遇』	7.4%	9.2%	7.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.7%	8.5%	6.4%
女性の方が非常に優遇されている	0.7%	0.7%	0.7%



【全体】

「平等である」(39.2%) が最も高く、次いで「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(31.6%) が高くなっています。

「平等である」が『男性優遇』より若干高くなっています。

【性別】

性別では大きく意識が異なり、男性は「平等である」(48.7%) が女性(33.7%)より15.0ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(42.0%) が男性(27.0%)より15.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

40歳代は「平等である」(46.0%)が他の年代に比べて高くなっています。

50歳代・60歳以上は『男性優遇』が約40%と高くなっています。

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、50歳代は特に意識の差が大きく、女性(53.1%)が男性(25.1%)より28.0ポイント高くなっています。

(%)

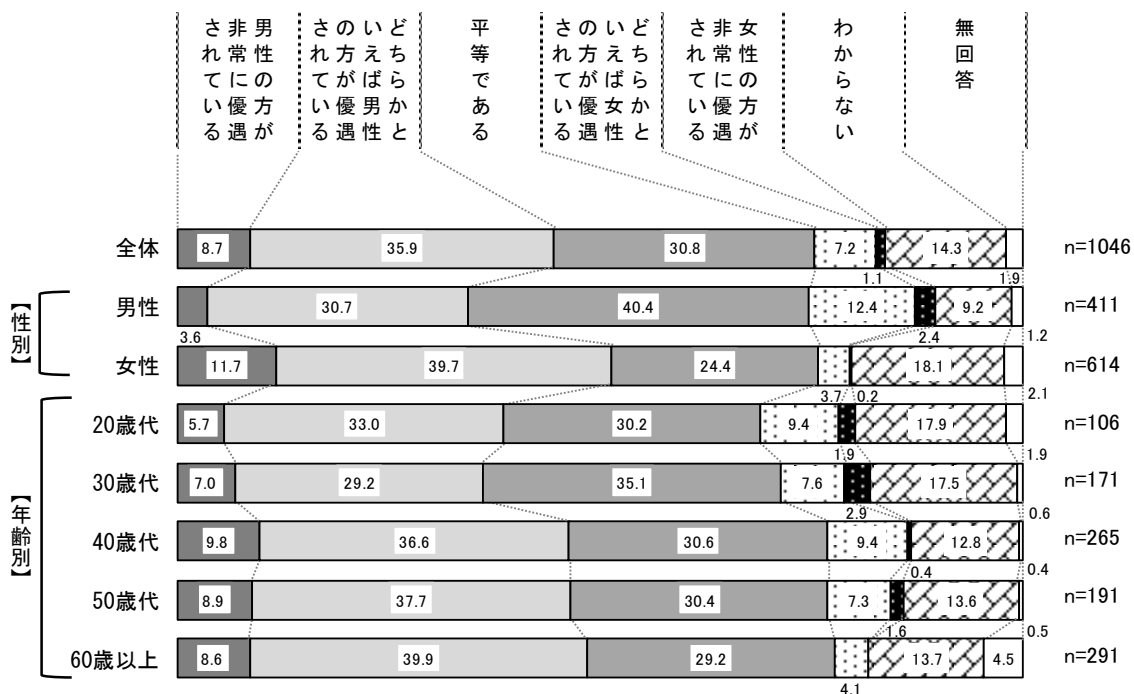
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	36.5	4.9	31.6	39.2	7.4	6.7	0.7	15.2	1.7
20歳代	男性	43	21.0	4.7	16.3	58.1	4.7	4.7	—	16.3	—
	女性	63	36.5	4.8	31.7	34.9	1.6	1.6	—	25.4	1.6
30歳代	男性	67	19.4	4.5	14.9	50.7	13.4	10.4	3.0	16.4	—
	女性	104	37.5	8.7	28.8	30.8	6.7	6.7	—	25.0	—
40歳代	男性	94	23.4	4.3	19.1	55.3	10.6	10.6	—	10.6	—
	女性	171	38.6	4.7	33.9	40.9	2.9	2.9	—	16.4	1.2
50歳代	男性	80	25.1	1.3	23.8	47.5	13.8	12.5	1.3	12.5	1.3
	女性	111	53.1	9.9	43.2	26.1	8.1	7.2	0.9	9.9	2.7
60歳以上	男性	127	37.0	3.1	33.9	40.2	8.7	7.1	1.6	12.6	1.6
	女性	164	42.7	1.8	40.9	32.9	6.1	5.5	0.6	14.0	4.3

<⑥法律や制度>

◆『男性優遇』は44.6%、「平等である」は30.8%、『女性優遇』は8.3%

◆性別で見ると、女性は『男性優遇』が男性より17.1ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	44.6%	36.9%	41.7%
男性の方が非常に優遇されている	8.7%	7.1%	11.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	35.9%	29.8%	30.7%
平等である	30.8%	38.0%	34.9%
『女性優遇』	8.3%	8.7%	5.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	7.2%	7.5%	4.4%
女性の方が非常に優遇されている	1.1%	1.2%	1.0%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(35.9%)が最も高く、次いで「平等である」(30.8%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より高くなっています。

【性別】

性別では大きく意識が異なり、男性は「平等である」(40.4%)が女性(24.4%)より16.0ポイント高く、『女性優遇』(14.8%)が女性(3.9%)より10.9ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(51.4%)が男性(34.3%)より17.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

60歳以上は『男性優遇』（48.5%）が他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

どの年代も男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

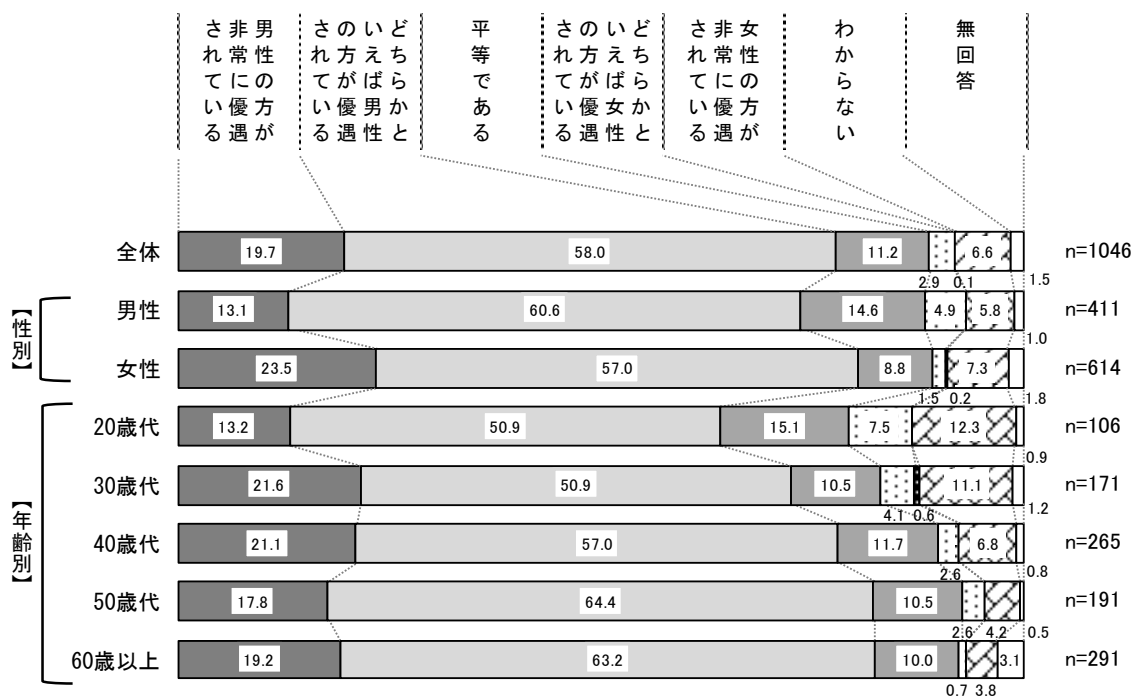
(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇 されている	どちらかといえば男性 の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性 の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇 されている	わからない	無回答
全体		1,046	44.6	8.7	35.9	30.8	8.3	7.2	1.1	14.3	1.9
20歳代	男性	43	25.6	2.3	23.3	34.9	23.3	18.6	4.7	16.3	—
	女性	63	47.6	7.9	39.7	27.0	3.2	3.2	—	19.0	3.2
30歳代	男性	67	23.9	—	23.9	44.8	19.4	11.9	7.5	11.9	—
	女性	104	44.2	11.5	32.7	28.8	4.8	4.8	—	21.2	1.0
40歳代	男性	94	38.3	6.4	31.9	36.2	19.2	18.1	1.1	6.4	—
	女性	171	50.9	11.7	39.2	27.5	4.7	4.7	—	16.4	0.6
50歳代	男性	80	32.6	3.8	28.8	42.5	13.8	11.3	2.5	11.3	—
	女性	111	56.7	12.6	44.1	21.6	5.4	4.5	0.9	15.3	0.9
60歳以上	男性	127	40.9	3.9	37.0	41.7	7.1	7.1	—	6.3	3.9
	女性	164	54.3	12.2	42.1	19.5	1.8	1.8	—	19.5	4.9

<⑦社会通念、慣習・しきたりなど>

◆『男性優遇』は77.7%、「平等である」は11.2%、『女性優遇』は3.0%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	77.7%	74.1%	76.4%
男性の方が非常に優遇されている	19.7%	20.8%	27.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	58.0%	53.3%	48.9%
平等である	11.2%	13.0%	11.0%
『女性優遇』	3.0%	2.7%	2.4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2.9%	2.4%	2.2%
女性の方が非常に優遇されている	0.1%	0.3%	0.2%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(58.0%)が最も高く、次いで「男性の方が非常に優遇されている」(19.7%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(14.6%)が女性(8.8%)より5.8ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(80.5%)が男性(73.7%)より6.8ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『男性優遇』（64.1%）は他の年代に比べて低く、「平等である」（15.1%）は他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっています。

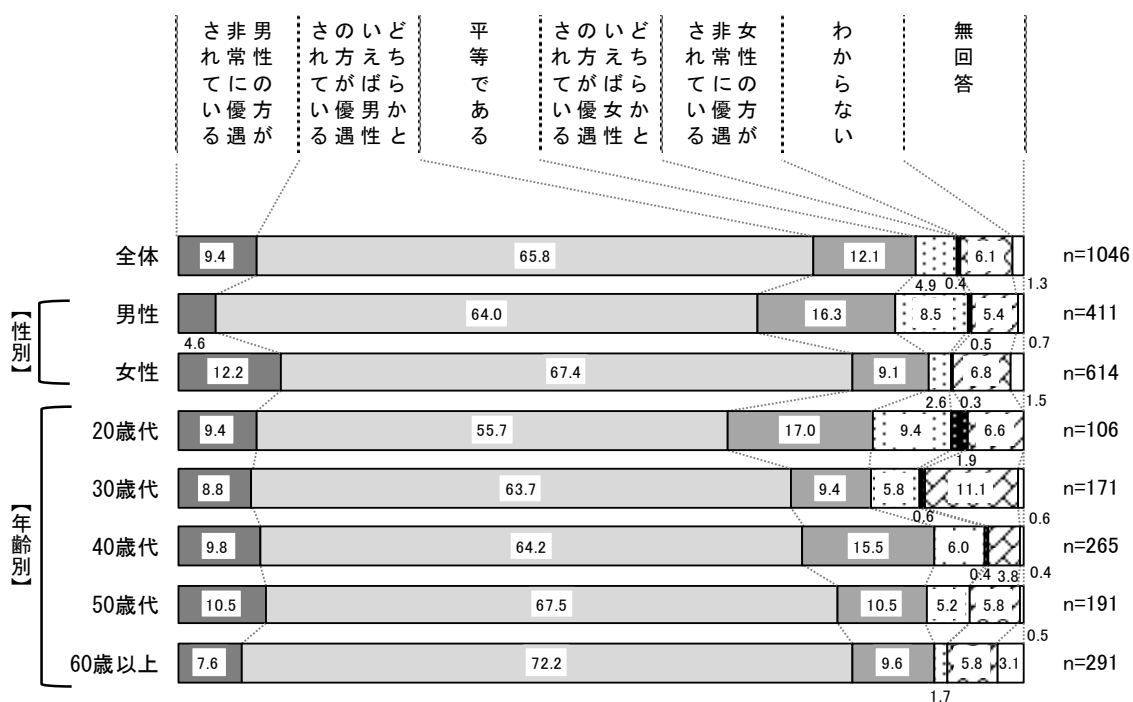
		(%)									
		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	77.7	19.7	58.0	11.2	3.0	2.9	0.1	6.6	1.5
20歳代	男性	43	58.2	7.0	51.2	18.6	9.3	9.3	—	11.6	2.3
	女性	63	68.3	17.5	50.8	12.7	6.3	6.3	—	12.7	—
30歳代	男性	67	68.7	19.4	49.3	9.0	9.0	9.0	—	13.4	—
	女性	104	75.0	23.1	51.9	11.5	2.0	1.0	1.0	9.6	1.9
40歳代	男性	94	69.2	16.0	53.2	20.2	4.3	4.3	—	6.4	—
	女性	171	83.1	24.0	59.1	7.0	1.8	1.8	—	7.0	1.2
50歳代	男性	80	76.3	5.0	71.3	16.3	6.3	6.3	—	1.3	—
	女性	111	86.5	27.0	59.5	6.3	—	—	—	6.3	0.9
60歳以上	男性	127	83.5	15.0	68.5	11.0	0.8	0.8	—	2.4	2.4
	女性	164	81.7	22.6	59.1	9.1	0.6	0.6	—	4.9	3.7

<⑧社会全体>

◆『男性優遇』は75.2%、「平等である」は12.1%、『女性優遇』は5.3%

◆性別でみると、女性は『男性優遇』が男性より11.0ポイント高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『男性優遇』	75.2%	69.9%	74.9%
男性の方が非常に優遇されている	9.4%	10.1%	15.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	65.8%	59.8%	59.3%
平等である	12.1%	15.0%	11.2%
『女性優遇』	5.3%	4.8%	2.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4.9%	3.8%	2.4%
女性の方が非常に優遇されている	0.4%	1.0%	0.5%



【全体】

「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(65.8%)が最も高く、次いで「平等である」(12.1%)が高くなっています。

『男性優遇』が「平等である」より60ポイント以上高くなっています。

【性別】

男性は「平等である」(16.3%)が女性(9.1%)より7.2ポイント高く、『女性優遇』(9.0%)が女性(2.9%)より6.1ポイント高くなっています。

女性は『男性優遇』(79.6%)が男性(68.6%)より11.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『男性優遇』（65.1%）が他の年代に比べて低くなっています。

【性・年齢別】

60歳以上を除くすべての年代で、男性に比べ女性の方が『男性優遇』が高くなっていますが、40歳代は特に意識の差が大きく、女性（81.3%）が男性（60.7%）より20.6ポイント高くなっています。

(%)

		件数 (件)	『男性優遇』	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	『女性優遇』	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない	無回答
全体		1,046	75.2	9.4	65.8	12.1	5.3	4.9	0.4	6.1	1.3
20歳代	男性	43	60.5	4.7	55.8	11.6	18.6	18.6	—	9.3	—
	女性	63	68.3	12.7	55.6	20.6	6.4	3.2	3.2	4.8	—
30歳代	男性	67	64.2	4.5	59.7	10.4	14.9	13.4	1.5	10.4	—
	女性	104	77.8	11.5	66.3	8.7	1.0	1.0	—	11.5	1.0
40歳代	男性	94	60.7	6.4	54.3	28.7	8.5	7.4	1.1	2.1	—
	女性	171	81.3	11.7	69.6	8.2	5.3	5.3	—	4.7	0.6
50歳代	男性	80	67.6	6.3	61.3	17.5	10.0	10.0	—	5.0	—
	女性	111	85.6	13.5	72.1	5.4	1.8	1.8	—	6.3	0.9
60歳以上	男性	127	80.4	2.4	78.0	11.0	2.4	2.4	—	3.9	2.4
	女性	164	79.3	11.6	67.7	8.5	1.2	1.2	—	7.3	3.7

【前回調査との比較】

●『男性優遇』の割合

前回調査と比べて、『男性優遇』は8分野すべてで増加しており、「法律や制度」の増加（7.7ポイント）が最も大きくなっています。

性別で見ると、男性は「職場」、「法律や制度」、「社会全体」で約9ポイント増加し、女性は「家庭生活」で増加が最も大きくなっています。

(%)

		①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
全体	平成 28 年	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
	平成 22 年	50.3	63.9	12.2	71.7	36.0	36.9	74.1	69.9
	差	4.3	3.6	1.8	5.3	0.5	7.7	3.6	5.3
男性	平成 28 年	38.9	64.2	9.8	67.9	27.0	34.3	73.7	68.6
	平成 22 年	39.0	54.9	9.6	63.7	26.7	24.9	69.1	59.4
	差	-0.1	9.3	0.2	4.2	0.3	9.4	4.6	9.2
女性	平成 28 年	65.1	69.5	16.7	82.9	42.0	51.4	80.5	79.6
	平成 22 年	58.7	71.0	14.2	77.9	43.1	46.1	78.3	77.9
	差	6.4	-1.5	2.5	5.0	-1.1	5.3	2.2	1.7

●「平等である」の割合

「平等である」は「地域活動の場」（3.8ポイント増加）と「学校教育の場」（2.7ポイント増加）で増加し、他の分野ではいずれも減少しています。特に「法律や制度」（7.2ポイント減少）の減少が最も大きくなっています。

性別で見ると、男性は「法律や制度」で約9ポイント減少し、女性は「家庭生活」で減少が最も大きくなっています。また、「地域活動の場」は男女ともに増加しています。

(%)

		①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
全体	平成 28 年	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
	平成 22 年	32.9	19.4	57.8	13.9	35.4	38.0	13.0	15.0
	差	-3.9	-1.4	2.7	-1.3	3.8	-7.2	-1.8	-2.9
男性	平成 28 年	38.9	19.2	65.0	20.0	48.7	40.4	14.6	16.3
	平成 22 年	40.4	26.2	59.2	21.3	42.4	49.8	17.7	22.9
	差	-1.5	-7.0	5.8	-1.3	6.3	-9.4	-3.1	-6.6
女性	平成 28 年	22.6	17.6	57.8	7.7	33.7	24.4	8.8	9.1
	平成 22 年	27.5	14.2	56.9	8.4	30.2	29.2	9.5	9.1
	差	-4.9	3.4	0.9	-0.7	3.5	-4.8	-0.7	±0.0

【全国調査との比較】

●『男性優遇』の割合

国の調査（平成 28 年実施）と比べると、『男性優遇』の意識については、「家庭生活」と「職場」では本市が国を 10 ポイント以上上回っています。

(%)

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
春日井市	54.6	67.5	14.0	77.0	36.5	44.6	77.7	75.2
国	43.4	56.6	16.0	73.5	33.5	45.2	70.4	74.2
差	11.2	10.9	-2.0	3.5	3.0	-0.6	7.3	1.0

●「平等である」の割合

「平等である」については、すべての分野で国を下回っており、特に「家庭生活」では本市（29.0%）は国（47.4%）を 18.4 ポイント下回っています。

(%)

	①家庭生活	②職場	③学校教育の場	④政治の場	⑤地域活動の場	⑥法律や制度	⑦社会通念、慣習等	⑧社会全体
春日井市	29.0	18.0	60.5	12.6	39.2	30.8	11.2	12.1
国	47.4	29.7	66.4	18.9	47.2	40.8	21.8	21.1
差	-18.4	-11.7	-5.9	-6.3	-8.0	-10.0	-10.6	-9.0

【中学生・高校生との比較】

●『男性優遇』の割合

中学生・高校生と比べると、『男性優遇』の意識については、「家庭生活」と「社会全体」では一般市民が中学生・高校生より 40 ポイント以上高く、「学校教育の場」でも約 10 ポイント高くなっています。

(%)

	①家庭生活	③学校教育の場	⑧社会全体
中学生	9.4	4.8	25.3
高校生	9.0	4.2	26.5
一般市民	54.6	14.0	75.2

●「平等である」の割合

「平等である」については、「家庭生活」では中学生・高校生が一般市民より約 30 ポイント高く、「社会全体」でも約 10 ポイント高くなっています。「学校教育の場」では一般市民（60.5%）は中学生（49.5%）より 11.0 ポイント高く、高校生（58.0%）とはほぼ同じ割合となっています。

(%)

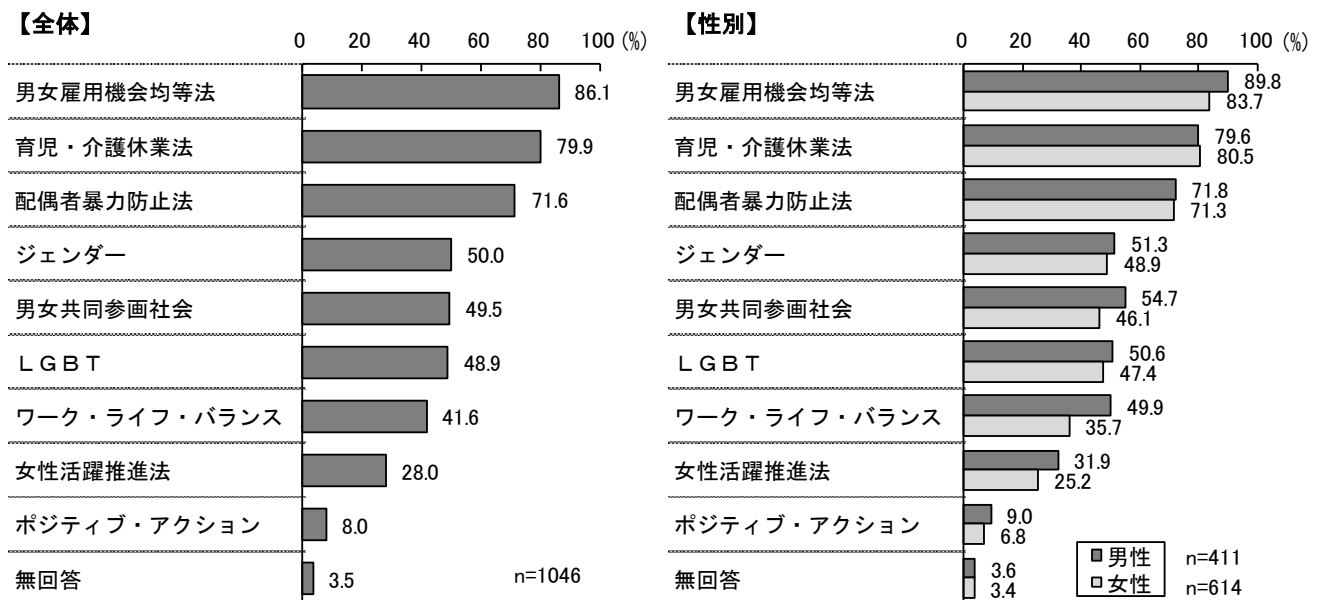
	①家庭生活	③学校教育の場	⑧社会全体
中学生	58.3	49.5	20.7
高校生	62.1	58.0	21.9
一般市民	29.0	60.5	12.1

2-2 男女平等に関する法律・用語等の認知度

問2 次の言葉の中で、あなたが知っているまたは聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「配偶者暴力防止法」の認知度が7割以上
- ◆ 前回調査と比べて、「ワーク・ライフ・バランス」と「ジェンダー」は10ポイント以上増加し、「育児・介護休業法」と「配偶者暴力防止法」は5ポイント以上減少
- ◆ 「男女共同参画社会」の認知度は20歳代で7割以上と特に高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
男女雇用機会均等法	86.1%	89.8%
育児・介護休業法	79.9%	87.4%
配偶者暴力防止法	71.6%	78.6%
ジェンダー	50.0%	37.3%
男女共同参画社会	49.5%	47.4%
LGBT	48.9%	—
ワーク・ライフ・バランス	41.6%	29.6%
女性活躍推進法	28.0%	—
ポジティブ・アクション	8.0%	11.0%



【全体】

「男女雇用機会均等法」(86.1%)が最も高く、次いで「育児・介護休業法」(79.9%)、「配偶者暴力防止法」(71.6%)が高くなっています。

【性別】

男性は「育児・介護休業法」を除くすべての項目で女性より高く、特に「ワーク・ライフ・バランス」(49.9%)は女性(35.7%)より14.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「男女共同参画社会」（72.6%）が70%以上と他の年代に比べて特に高く、「ジェンダー」、「ワーク・ライフ・バランス」「女性活躍推進法」も他の年代に比べて高くなっています。

また、20歳代は「配偶者暴力防止法」、30歳代・40歳代は「男女共同参画社会」、60歳以上は「ジェンダー」が他の年代に比べて低くなっています。

(%)

	件数 (件)	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	配偶者暴力防止法	ジェンダー	男女共同参画社会	LGBT	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	ポジティブ・アクション	無回答
20歳代	106	83.0	69.8	54.7	66.0	72.6	46.2	49.1	34.0	8.5	4.7
30歳代	171	84.2	78.4	63.7	53.8	40.4	54.4	44.4	25.7	4.7	5.3
40歳代	265	85.3	75.8	74.3	50.9	40.0	48.7	41.1	23.8	4.5	3.8
50歳代	191	90.6	86.9	75.4	47.6	48.7	46.6	38.7	27.2	8.4	2.1
60歳以上	291	86.3	84.2	77.0	41.9	55.7	47.4	38.8	31.3	11.7	2.7

【全国調査との比較】

「ジェンダー」の認知度は国より約10ポイント高くなっていますが、「男女共同参画社会」、「女性活躍推進法」、「ポジティブ・アクション」の認知度は10ポイント以上低くなっています。

(%)

	男女雇用機会均等法	ジェンダー	男女共同参画社会	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	ポジティブ・アクション
春日井市	86.1	50.0	49.5	41.6	28.0	8.0
国	80.1	40.3	66.6	42.2	39.3	18.0
差	6.0	9.7	-17.1	-0.6	-11.3	-10.0

3 家庭生活について

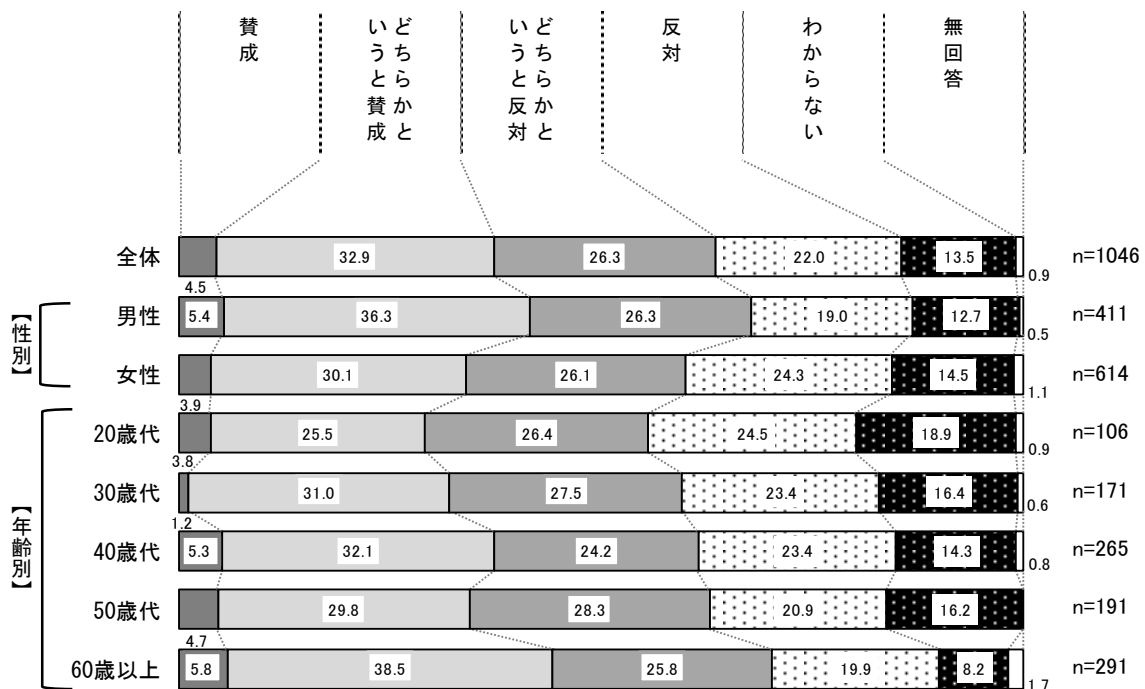
3-1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

- ◆『概ね賛成』は37.4%、『概ね反対』は48.3%
- ◆10年前と比較して賛成・反対の割合は大きく変わっていない
- ◆『概ね賛成』は男性が女性より高く、『概ね反対』は女性が男性より高い

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『概ね賛成』	37.4%	38.8%	37.6%
賛成	4.5%	6.2%	7.3%
どちらかという賛成	32.9%	32.6%	30.3%
『概ね反対』	48.3%	49.0%	51.1%
どちらかという反対	26.3%	28.3%	24.9%
反対	22.0%	20.7%	26.2%
わからない	13.5%	11.2%	9.7%

『概ね賛成』…「賛成」と「どちらかという賛成」を合算
 『概ね反対』…「反対」と「どちらかという反対」を合算



【全体】

『概ね反対』(48.3%)が『概ね賛成』(37.4%)より10.9ポイント高くなっています。

【性別】

男性は『概ね賛成』（41.7%）が女性（34.0%）より 7.7 ポイント高く、女性は『概ね反対』（50.4%）が男性（45.3%）より 5.1 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は『概ね賛成』（29.3%）が 30%未満と他の年代に比べて低くなっています。

【性・年齢別】

30 歳代のみ男女の意識の差が大きく、男性は『概ね反対』（62.7%）が女性（43.3%）より 19.4 ポイント高く、女性は『概ね賛成』（37.5%）が男性（23.9%）より 13.6 ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答	
全 体	1,046	37.4	4.5	32.9	48.3	26.3	22.0	13.5	0.9	
20 歳代	男性	43	32.6	4.7	27.9	48.8	27.9	20.9	18.6	—
	女性	63	27.0	3.2	23.8	52.4	25.4	27.0	19.0	1.6
30 歳代	男性	67	23.9	1.5	22.4	62.7	29.9	32.8	13.4	—
	女性	104	37.5	1.0	36.5	43.3	26.0	17.3	18.3	1.0
40 歳代	男性	94	44.7	5.3	39.4	41.5	18.1	23.4	13.8	—
	女性	171	33.4	5.3	28.1	50.9	27.5	23.4	14.6	1.2
50 歳代	男性	80	43.8	5.0	38.8	40.0	30.0	10.0	16.3	—
	女性	111	27.9	4.5	23.4	55.8	27.0	28.8	16.2	—
60 歳以上	男性	127	50.4	7.9	42.5	41.0	27.6	13.4	7.1	1.6
	女性	164	39.7	4.3	35.4	49.4	24.4	25.0	9.1	1.8

【職業別】

『概ね賛成』は「専業主婦・専業主夫」(47.7%)、「自営業」(46.1%)で高く、『概ね反対』は「派遣・契約社員」(63.4%)、「公務員」(60.4%)で高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
会社員	320	31.9	4.4	27.5	50.1	26.3	23.8	17.2	0.9
公務員	53	28.3	—	28.3	60.4	18.9	41.5	11.3	—
派遣・契約社員	30	20.0	—	20.0	63.4	36.7	26.7	16.7	—
パートタイム・アルバイト	210	35.7	3.3	32.4	52.4	30.0	22.4	11.4	0.5
自営業	65	46.1	12.3	33.8	47.7	36.9	10.8	6.2	—
農業	3	—	—	—	100.0	100.0	—	—	—
内職・在宅就業	9	33.3	—	33.3	22.2	11.1	11.1	44.4	—
専業主婦・専業主夫	174	47.7	7.5	40.2	39.7	23.0	16.7	10.9	1.7
学生	24	37.5	4.2	33.3	41.7	25.0	16.7	20.8	—
無職	100	41.0	2.0	39.0	41.0	19.0	22.0	16.0	2.0
その他	27	40.7	—	40.7	51.8	14.8	37.0	7.4	—

【性・就労状況別】

仕事に就いている女性は『概ね反対』(56.4%)が高く、仕事に就いている男性(46.5%)より9.9ポイント高くなっています。

(%)

		件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
仕事に就いている	男性	325	40.6	5.5	35.1	46.5	27.1	19.4	12.9	—
	女性	365	27.1	3.0	24.1	56.4	29.6	26.8	15.3	1.1
仕事に就いていない	男性	74	45.9	5.4	40.5	37.8	21.6	16.2	13.5	2.7
	女性	224	44.2	5.4	38.8	41.1	21.9	19.2	13.4	1.3

【子どもの有無別】

『概ね賛成』は、子どもがいる人（40.2%）がいない人（31.3%）より8.9ポイント高くなっています。

	件数 (件)	『概ね賛成』	賛成	どちらかという と賛成	『概ね反対』	どちらかという と反対	反対	わからない	無回答
子どもがいる	739	40.2	5.4	34.8	47.4	25.7	21.7	11.5	0.9
子どもはいない	220	31.3	1.8	29.5	47.3	25.0	22.3	20.5	0.9

(%)

【全国調査との比較】

本市・国ともに『概ね反対』が『概ね賛成』より10ポイント以上高くなっています。

性別でみると、国の女性は『概ね反対』が男性より9.1ポイント高く、本市の女性は男性より5.1ポイント高くなっています。

	春日井市			国(平成28年)		
		男性	女性		男性	女性
『概ね賛成』	37.4	41.7	34.0	40.6	44.7	37.0
賛成	4.5	5.4	3.9	8.8	9.4	8.3
どちらかという と賛成	32.9	36.3	30.1	31.7	35.3	28.7
『概ね反対』	48.3	45.3	50.4	54.3	49.4	58.5
どちらかという と反対	26.3	26.3	26.1	34.8	32.2	37.0
反対	22.0	19.0	24.3	19.5	17.2	21.5
わからない	13.5	12.7	14.5	5.1	5.8	4.5

(%)

【中学生・高校生との比較】

中学生は『概ね賛成』（41.2%）が高く、『概ね反対』（31.9%）より約10ポイント高くなっています。

高校生と一般市民は『概ね反対』が高く、『概ね賛成』より約10ポイント高くなっています。

	中学生	高校生	一般市民
『概ね賛成』	41.2%	29.7%	37.4%
賛成	13.4%	7.5%	4.5%
どちらかという と賛成	27.8%	22.2%	32.9%
『概ね反対』	31.9%	39.1%	48.3%
どちらかという と反対	16.7%	22.9%	26.3%
反対	15.2%	16.2%	22.0%
わからない	26.3%	30.4%	13.5%

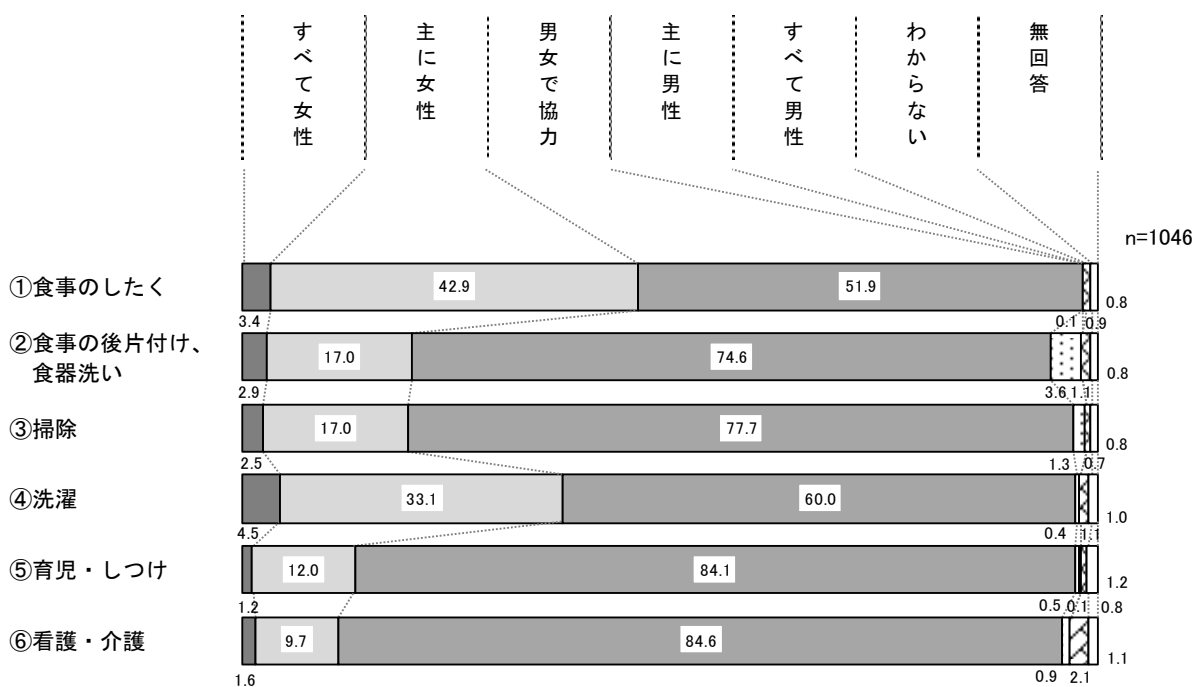
3-2 家庭内の仕事の分担

問4 あなたは、次のような家庭内の仕事を、主に誰が受けもつのが理想だと思いますか。
次の①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

- ◆家庭内の仕事の分担の理想は「男女で協力」。「看護・介護」、「育児・しつけ」では8割以上
- ◆「食事のしたく」、「洗濯」では3割以上の方が『主として女性』が理想

	①食事のしたく	②食事の後片付け、食器洗い	③掃除	④洗濯	⑤育児・しつけ	⑥看護・介護
『主として女性』	46.3%	19.9%	19.5%	37.6%	13.2%	11.3%
すべて女性	3.4%	2.9%	2.5%	4.5%	1.2%	1.6%
主に女性	42.9%	17.0%	17.0%	33.1%	12.0%	9.7%
男女で協力	51.9%	74.6%	77.7%	60.6%	84.1%	84.6%
『主として男性』	0.1%	3.6%	1.3%	0.4%	0.6%	0.9%
主に男性	0.1%	3.6%	1.3%	0.4%	0.5%	0.9%
すべて男性	—	—	—	—	0.1%	—

『主として女性』…「すべて女性」と「主に女性」を合算
『主として男性』…「すべて男性」と「主に男性」を合算



【全体】(①～⑥)

家庭内の仕事の分担の＜理想＞についてみると、「食事のしたく」・「洗濯」は『主として女性』が3割以上と高くなっています。

「看護・介護」・「育児・しつけ」は「男女で協力」が8割以上と高くなっています。

【性別】

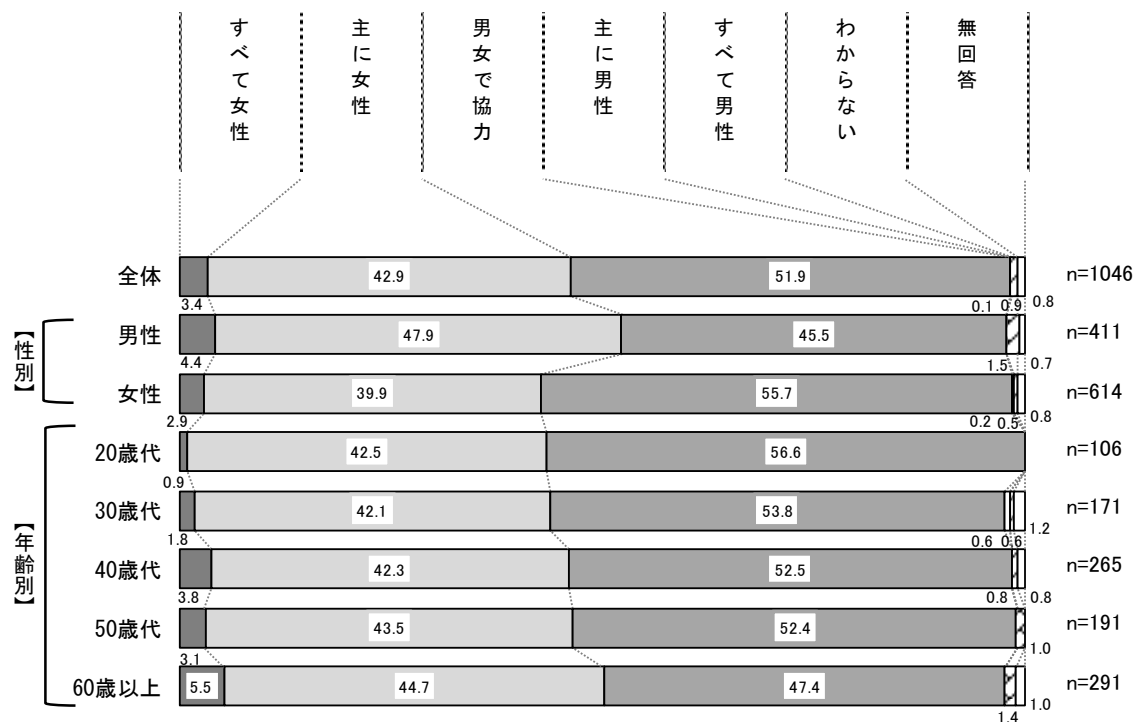
どの仕事についても、『主として女性』は女性より男性の方が高くなっています。

【年齢別】

どの仕事についても、『主として女性』は60歳以上が最も高くなっています。

<①食事のしたく>

◆理想は「男女で協力」が51.9%、『主として女性』が46.3%



【全体】

「男女で協力」(51.9%)が最も高く、次いで「主に女性」(42.9%)が高くなっています。

【性別】

男性は『主として女性』(52.3%)が女性(42.8%)より9.5ポイント高く、『主として女性』が「男女で協力」(45.5%)より若干高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「男女で協力」は高く、20歳代(56.6%)が最も高くなっています。

【共働き状況別】

共働き家庭は「男女で協力」（54.6%）が他の家庭に比べて若干高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	48.4	3.6	44.8	49.8	0.1	0.1	—	0.8	0.8
共働き家庭	141	44.7	1.4	43.3	54.6	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	49.2	2.6	46.6	50.4	—	—	—	—	0.4
非共働き家庭	274	50.0	5.5	44.5	47.8	—	—	—	1.5	0.7
その他	86	46.5	3.5	43.0	47.7	—	—	—	2.3	3.5

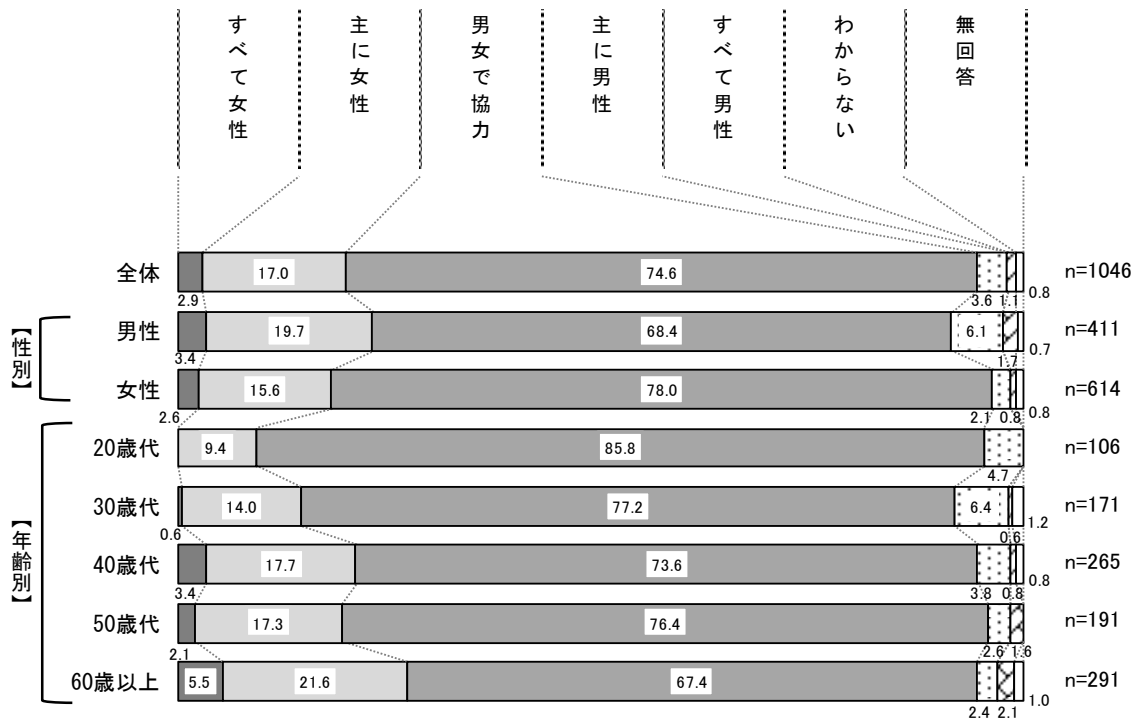
※共働き状況の定義

回答者と配偶者の職業により、共働き状況を下表のように定義しています。

回答者		会社員	公務員	自営業	農業	派遣・契約社員	パート・アルバイト	内職・在宅就業	専業主婦・主夫	学生	無職	その他
		常勤的な就業形態				非常勤的な就業形態			専業主婦・主夫・学生その他			
配偶者	常勤的な就業形態	会社員	公務員	自営業	農業	準共働き家庭			非共働き家庭			
会社員		公務員	自営業	農業								
公務員		自営業	農業									
自営業		農業										
配偶者	非常勤的な就業形態	派遣・契約社員	パート・アルバイト	内職・在宅就業	準共働き家庭			非共働き家庭				
派遣・契約社員		パート・アルバイト	内職・在宅就業									
パート・アルバイト		内職・在宅就業										
配偶者	専業主婦・主夫・学生その他	専業主婦・主夫	学生	無職	その他	非共働き家庭			その他			
専業主婦・主夫		学生	無職	その他								
学生		無職	その他									
無職		その他										

<②食事の後片付け、食器洗い>

◆理想は「男女で協力」が74.6%、『主として女性』が19.9%



【全体】

「男女で協力」(74.6%)が最も高く、次いで「主に女性」(17.0%)が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(78.0%)が男性(68.4%)より9.6ポイント高く、男性は『主として女性』(23.1%)が女性(18.2%)より4.9ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「男女で協力」(85.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

年齢が高いほど『主として女性』は概ね高く、20歳代は9.4%であるのに対し、60歳以上は27.1%となっています。

【共働き状況別】

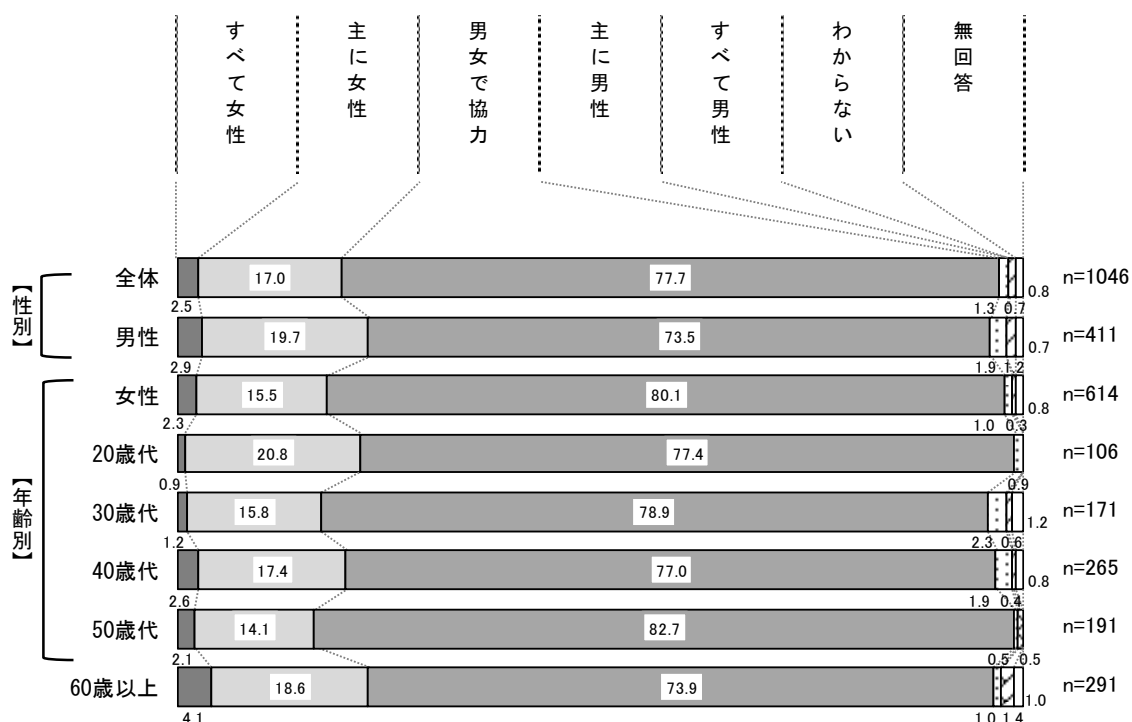
共働き家庭・準共働き家庭は「男女で協力」が他の家庭に比べて約 10 ポイント高く、非共働き家庭は『主として女性』（27.3%）が他の家庭に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	22.3	3.1	19.2	72.5	3.4	3.4	—	0.9	0.8
共働き家庭	141	15.6	0.7	14.9	78.0	5.7	5.7	—	0.7	—
準共働き家庭	234	20.0	2.1	17.9	78.2	1.3	1.3	—	—	0.4
非共働き家庭	274	27.3	4.7	22.6	66.1	4.4	4.4	—	1.5	0.7
その他	86	22.1	3.5	18.6	69.8	2.3	2.3	—	2.3	3.5

<③掃除>

◆理想は「男女で協力」が77.7%、『主として女性』が19.5%



【全体】

「男女で協力」(77.7%)が最も高く、次いで「主に女性」(17.0%)が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(80.1%)が男性(73.5%)より6.6ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「男女で協力」(82.7%)が他の年代に比べて高くなっています。

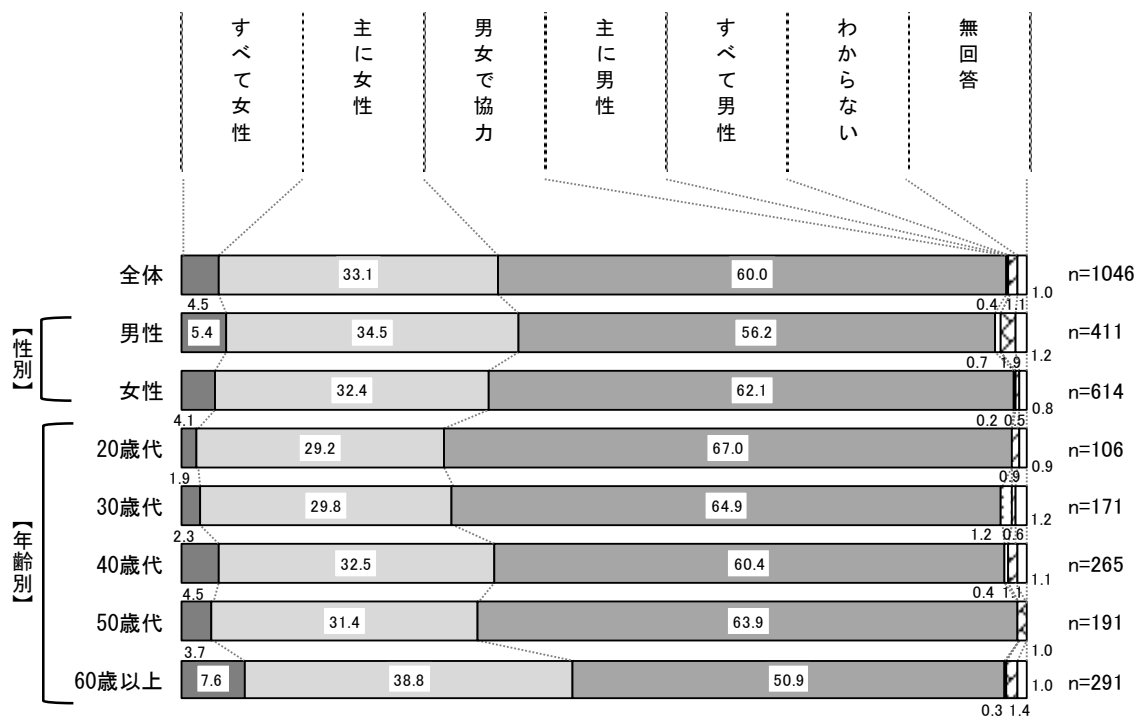
【共働き状況別】

共働き家庭は「男女で協力」(86.5%)が他の家庭に比べて高く、非共働き家庭は『主として女性』(25.1%)が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	20.2	2.3	17.9	77.4	1.1	1.1	—	0.5	0.8
共働き家庭	141	12.8	—	12.8	86.5	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	19.7	1.3	18.4	79.5	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	25.1	3.6	21.5	71.5	1.8	1.8	—	0.7	0.7
その他	86	18.6	3.5	15.1	74.4	1.2	1.2	—	2.3	3.5

<④洗濯>

◆理想は「男女で協力」が60.0%、『主として女性』が37.6%



【全体】

「男女で協力」(60.0%) が最も高く、次いで「主として女性」(33.1%) が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(62.1%) が男性 (56.2%) より 5.9 ポイント高くなっています。

【年齢別】

60歳以上は『主として女性』(46.4%) が他の年代に比べて高くなっています。

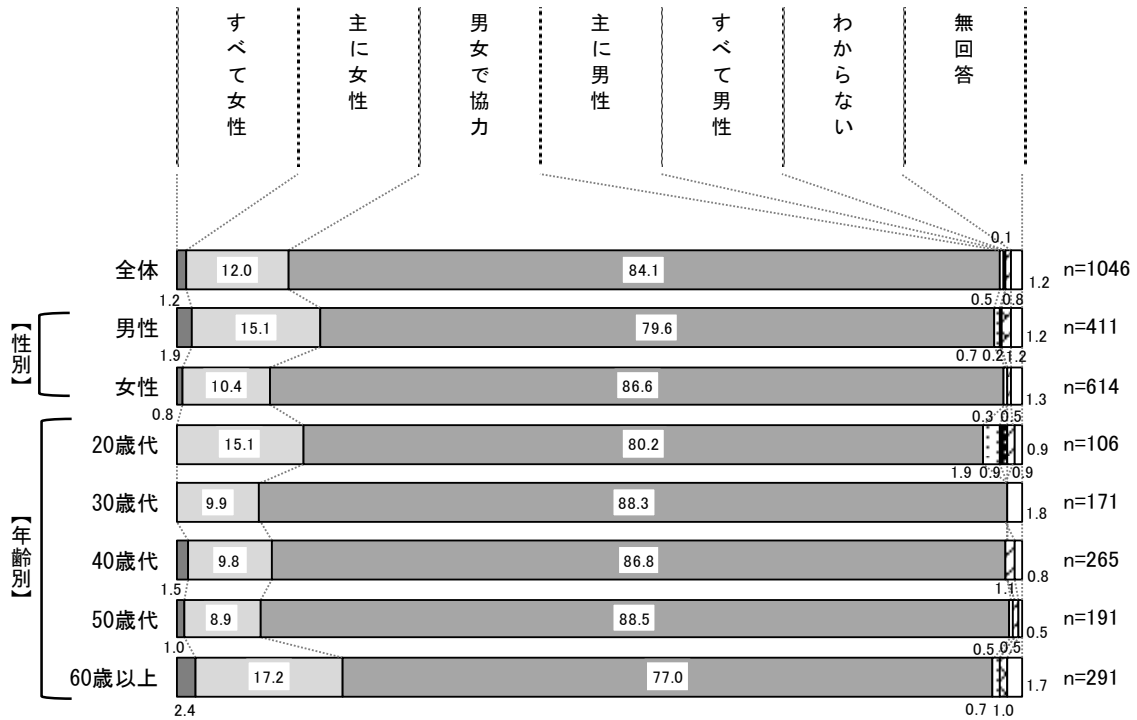
【共働き状況別】

共働き家庭は「男女で協力」(68.1%) が他の家庭に比べて高く、非共働き家庭は『主として女性』(44.9%) が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数 (件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	39.1	4.6	34.5	58.8	0.4	0.4	—	0.9	0.8
共働き家庭	141	31.2	2.1	29.1	68.1	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	35.9	3.0	32.9	63.2	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	44.9	6.9	38.0	52.2	0.4	0.4	—	1.8	0.7
その他	86	40.7	3.5	37.2	53.5	—	—	—	2.3	3.5

<⑤育児・しつけ>

◆理想は「男女で協力」が84.1%、『主として女性』が13.2%



【全体】

「男女で協力」(84.1%)が最も高く、次いで「主に女性」(12.0%)が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(86.6%)が男性(79.6%)より7.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代～50歳代は「男女で協力」が9割弱と若干高くなっています。

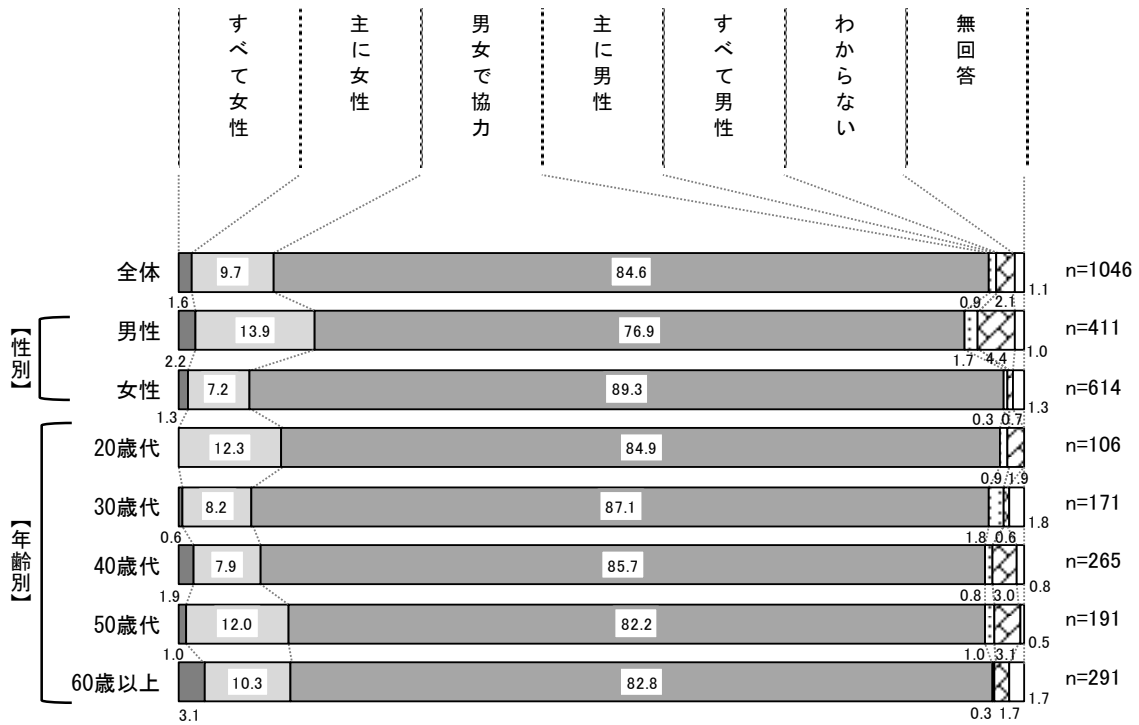
【共働き状況別】

共働き状況別では、大きな差はみられませんでした。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	14.1	1.6	12.5	83.4	0.6	0.5	0.1	0.8	0.9
共働き家庭	141	14.2	0.7	13.5	85.1	0.7	0.7	—	—	—
準共働き家庭	234	13.7	0.9	12.8	85.5	0.4	0.4	—	—	0.4
非共働き家庭	274	12.8	2.2	10.6	85.0	0.4	—	0.4	1.5	0.4
その他	86	18.6	3.5	15.1	72.1	2.3	2.3	—	2.3	4.7

<⑥看護・介護>

◆理想は「男女で協力」が84.6%、『主として女性』が11.3%



【全体】

「男女で協力」(84.6%) が最も高く、次いで「主に女性」(9.7%) が高くなっています。

【性別】

女性は「男女で協力」(89.3%) が男性(76.9%) より 12.4 ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代は「男女で協力」(87.1%) が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

共働き状況別では、大きな差はみられませんでした。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	13.2	1.9	11.3	82.9	0.5	0.5	—	2.4	0.9
共働き家庭	141	11.3	—	11.3	84.4	0.7	0.7	—	3.5	—
準共働き家庭	234	16.3	1.3	15.0	81.2	0.9	0.9	—	1.3	0.4
非共働き家庭	274	10.6	2.6	8.0	85.8	—	—	—	3.3	0.4
その他	86	17.5	4.7	12.8	76.7	—	—	—	1.2	4.7

現在結婚している方（事実婚を含む）におたずねします。

問5 あなたの家庭では、次のような家庭内の仕事を、現実には主に誰が受けもっていますか。
次の①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

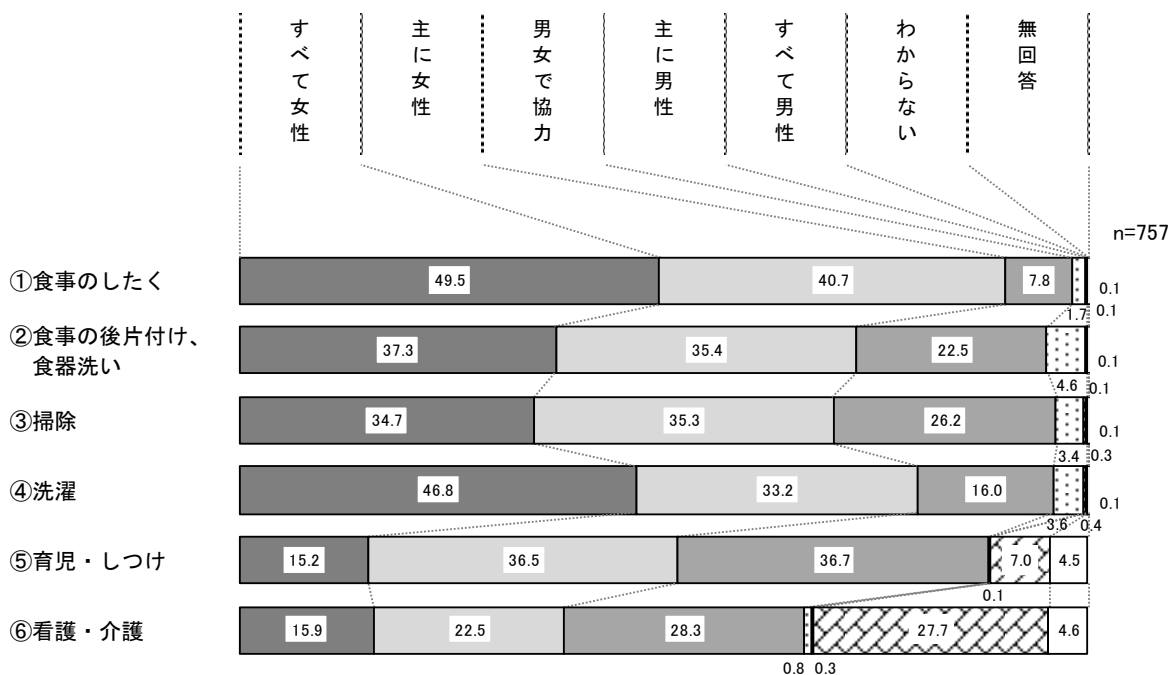
◆現実には家庭内の仕事を『主として女性』が受けもっている。「食事のしたく」では約9割、「洗濯」では約8割

◆「育児・しつけ」では3割以上の人が「男女で協力」が現実

	①食事のしたく	②食事の後片付け、食器洗い	③掃除	④洗濯	⑤育児・しつけ	⑥看護・介護
『主として女性』	90.2%	72.7%	70.0%	80.0%	51.7%	38.4%
すべて女性	49.5%	37.3%	34.7%	46.8%	15.2%	15.9%
主に女性	40.7%	35.4%	35.3%	33.2%	36.5%	22.5%
男女で協力	7.8%	22.5%	26.2%	16.0%	36.7%	28.3%
『主として男性』	1.8%	4.7%	3.7%	4.0%	0.1%	1.1%
主に男性	1.7%	4.6%	3.4%	3.6%	0.1%	0.8%
すべて男性	0.1%	0.1%	0.3%	0.4%	—	0.3%

『主として女性』…「すべて女性」と「主に女性」を合算

『主として男性』…「すべて男性」と「主に男性」を合算



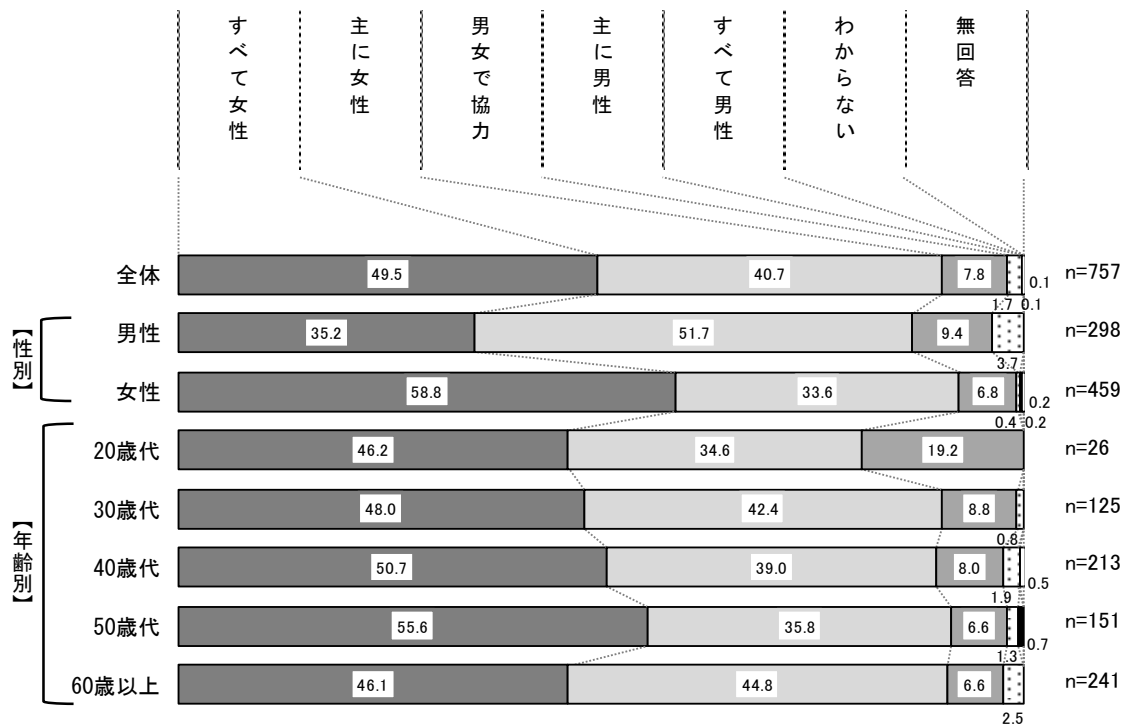
【全体】(①～⑥)

結婚している人の家庭内の仕事の分担の＜現実＞についてみると、すべての仕事について『主として女性』が「男女で協力」より高くなっており、「食事のしたく」では『主として女性』（90.2%）は約90%と高くなっています。一方、『主として男性』は「食事の後片付け、食器洗い」の4.7%が最も高くなっています。

また、「育児・しつけ」・「看護・介護」では、『主として女性』と「男女で協力」との差が10ポイント台と、他の仕事に比べて小さくなっています。

<①食事のしたく>

◆現実には『主として女性』が90.2%、「男女で協力」が7.8%



【全体】

「すべて女性」が49.5%で最も高く、次いで「主に女性」が40.7%となっています。

【性別】

女性は『主として女性』（92.4%）が男性（86.9%）より5.5ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」（58.8%）は男性（35.2%）より23.6ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「男女で協力」（19.2%）が他の年代に比べて高くなっています。

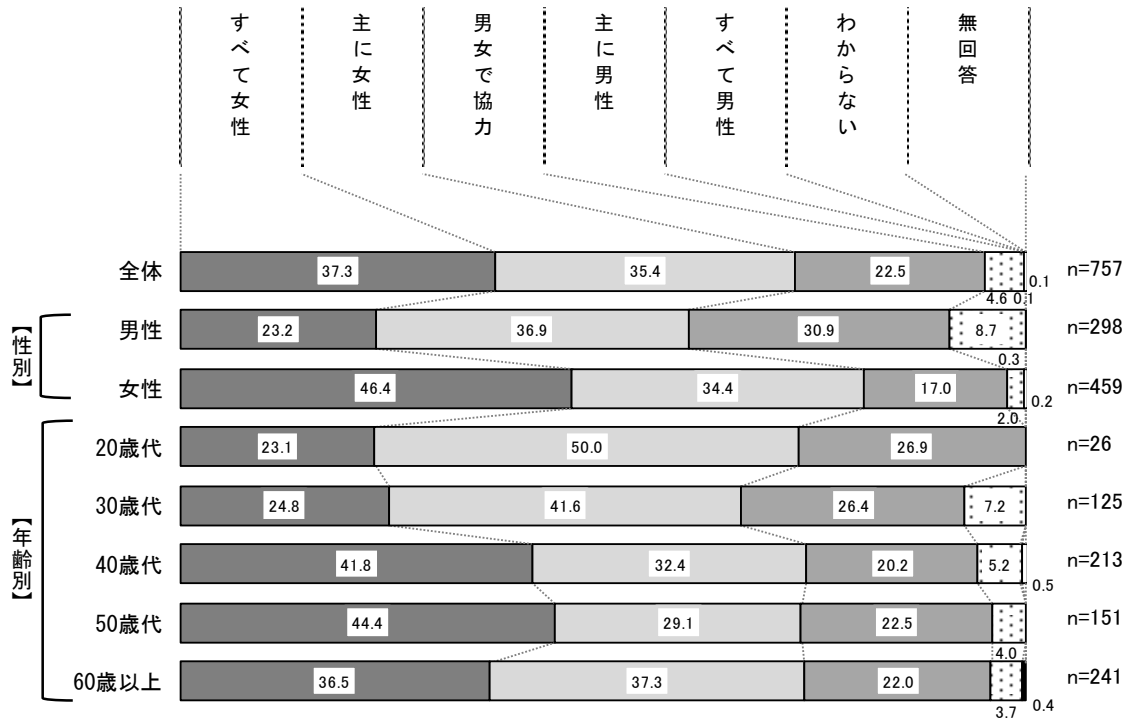
【共働き状況別】

共働き家庭は『主として女性』（86.5%）が他の家庭に比べて若干低くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	90.4	49.5	40.9	7.5	1.8	1.7	0.1	—	0.1
共働き家庭	141	86.5	38.3	48.2	9.9	2.8	2.8	—	—	0.7
準共働き家庭	234	92.3	52.1	40.2	7.3	0.4	0.4	—	—	—
非共働き家庭	274	90.2	51.1	39.1	7.7	2.2	2.2	—	—	—
その他	86	91.9	53.5	38.4	4.7	3.5	2.3	1.2	—	—

<②食事の後片付け、食器洗い>

◆現実には『主として女性』が72.7%、「男女で協力」が22.5%



【全体】

「すべて女性」(37.3%)が最も高く、次いで「主に女性」が35.4%となっています。

【性別】

女性は『主として女性』(80.8%)が男性(60.1%)より20.7ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」(46.4%)は男性(23.2%)より23.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(44.4%)が他の年代に比べて高く、20歳代は「主に女性」(50.0%)が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

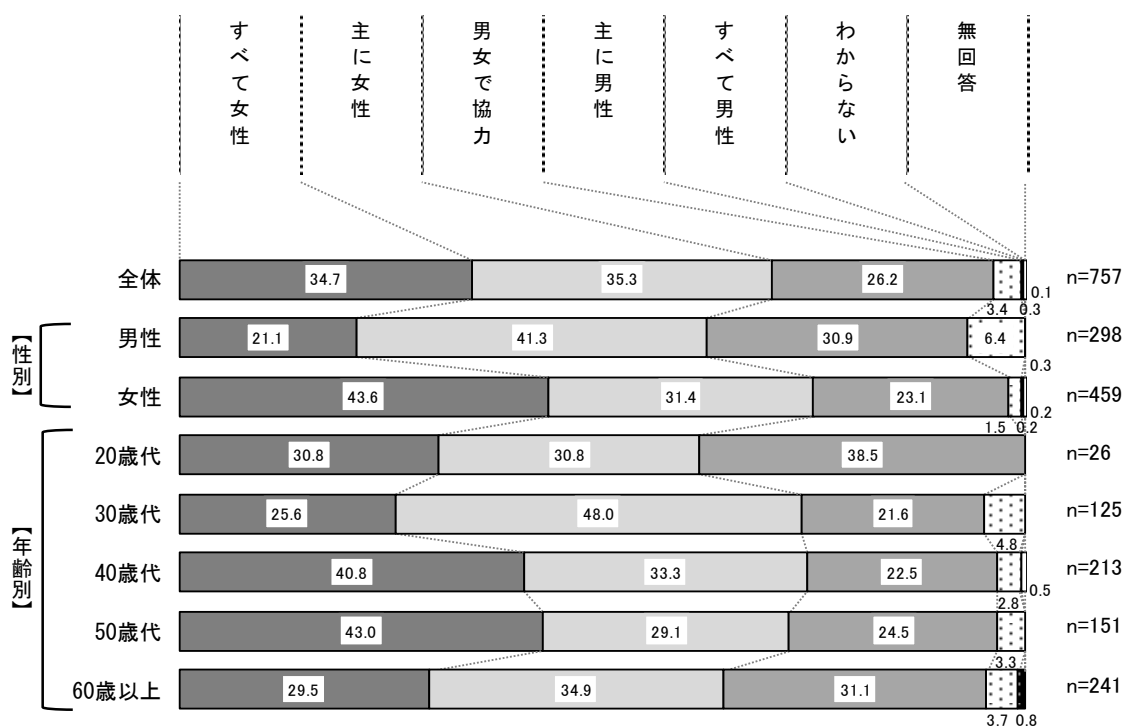
共働き家庭は「男女で協力」(36.2%)が他の家庭に比べて高く、『主として男性』(10.6%)も若干高くなっています。

非共働き家庭は『主として女性』(79.2%)が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	72.6	37.1	35.5	22.5	4.7	4.7	—	—	0.1
共働き家庭	141	52.4	19.1	33.3	36.2	10.6	10.6	—	—	0.7
準共働き家庭	234	74.8	41.9	32.9	22.6	2.6	2.6	—	—	—
非共働き家庭	274	79.2	39.1	40.1	16.8	4.0	4.0	—	—	—
その他	86	76.7	45.3	31.4	19.8	3.5	3.5	—	—	—

<③掃除>

◆現実には『主として女性』が70.0%、「男女で協力」が26.2%



【全体】

「主に女性」(35.3%)と「すべて女性」(34.7%)がともに高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』(75.0%)が男性(62.4%)より12.6ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」(43.6%)は男性(21.1%)より22.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

50歳代は「すべて女性」(43.0%)が他の年代に比べて高く、30歳代は「主に女性」(48.0%)が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

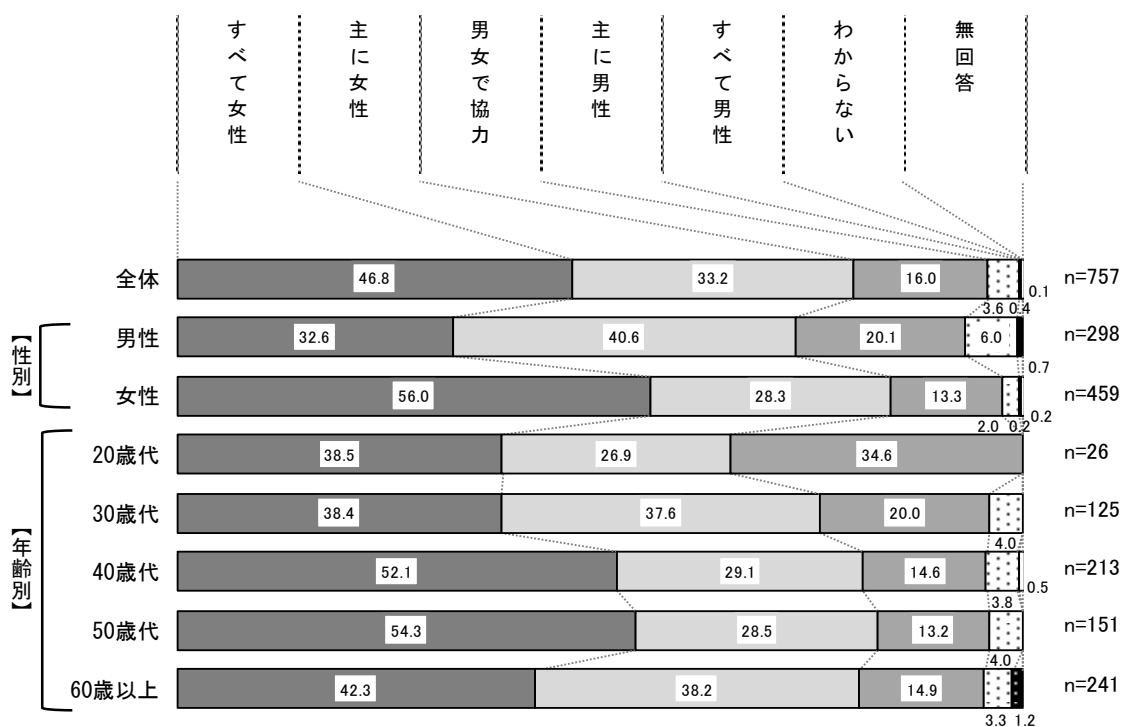
共働き家庭は「男女で協力」(34.8%)が他の家庭に比べて高く、準共働き家庭は『主として女性』(77.3%)が他の家庭に比べて高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	69.8	34.7	35.1	26.2	3.8	3.5	0.3	—	0.1
共働き家庭	141	56.0	24.8	31.2	34.8	8.5	8.5	—	—	0.7
準共働き家庭	234	77.3	36.3	41.0	21.8	0.9	0.9	—	—	—
非共働き家庭	274	72.7	38.0	34.7	23.4	4.0	3.3	0.7	—	—
その他	86	62.7	36.0	26.7	33.7	3.5	3.5	—	—	—

(%)

<④洗濯>

◆現実には『主として女性』が80.0%、「男女で協力」が16.0%



【全体】

「すべて女性」(46.8%)が最も高く、次いで「主に女性」(33.2%)が高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』（84.3%）が男性（73.2%）より 11.1 ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」（56.0%）は男性（32.6%）より 23.4 ポイント高くなっています。

【年齢別】

50 歳代は「すべて女性」（54.3%）が他の年代に比べて高く、20 歳代は「男女で協力」（34.6%）が他の年代に比べて高くなっています。

【共働き状況別】

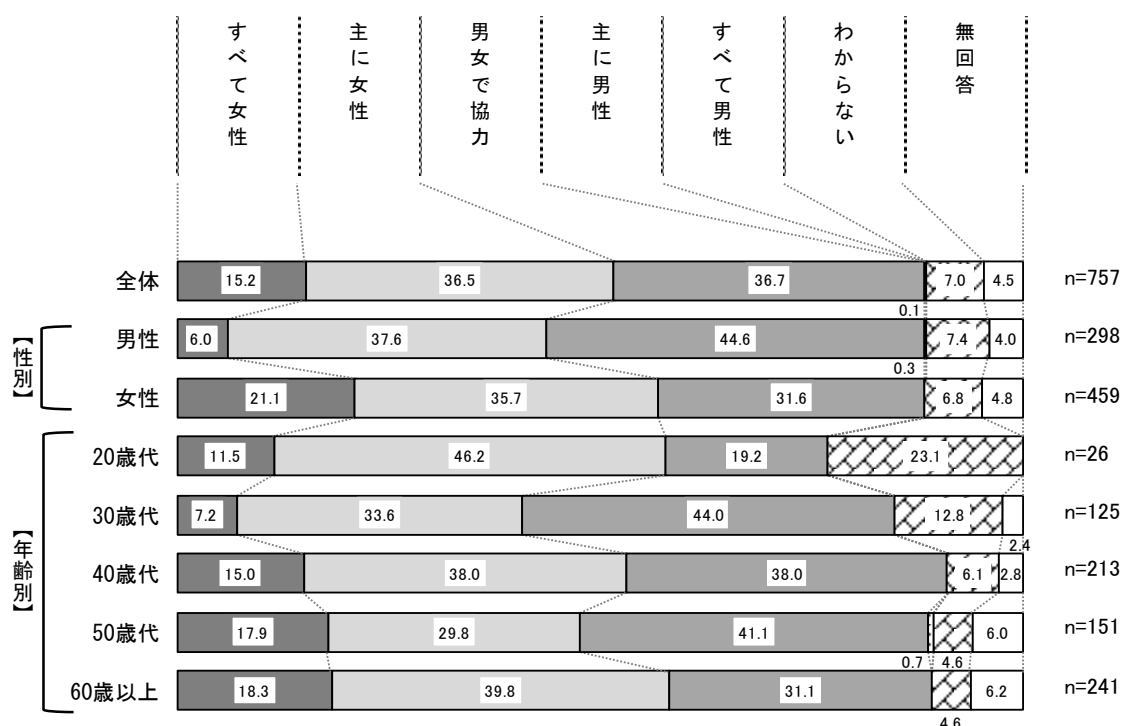
共働き家庭は「男女で協力」（26.2%）が他の家庭に比べて高く、『主として男性』（8.5%）も若干高くなっています。

	件数 (件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	79.8	46.4	33.4	16.0	4.0	3.6	0.4	—	0.1
共働き家庭	141	64.5	31.2	33.3	26.2	8.5	8.5	—	—	0.7
準共働き家庭	234	83.7	48.7	35.0	14.5	1.7	1.7	—	—	—
非共働き家庭	274	83.9	50.7	33.2	12.0	4.0	2.9	1.1	—	—
その他	86	80.2	50.0	30.2	16.3	3.5	3.5	—	—	—

(%)

<⑤育児・しつけ>

◆現実には『主として女性』が 51.7%、「男女で協力」が 36.7%



【全体】

「男女で協力」(36.7%)と「主に女性」(36.5%)がともに高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』(56.8%)が男性(43.6%)より13.2ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」(21.1%)は男性(6.0%)より15.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代は「男女で協力」(44.0%)が他の年代に比べて若干高くなっています。

【共働き状況別】

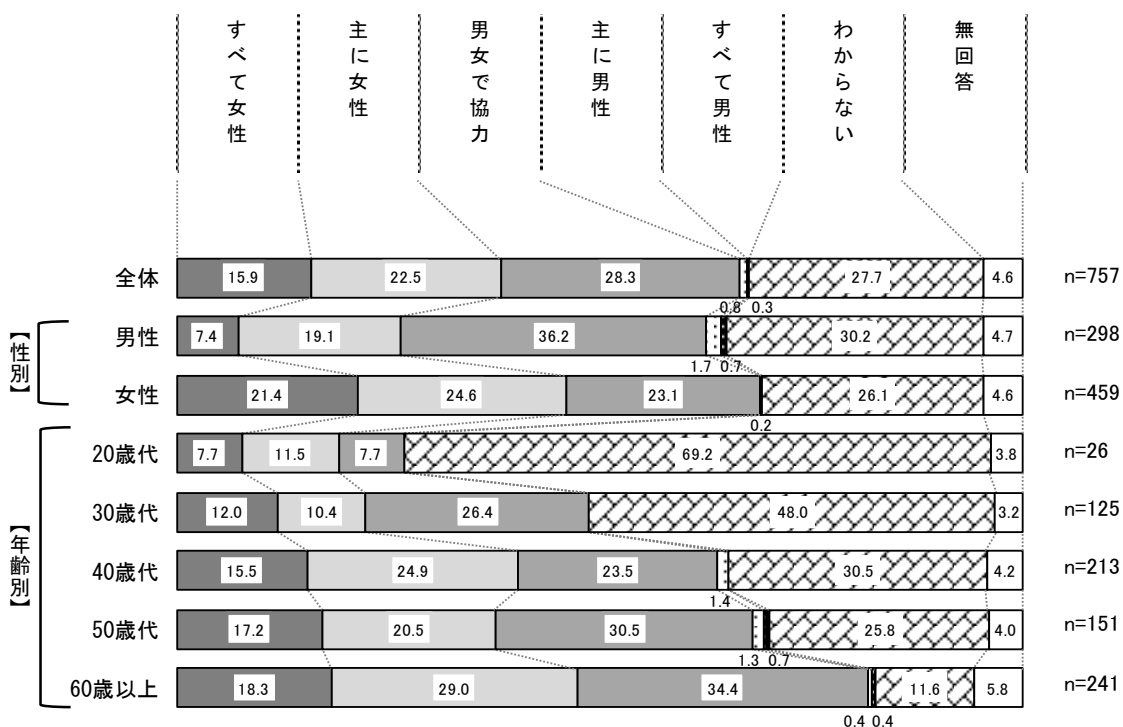
共働き家庭は「男女で協力」(43.3%)が他の家庭に比べて若干高くなっています。

	件数(件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	51.7	15.2	36.5	37.0	0.1	0.1	—	7.1	4.0
共働き家庭	141	43.3	13.5	29.8	43.3	—	—	—	9.9	3.5
準共働き家庭	234	50.8	12.8	38.0	41.5	0.4	0.4	—	4.7	2.6
非共働き家庭	274	52.6	13.9	38.7	36.5	—	—	—	7.3	3.6
その他	86	65.1	27.9	37.2	17.4	—	—	—	7.0	10.5

(%)

<⑥看護・介護>

◆現実には『主として女性』が38.4%、「男女で協力」が28.3%



【全体】

「男女で協力」(28.3%)が最も高く、次いで「わからない」(27.7%)が高くなっています。

【性別】

女性は『主として女性』(46.0%)が男性(26.5%)より19.5ポイント高くなっています。このうち「すべて女性」(21.4%)は男性(7.4%)より14.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が高いほど「わからない」が低く、20歳代(69.2%)は約70%であるのに対し、60歳以上(11.6%)は約10%となっています。この影響もあり、「すべて女性」、「主に女性」、「男女で協力」のいずれも60歳以上が最も高くなっています。

【共働き状況別】

夫婦のいずれも働いていない家庭は『主として女性』(58.1%)が他の家庭に比べて20ポイント以上高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『主として女性』	すべて女性	主に女性	男女で協力	『主として男性』	主に男性	すべて男性	わからない	無回答
全体	743	38.4	15.9	22.5	28.5	1.1	0.8	0.3	27.9	4.2
共働き家庭	141	32.0	12.1	19.9	27.7	1.4	0.7	0.7	34.8	4.3
準共働き家庭	234	38.4	16.2	22.2	31.2	0.9	0.9	—	27.4	2.1
非共働き家庭	274	35.8	15.0	20.8	29.2	1.1	0.7	0.4	29.6	4.4
その他	86	58.1	24.4	33.7	20.9	1.2	1.2	—	10.5	9.3

【理想と現実の比較】

理想ではすべての仕事で「男女で協力」が最も高くなっていますが、現実ではすべての仕事で『主として女性』が最も高くなっています。

理想と現実の差についてみると、「男女で協力」はすべての仕事で理想が現実より 40 ポイント以上高くなっています。

『主として女性』は「育児・しつけ」・「看護・介護」を除くすべての仕事で現実が理想より 40 ポイント以上高くなっています。

(%)

	①食事のしたく			②食事の後片付け、食器洗い			③掃除		
	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』
理想	46.3	51.9	0.1	19.9	74.6	3.6	19.5	77.7	1.3
現実	90.2	7.8	1.8	72.7	22.5	4.7	70.0	26.2	3.7
差(現実－理想)	43.9	-44.1	1.7	52.8	-52.1	1.1	50.5	-51.5	2.4
	④洗濯			⑤育児・しつけ			⑥看護・介護		
	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』	『主として女性』	男女で協力	『主として男性』
理想	37.6	60.0	0.4	13.2	84.1	0.6	11.3	84.6	0.9
現実	80.0	16.0	4.0	51.7	36.7	0.1	38.4	28.3	1.1
差(現実－理想)	42.4	-44.0	3.6	38.5	-47.4	-0.5	27.1	-56.3	0.2

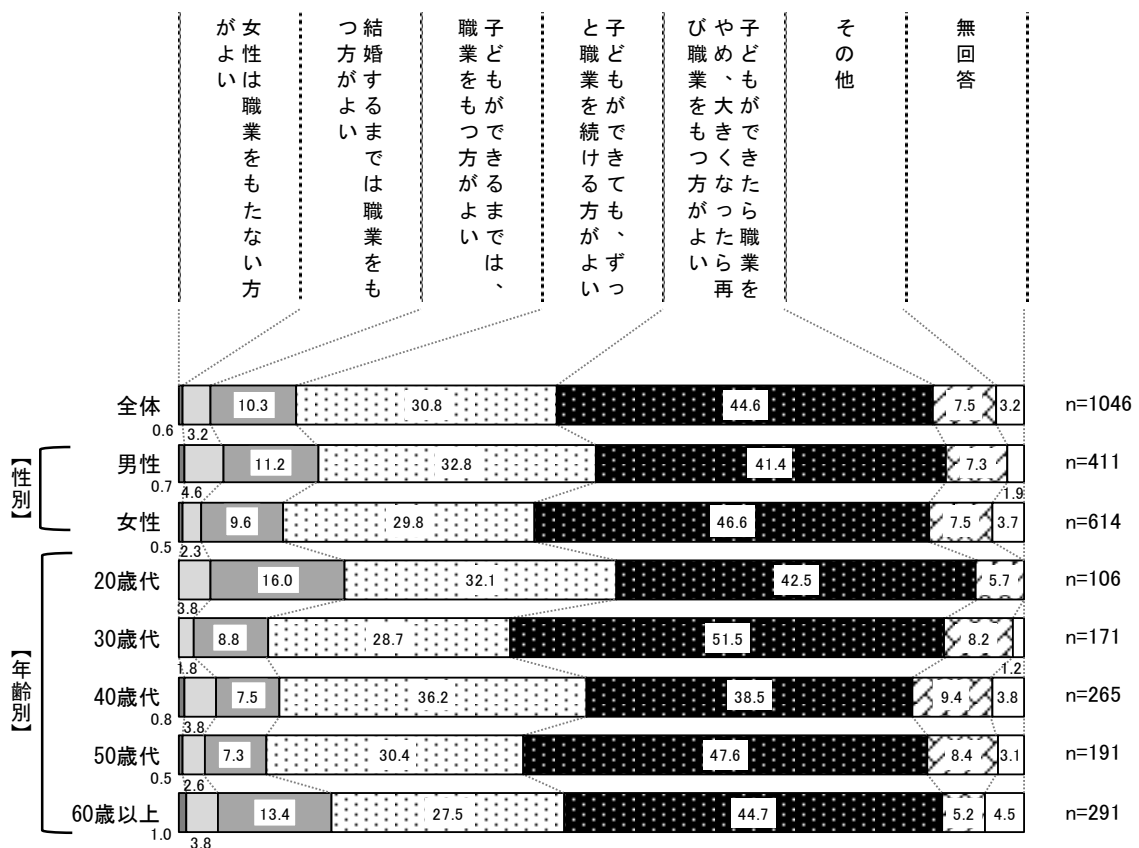
4 職業生活について

4-1 女性が職業をもつことについて

問6 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。(○は1つ)

- ◆「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(44.6%)が最も高い
- ◆「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の差は前回調査時よりも小さい

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
女性は職業をもたない方がよい	0.6%	0.5%	0.9%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.2%	4.9%	5.4%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.3%	10.1%	7.4%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	30.8%	26.9%	25.9%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	44.6%	49.8%	45.9%



【全体】

「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(44.6%)が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(30.8%)が高くなっています。

【性別】

女性は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(46.6%)が男性(41.4%)より5.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(16.0%)、30歳代は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(51.5%)、40歳代は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(36.2%)がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。

【性・年齢別】

20歳代・30歳代は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は女性が男性より約9ポイント高くなっています。

		(%)							
		件数 (件)	女性が職業をもたない 方がよい	結婚するまでは職業を もつ方がよい	子どもができるまでは、 職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっ と職業を続ける方がよい	子どもができたら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ方がよい	その他	無回答
全体		1,046	0.6	3.2	10.3	30.8	44.6	7.5	3.2
20歳代	男性	43	—	—	18.6	37.2	37.2	7.0	—
	女性	63	—	6.3	14.3	28.6	46.0	4.8	—
30歳代	男性	67	—	1.5	7.5	31.3	46.3	11.9	1.5
	女性	104	—	1.9	9.6	26.9	54.8	5.8	1.0
40歳代	男性	94	—	7.4	8.5	38.3	34.0	8.5	3.2
	女性	171	1.2	1.8	7.0	35.1	40.9	9.9	4.1
50歳代	男性	80	—	3.8	8.8	31.3	46.3	8.8	1.3
	女性	111	0.9	1.8	6.3	29.7	48.6	8.1	4.5
60歳以上	男性	127	2.4	6.3	14.2	29.1	42.5	3.1	2.4
	女性	164	—	1.8	12.8	26.2	46.3	6.7	6.1

【職業別】

公務員（50.9%）、派遣・契約社員（40.0%）は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が高くなっています。

(%)

	件数 (件)	女性は職業をもたない 方がよい	結婚するまでは職業を もつ方がよい	子どもができるまでは、 職業をもつ方がよい	子どもができて、ずつ と職業を続ける方がよい	子どもができたなら職業 をやめ、大きくなったら 再び職業をもつ方がよい	その他	無回答
会社員	320	0.3	1.9	9.7	37.5	40.3	8.4	1.9
公務員	53	—	—	11.3	50.9	24.5	11.3	1.9
派遣・契約社員	30	—	6.7	3.3	40.0	43.3	3.3	3.3
パートタイム・アルバイト	210	1.0	1.4	8.6	24.3	51.9	9.0	3.8
自営業	65	—	9.2	7.7	29.2	47.7	3.1	3.1
農業	3	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—
内職・在宅就業	9	—	—	11.1	44.4	44.4	—	—
専業主婦・専業主夫	174	1.1	4.6	14.4	19.0	48.9	7.5	4.6
学生	24	—	4.2	25.0	29.2	37.5	4.2	—
無職	100	—	6.0	10.0	32.0	46.0	3.0	3.0
その他	27	3.7	3.7	—	40.7	44.4	7.4	—

●「その他」の内訳

(とりまとめ中)

【全国調査との比較】

本市は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」(44.6%)が最も高く、国(26.3%)より18.3ポイント高くなっています。一方、国は「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(54.2%)が最も高く、本市(30.8%)より23.4ポイント高くなっています。

	春日井市			国(平成28年)		
		男性	女性		男性	女性
女性は職業をもたない方がよい	0.6%	0.7%	0.5%	3.3%	3.8%	2.8%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	3.2%	4.6%	2.3%	4.7%	4.8%	4.6%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.3%	11.2%	9.6%	8.4%	9.6%	7.4%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	30.8%	32.8%	29.8%	54.2%	52.9%	55.3%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	44.6%	41.4%	46.6%	26.3%	24.3%	28.0%
その他	7.5%	7.3%	7.5%	1.5%	1.9%	1.1%
わからない ※国のみ	—	—	—	1.6%	2.7%	0.7%

【中学生・高校生との比較】

中学生・高校生は一般市民と比較すると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が低くなっています。

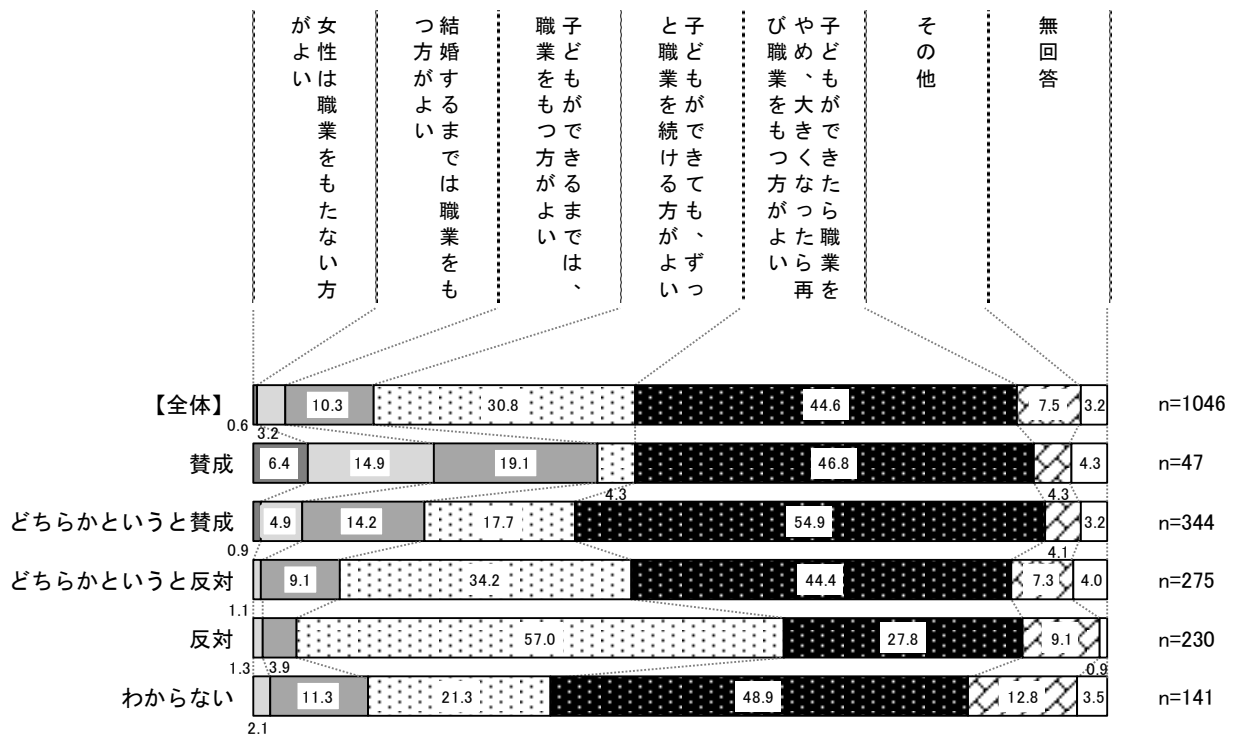
	中学生	高校生	一般市民
女性は職業をもたない方がよい	1.3%	0.2%	0.6%
結婚するまでは職業をもつ方がよい	11.5%	8.7%	3.2%
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	11.5%	14.9%	10.3%
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	17.1%	17.8%	30.8%
子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	37.6%	41.3%	44.6%
わからない	20.3%	16.7%	—

【“夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである”という考え方に対する意識”別】

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対して否定的であるほど「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合が高く、「反対」である人の57.0%が「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と答えています。

一方、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対して肯定的であるほど、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」、「女性は職業をもたない方がよい」の割合が高く、女性が長く職業をもつことに対して否定的となっています。

また、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は「どちらか」と賛成（54.9%）で最も高くなっています。

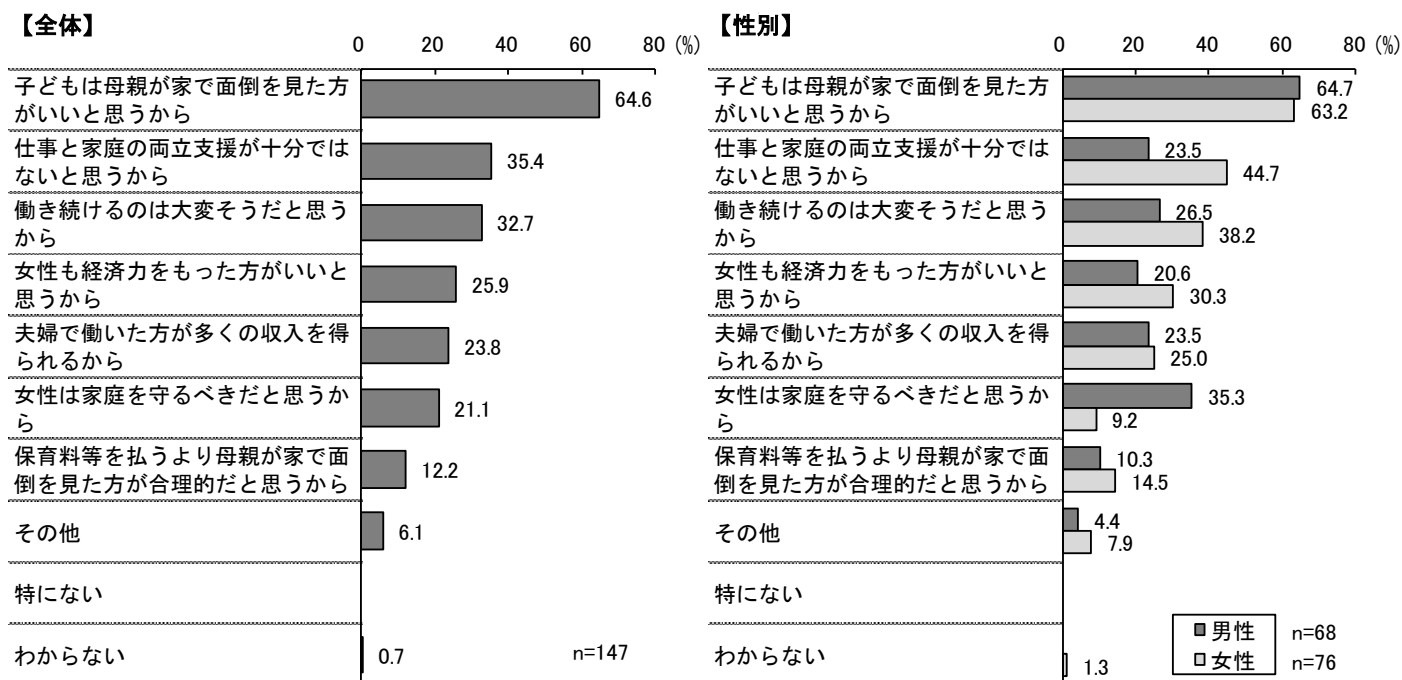


問6で、「1 女性は職業をもたない方がよい」「2 結婚するまでは職業をもつ方がよい」

「3 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」のいずれかに回答した方におたずねします。

問6(1) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ “女性は生涯もしくは結婚・出産以降は職業をもたない方がよい”理由の第1位は「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」



【全体】

“女性は生涯もしくは結婚・出産以降は職業をもたない方がよい”と答えた理由は、「子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから」(64.6%)が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(35.4%)、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(32.7%)が高くなっています。

【性別】

男性は「女性は家庭を守るべきだと思うから」(35.3%)が女性(9.2%)より26.1ポイント高くなっています。

女性は「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」(44.7%)が男性(23.5%)より21.2ポイント高くなっており、「働き続けるのは大変そうだと思うから」(38.2%)も男性(26.5%)より11.7ポイント高くなっています。

【年齢別】

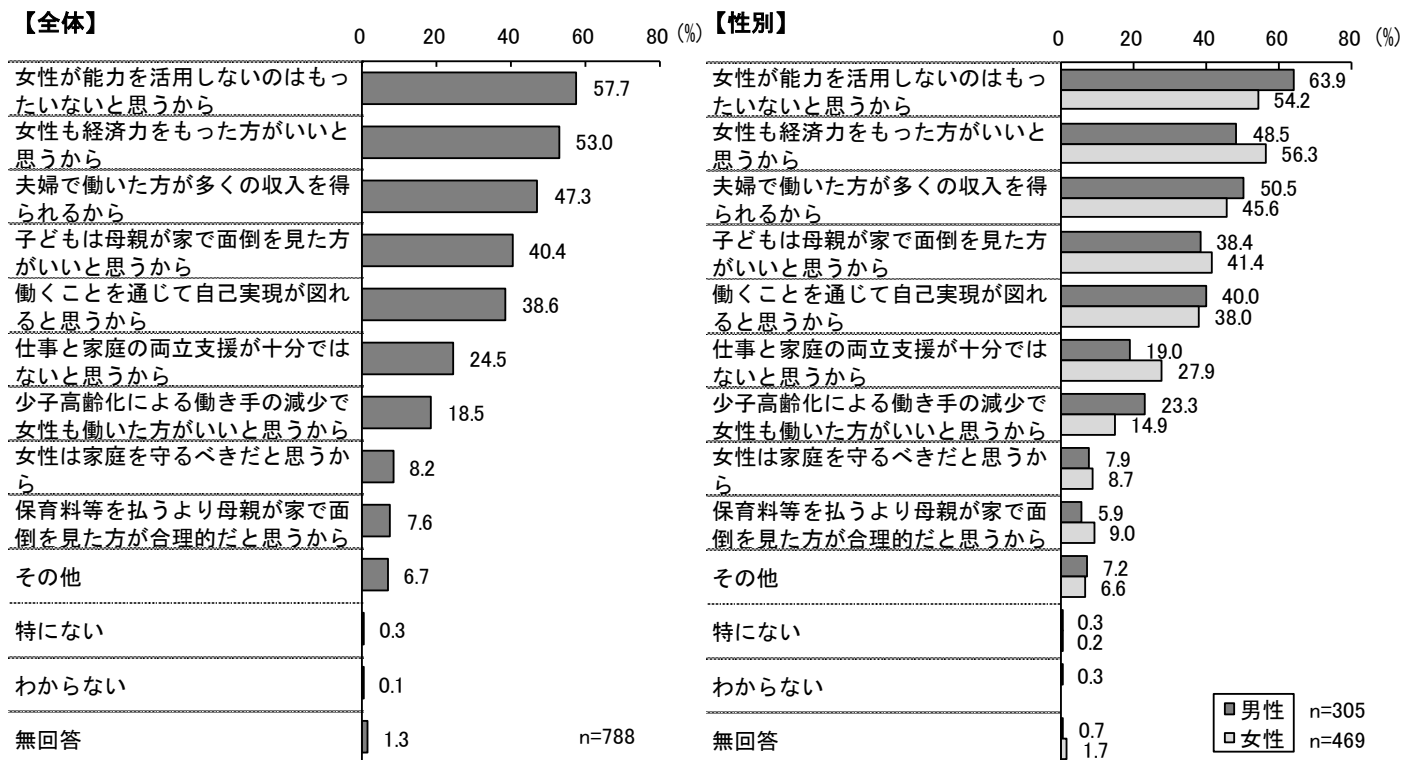
40歳代は「女性も経済力をもった方がいいと思うから」(6.3%)が低くなっています。

	件数(件)	から倒を見た方がいいと思う	子どもは母親が家で面倒を	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	働き続けるのは大変そうだと思うから	女性も経済力をもった方がいいと思うから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	女性は家庭を守るべきだと思うから	親が家で面倒を見た方が合理的だと思うから	保育料等を払うより母親が家で面倒を見た方が合理的だと思うから	その他	特にな	わからない
20歳代	21	61.9	28.6	38.1	42.9	42.9	19.0	9.5	9.5	—	4.8	—	—
30歳代	18	55.6	44.4	55.6	33.3	38.9	11.1	22.2	5.6	—	—	—	—
40歳代	32	68.8	28.1	37.5	6.3	15.6	28.1	12.5	6.3	—	—	—	—
50歳代	20	60.0	50.0	35.0	25.0	25.0	25.0	10.0	15.0	—	—	—	—
60歳以上	53	66.0	32.1	18.9	28.3	17.0	20.8	11.3	1.9	—	—	—	—

問6で、「4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」または「5 子どもができたから職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方におたずねします。

問6(2) その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆ “女性はお産に関わらず職業をもつ方がよい”理由の第1位は「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」



【全体】

“女性は出産に関わらず（出産した場合、子育ての時期を除いたとしても）職業をもつ方がよい”と答えた理由は、「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」（57.7%）が最も高く、次いで「女性も経済力をもった方がいいと思うから」（53.0%）、「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」（47.3%）が高くなっています。

【性別】

男性は「女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから」（63.9%）、「少子高齢化で働き手が減少しているので、女性も働いた方がいいと思うから」（23.3%）が女性より若干高くなっています。

女性は「女性も経済力をもった方がいいと思うから」（56.3%）、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」（27.9%）が男性より若干高くなっています。

【年齢別】

30歳代は「夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから」、「仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから」が他の年代に比べて高くなっています。

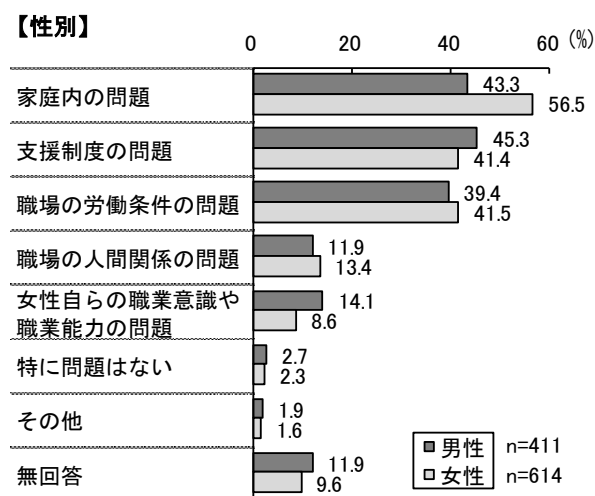
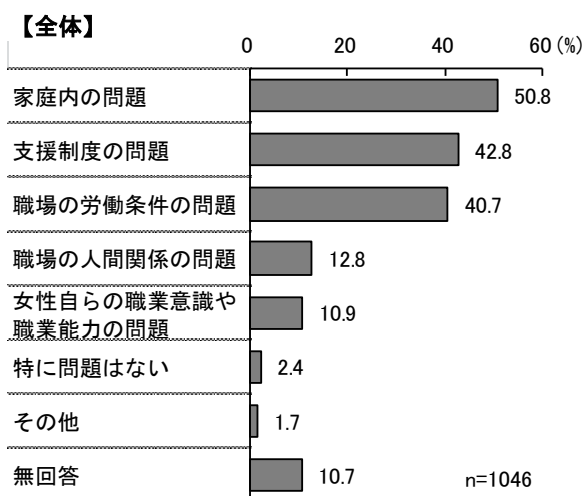
	件数（件）	女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから	女性も経済力をもった方がいいと思うから	夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	働くことを通じて自己実現が図れると思うから	仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	少子高齢化による働き手の減少で女性も働いた方がいいと思うから	女性は家庭を守るべきだと思うから	倒れを見た方が合理的だと思うから	保育料等を払うより母親が家で面倒	その他	特になし	わからない	無回答
20歳代	79	49.4	43.0	55.7	26.6	32.9	21.5	17.7	3.8	8.9	6.3	—	1.3	—	
30歳代	137	52.6	48.9	59.1	41.6	38.0	32.1	13.1	8.0	11.7	8.8	0.7	—	0.7	
40歳代	198	56.1	54.0	48.5	38.4	36.9	22.2	12.1	9.6	9.1	7.1	—	—	1.0	
50歳代	149	63.8	55.0	43.6	45.6	39.6	22.1	24.2	5.4	4.7	7.4	0.7	—	2.7	
60歳以上	210	62.4	57.6	38.6	42.4	42.4	23.8	23.3	11.4	5.7	5.2	—	—	1.4	

4-2 女性の職業生活における障害

問7 あなたは、女性が職業をもったり、職業生活を続けたりする上で、障害となっているものは何だと思えますか。(〇は2つまで)

- ◆「家庭内の問題」(50.8%)が最も高い
- ◆前回調査と比べて「家庭内の問題」は約10ポイント減少したが、「職場の人間関係の問題」は微増した
- ◆性別で見ると、女性は「家庭内の問題」が男性より13.2ポイント高い

	平成28年9月	平成22年9月
家庭内の問題	50.8%	60.6%
支援制度の問題	42.8%	45.1%
職場の労働条件の問題	40.7%	45.8%
職場の人間関係の問題	12.8%	9.5%
女性自らの職業意識や職業能力の問題	10.9%	12.4%
特に問題はない	2.4%	2.6%



【全体】

「家庭内の問題」(50.8%)が最も高く、次いで「支援制度の問題」(42.8%)、「職場の労働条件の問題」(40.7%)が高くなっています。

【性別】

女性は「家庭内の問題」(56.5%)が男性(43.3%)より13.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「職場の人間関係の問題」(22.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	家庭内の問題	支援制度の問題	職場の労働条件の問題	職場の人間関係の問題	女性自らの職業意識や 職業能力の問題	特に問題はない	その他	無回答
20歳代	106	41.5	42.5	41.5	22.6	10.4	4.7	1.9	6.6
30歳代	171	42.1	48.0	42.7	12.9	14.6	1.8	3.5	11.7
40歳代	265	53.6	44.9	40.8	10.9	9.1	1.9	1.9	9.8
50歳代	191	55.5	38.7	37.7	11.5	9.9	3.7	1.0	13.1
60歳以上	291	55.3	40.9	40.9	11.7	11.0	1.7	1.0	10.3

【子どもの有無別】

「家庭内の問題」は子どものいる人(54.5%)がいない人(45.0%)より9.5ポイント高くなっています。

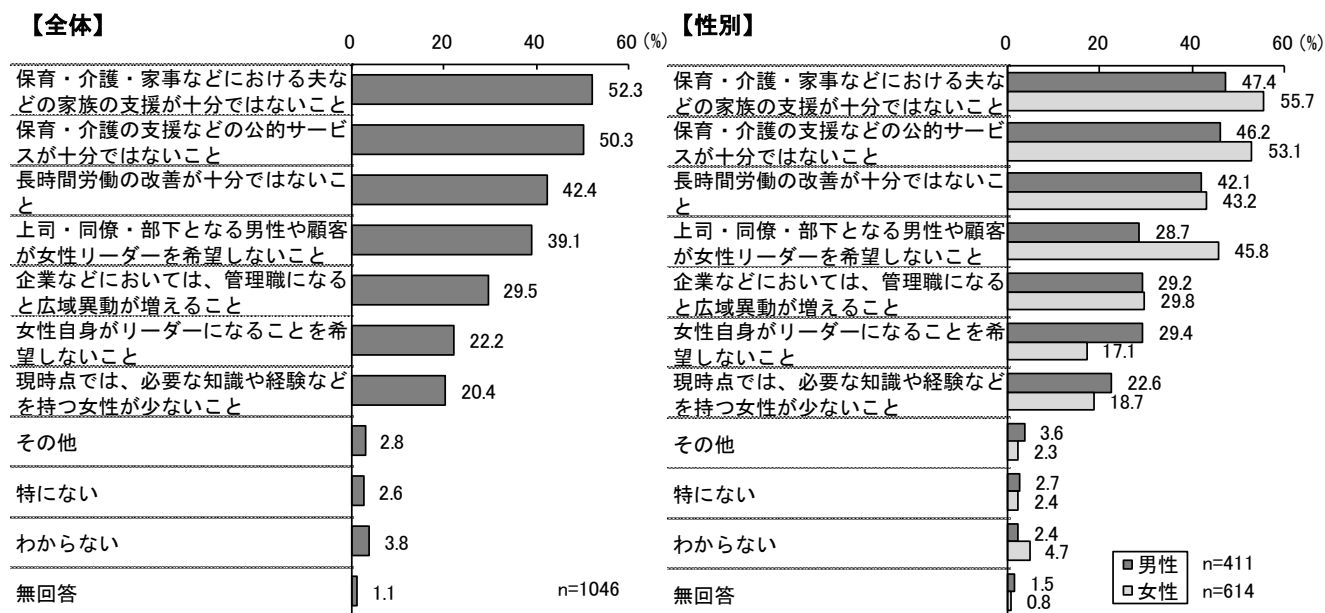
(%)

	件数 (件)	家庭内の問題	支援制度の問題	職場の労働条件の問題	職場の人間関係の問題	女性自らの職業意識や 職業能力の問題	特に問題はない	その他	無回答
子どもがいる	739	54.5	41.9	41.0	12.9	9.5	1.5	1.6	10.6
子どもはいない	220	45.0	42.7	38.6	11.4	14.5	5.0	2.3	10.9

4-3 各分野で女性のリーダーを増やすときの障害

問8 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに、障害となるものは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(52.3%)が最も高い



【全体】

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分でないこと」(52.3%)が最も高く、次いで「保育・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」(50.3%)、「長時間労働の改善が十分ではないこと」(42.4%)が高くなっています。

【性別】

女性は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」(45.8%)が男性(28.7%)より17.1ポイント高く、「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」(55.7%)も男性(47.4%)より8.3ポイント高くなっています。

男性は「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(29.4%)が女性(17.1%)より12.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代・30 歳代は「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと」が他の年代に比べて高く、50 歳代は「長時間労働の改善が十分ではないこと」(52.9%) が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
20 歳代	106	45.3	43.4	39.6	47.2	24.5	19.8	15.1	3.8	0.9	3.8	0.9
30 歳代	171	54.4	54.4	43.3	45.6	27.5	21.1	15.8	2.9	1.8	6.4	0.6
40 歳代	265	54.3	49.4	37.4	38.1	24.9	21.9	18.5	4.9	3.8	2.3	1.1
50 歳代	191	55.0	51.8	52.9	36.6	33.5	23.0	22.5	2.1	2.6	2.6	0.5
60 歳以上	291	50.5	50.2	41.6	34.4	34.4	23.0	25.1	1.0	2.4	4.5	1.7

【子どもの有無別】

「保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと」は子どものいる人(54.7%) がいない人(46.4%) より 8.3 ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	その他	特になし	わからない	無回答
子どもがいる	739	54.7	50.3	43.4	37.8	30.0	21.8	20.8	2.3	2.6	3.7	1.4
子どもはいない	220	46.4	53.2	39.1	41.8	29.1	25.0	16.8	3.6	2.3	4.1	0.5

【全国調査との比較】

本市は「企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること」(29.5%)、「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(22.2%)が国より約10ポイント高く、他の項目も国より概ね高くなっています。

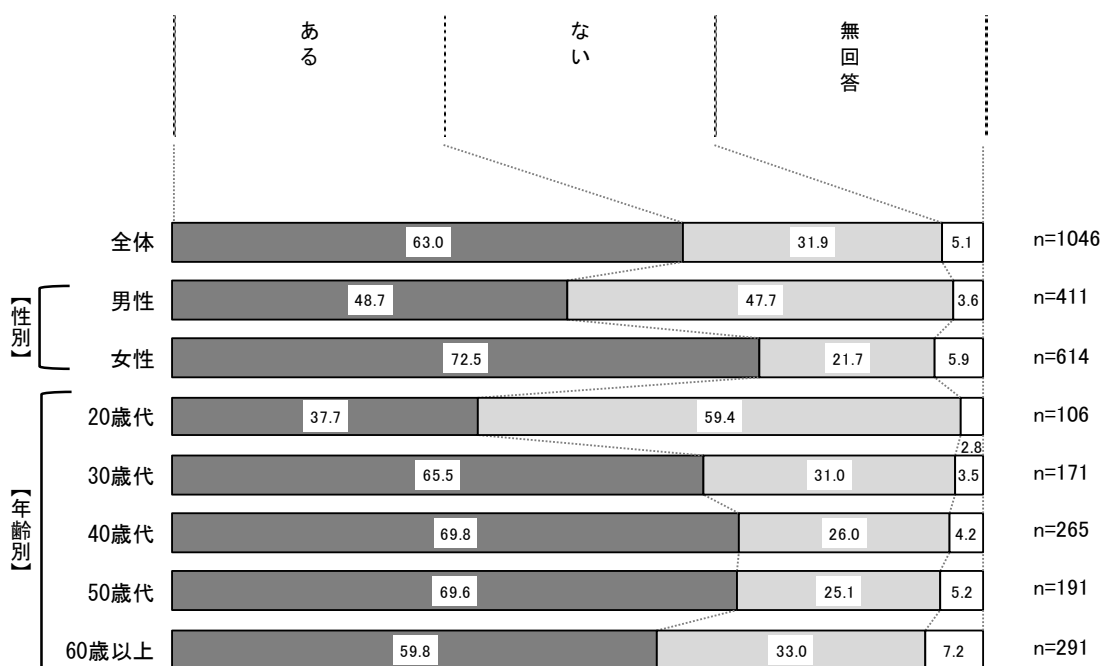
性別でみると、本市の男性は「女性自身がリーダーになることを希望しないこと」(29.4%)が女性(17.1%)より12.3ポイント高いのに対し、国の男性(14.1%)は女性(12.1%)より2.0ポイント高いのみとなっています。

	春日井市		国(平成26年)			
		男性	女性		男性	女性
保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	52.3%	47.4%	55.7%	50.1%	44.1%	54.8%
保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	50.3%	46.2%	53.1%	42.3%	38.7%	45.2%
長時間労働の改善が十分ではないこと	42.4%	42.1%	43.2%	38.8%	34.5%	42.3%
上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	39.1%	28.7%	45.8%	31.1%	23.6%	37.1%
企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	29.5%	29.2%	29.8%	18.6%	18.4%	18.7%
女性自身がリーダーになることを希望しないこと	22.2%	29.4%	17.1%	12.9%	14.1%	12.1%
現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	20.4%	22.6%	18.7%	18.1%	20.6%	16.1%
その他	2.8%	3.6%	2.3%	0.5%	0.9%	0.2%
特になし	2.6%	2.7%	2.4%	3.9%	5.4%	2.8%
わからない	3.8%	2.4%	4.7%	3.4%	3.0%	3.6%

4-4 自己都合による離職・転職

問9 あなたは、これまでに自己都合で離職もしくは転職をしたことがありますか。(○は1つ)

- ◆「ある」が約6割、「ない」が約3割
- ◆「ある」は女性で約7割、男性で約5割



【全体】

「ある」が63.0%、「ない」が31.9%となっています。

【性別】

女性は「ある」(72.5%)が男性(48.7%)より23.8ポイント高くなっています。

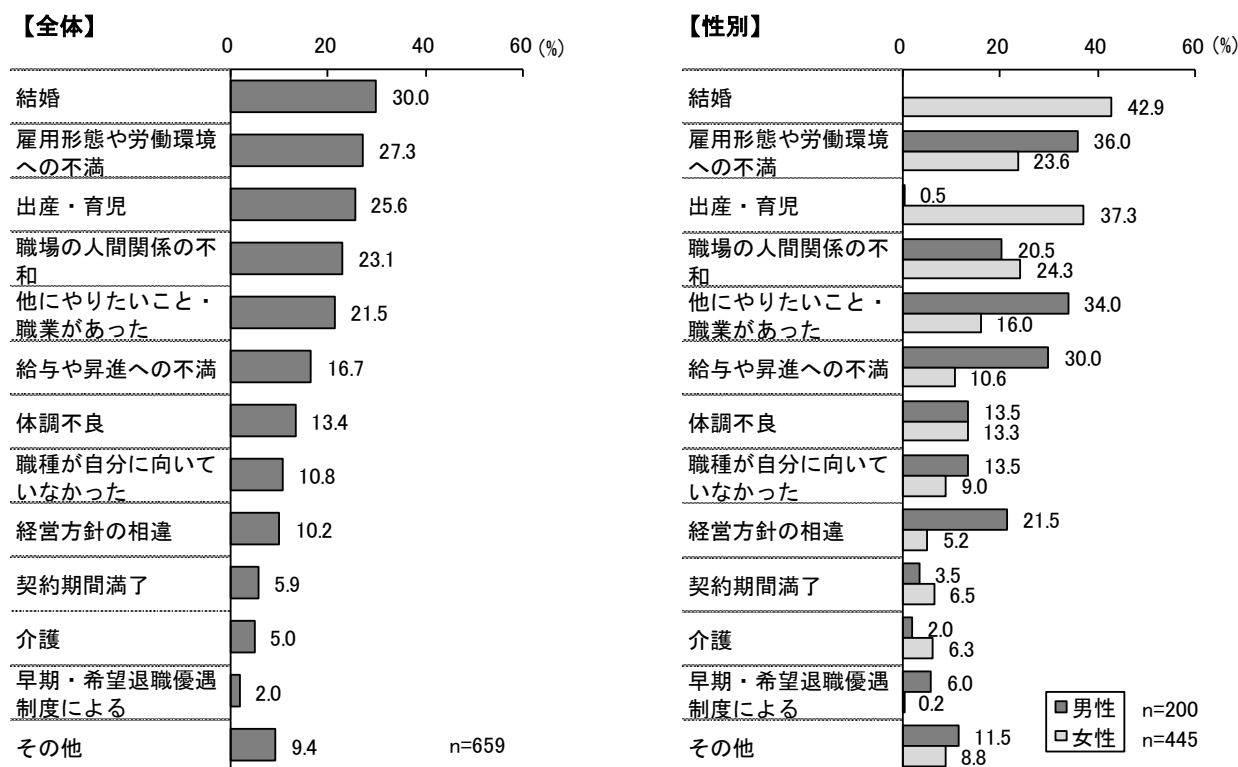
【年齢別】

40歳代・50歳代は「ある」が約70%と若干高く、20歳代は「ある」が37.7%と低くなっています。

問9で、「1 ある」と回答した方におたずねします。

問9(1) 離職・転職をした理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆男性では「雇用形態や労働環境への不満」、「他にやりたいこと・職業があった」が上位、女性では「結婚」、「出産・育児」が上位



【全体】

「結婚」(30.0%) が最も高く、次いで「雇用形態や労働環境への不満」(27.3%)、「出産・育児」(25.6%) が高くなっています。

【性別】

男性は「雇用形態や労働環境への不満」(36.0%) が最も高く、次いで「他にやりたいこと・職業があった」(34.0%)、「給与や昇進への不満」(30.0%) が高くなっており、職場に関わる理由が上位にあがっています。

女性は「結婚」(42.9%) が最も高く、次いで「出産・育児」(37.3%) が高くなっており、家庭に関わる理由が上位にあがっています。

【年齢別】

20 歳代は「職場の人間関係の不和」、「体調不良」、「職種が自分に向いていなかった」が他の年代に比べて高くなっています。

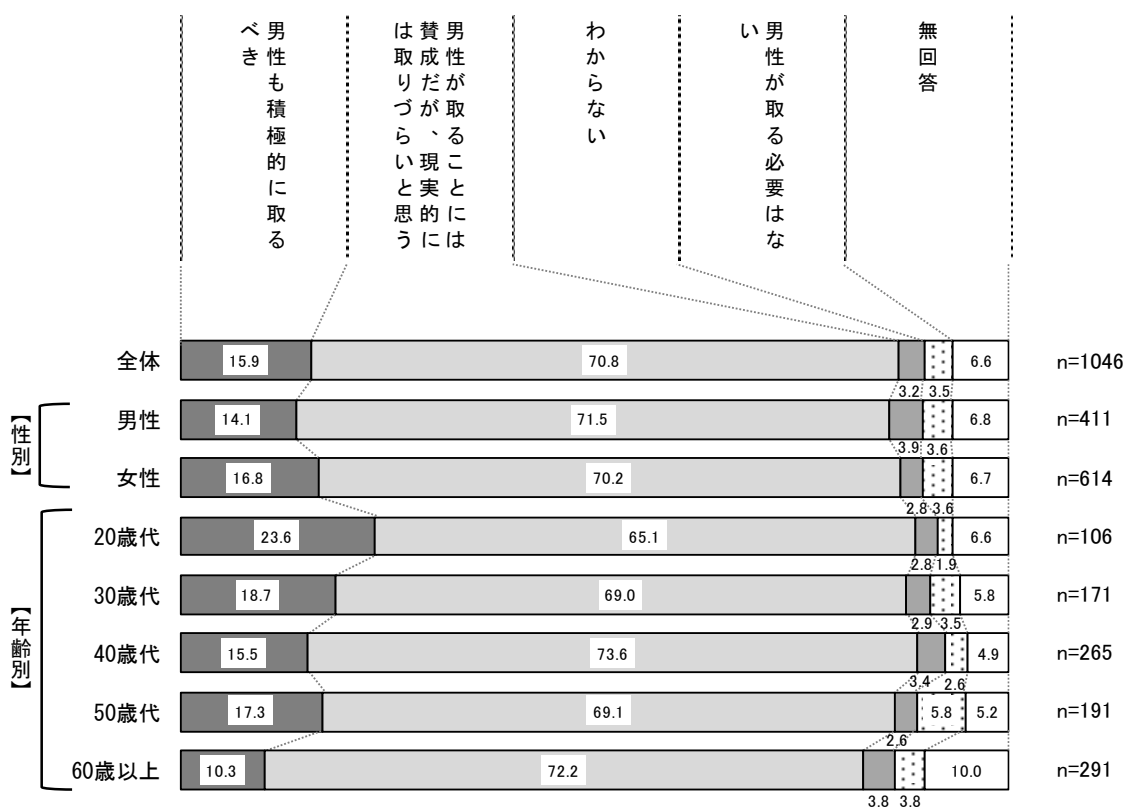
(%)

	件数 (件)	結婚	雇用形態や労働環境 への不満	出産・育児	職場の人間関係の不和	他にやりたいこと・職 業があった	給与や昇進への不満	体調不良	職種が自分に向いて いなかった	経営方針の相違	契約期間満了	介護	早期・希望退職優遇 制度による	その他
20 歳代	40	25.0	32.5	15.0	47.5	25.0	22.5	30.0	25.0	7.5	2.5	—	—	—
30 歳代	112	21.4	36.6	31.3	25.0	26.8	24.1	14.3	11.6	10.7	6.3	0.9	—	8.9
40 歳代	185	30.8	28.6	27.6	24.9	21.6	17.3	10.3	8.1	11.4	6.5	2.2	2.2	8.6
50 歳代	133	33.8	32.3	30.1	18.8	21.1	18.8	12.8	9.0	9.8	3.0	3.8	0.8	12.8
60 歳以上	174	31.6	15.5	19.5	17.8	17.8	8.0	12.6	9.8	9.8	6.9	12.6	4.6	10.9

4-5 男性の育児休業・介護休業の利用について

問 10 あなたは、男性が育児休業や介護休業を利用することについてどう思いますか。(○は1つ)

◆「男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」が約7割



【全体】

「男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」(70.8%)が最も高く、次いで「男性も積極的に取るべき」(15.9%)が高くなっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

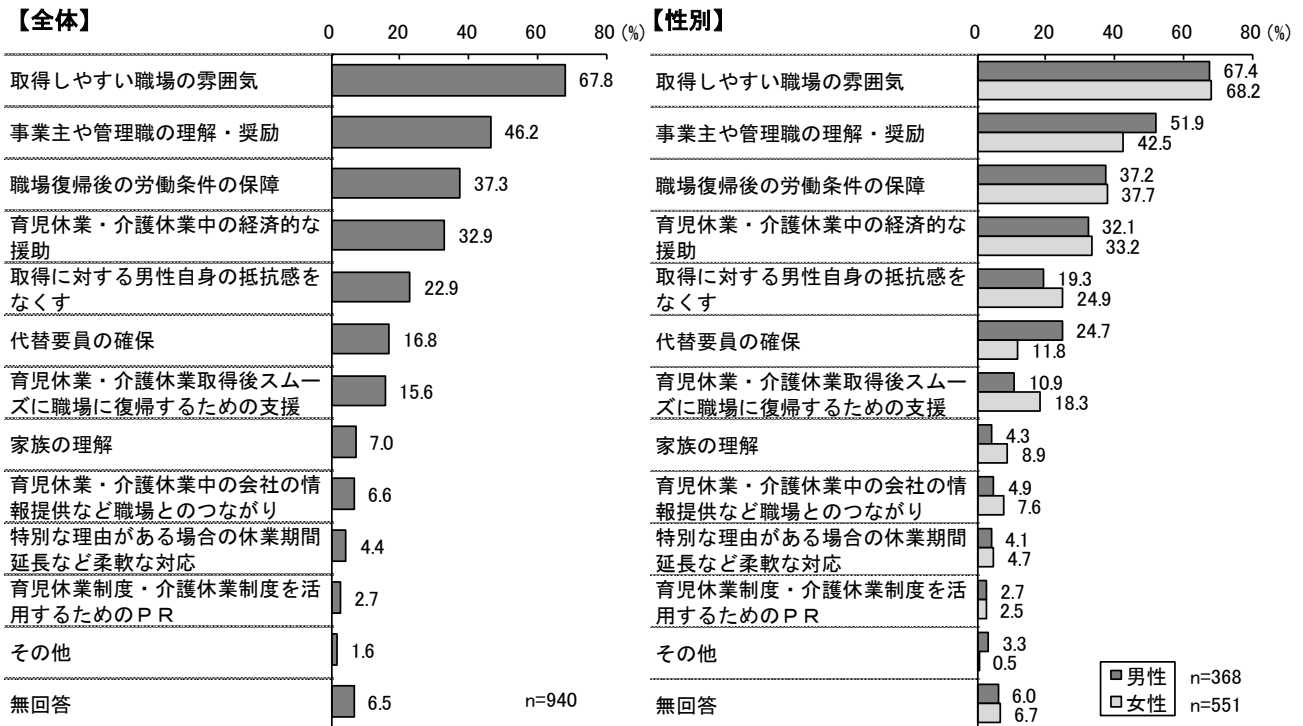
【年齢別】

20歳代は「男性も積極的に取るべき」(23.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

問 10 で、「1 男性も積極的に取るべき」「2 男性が取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」「3 わからない」のいずれかに回答した方におたずねします。

問 10(1) あなたは、男性が育児休業や介護休業を取得するためにどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

◆「取得しやすい職場の雰囲気」、「事業主や管理職の理解・奨励」、「職場復帰後の労働条件の保障」が上位



【全体】

「取得しやすい職場の雰囲気」(67.8%) が最も高く、次いで「事業主や管理職の理解・奨励」(46.2%)、「職場復帰後の労働条件の保障」(37.3%) が高くなっています。

【性別】

男性は「代替要員の確保」(24.7%) が女性(11.8%) より 12.9 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は「育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援」(26.8%)が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
20 歳代	97	73.2	35.1	27.8	28.9	25.8	7.2	26.8	6.2	3.1	8.2	1.0	1.0	10.3
30 歳代	155	67.1	45.8	36.1	38.7	24.5	15.5	11.0	8.4	4.5	6.5	2.6	2.6	8.4
40 歳代	245	65.7	44.5	43.3	32.7	22.4	20.4	15.5	4.9	7.3	2.9	2.4	2.9	4.9
50 歳代	170	64.7	48.2	37.6	33.5	25.9	21.2	13.5	8.8	6.5	4.1	1.2	—	5.9
60 歳以上	251	70.9	51.0	36.3	29.9	18.3	15.5	14.7	7.6	8.4	3.6	4.4	1.2	5.6

【共働き状況別】

共働き家庭は「取得に対する男性自身の抵抗感をなくす」(31.7%)、「保育園に入れななど特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応」(8.7%)が他の家庭に比べて高くなっています。

非共働き家庭は「事業主や管理職の理解・奨励」(53.6%)が他の家庭に比べて10ポイント以上高くなっています。

(%)

	件数(件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
全体	672	69.6	47.3	38.7	33.3	22.8	16.4	13.8	6.8	6.7	3.6	2.8	1.8	6.4
共働き家庭	126	65.1	40.5	33.3	33.3	31.7	15.9	8.7	5.6	5.6	8.7	3.2	1.6	9.5
準共働き家庭	218	69.7	42.7	42.7	36.2	22.0	16.5	13.8	6.9	6.9	1.4	1.8	2.3	5.5
非共働き家庭	248	70.6	53.6	38.7	30.2	19.0	16.5	14.5	7.3	7.7	3.2	3.6	1.6	6.5
その他	73	71.2	50.7	38.4	35.6	23.3	17.8	20.5	5.5	5.5	2.7	2.7	1.4	4.1

【一番下の子どもの年齢別】

一番下の子どもの年齢が0～4歳の親は「育児休業・介護休業中の経済的な援助」(44.8%)、「保育園に入れれないなど特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応」(9.5%)が他の親に比べて高くなっています。

一番下の子どもの年齢が15～19歳の親は「育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり」(13.7%)が他の親に比べて高くなっています。

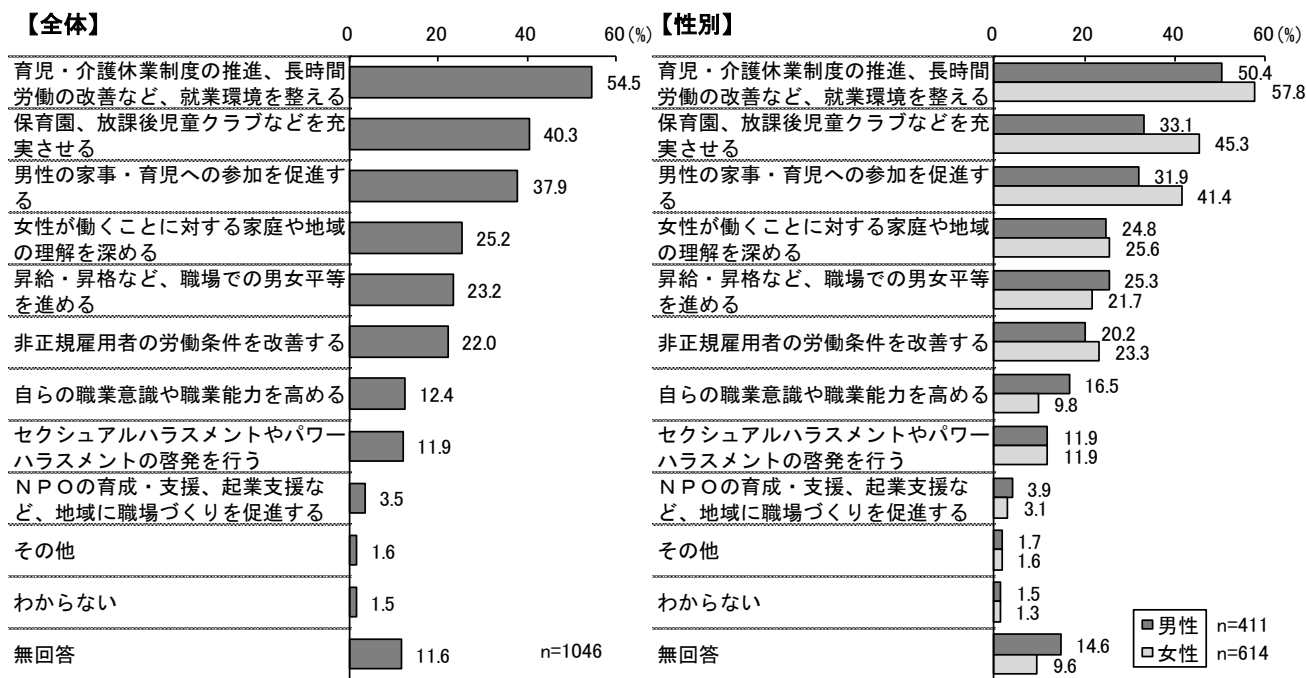
(%)

	件数 (件)	取得しやすい職場の雰囲気	事業主や管理職の理解・奨励	職場復帰後の労働条件の保障	育児休業・介護休業中の経済的な援助	取得に対する男性自身の抵抗感をなくす	代替要員の確保	育児休業・介護休業取得後スムーズに職場に復帰するための支援	家族の理解	育児休業・介護休業中の会社の情報提供など職場とのつながり	特別な理由がある場合の休業期間延長など柔軟な対応	育児休業制度・介護休業制度を活用するためのPR	その他	無回答
全体	657	68.9	47.3	37.0	34.9	22.1	16.6	13.9	6.4	7.6	4.3	2.9	1.8	5.9
0～4歳	105	73.3	45.7	28.6	44.8	22.9	13.3	14.3	5.7	3.8	9.5	3.8	1.9	7.6
5～9歳	86	61.6	41.9	46.5	37.2	22.1	16.3	16.3	7.0	2.3	3.5	2.3	3.5	7.0
10～14歳	64	68.8	50.0	26.6	32.8	28.1	17.2	12.5	3.1	7.8	1.6	—	3.1	9.4
15～19歳	73	60.3	43.8	47.9	27.4	21.9	21.9	12.3	4.1	13.7	1.4	2.7	2.7	5.5
20歳以上	323	71.2	49.5	36.8	33.4	20.4	16.7	13.6	7.7	8.7	4.0	3.1	0.9	4.6

4-6 男女がともに働きやすい環境をつくるために必要なこと

問11 男女がともに働きやすい環境をつくるためには、あなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

◆「育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える」、「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」、「男性の家事・育児への参加を促進する」が上位



【全体】

「育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える」(54.5%)が最も高く、次いで「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(40.3%)、「男性の家事・育児への参加を促進する」(37.9%)が高くなっています。

【性別】

女性は「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(45.3%)が男性(33.1%)より12.2ポイント高く、「男性の家事・育児への参加を促進する」(41.4%)も男性(31.9%)より9.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「昇給・昇格など、職場での男女平等を進める」(32.1%)、30歳代は「保育園、放課後児童クラブなどを充実させる」(52.6%)がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。また、年齢が低いほど「男性の家事・育児への参加を促進する」が高くなっています。

(%)

	件数(件)	育児・介護休業制度の推進、長時間労働の改善など、就業環境を整える	保育園、放課後児童クラブなどを充実させる	男性の家事・育児への参加を促進する	女性が働くことに対する家庭や地域の理解を深める	昇給・昇格など、職場での男女平等を進める	非正規雇用者の労働条件を改善する	自らの職業意識や職業能力を高める	セクシュアルハラスメントやパワーハラスメントの啓発を行う	NPOの育成・支援、起業支援など、地域に職場づくりを促進する	その他	わからない	無回答
20歳代	106	50.0	38.7	44.3	22.6	32.1	12.3	13.2	15.1	5.7	—	0.9	9.4
30歳代	171	55.6	52.6	41.5	21.6	22.2	13.5	7.0	11.1	2.3	3.5	2.9	9.9
40歳代	265	58.5	43.0	39.2	26.8	20.8	23.4	12.5	10.2	1.9	1.5	1.1	9.4
50歳代	191	54.5	33.0	36.1	27.2	27.2	24.6	13.1	12.0	3.7	2.1	1.0	12.0
60歳以上	291	52.9	36.4	32.3	25.8	19.9	27.5	15.1	12.4	4.5	1.0	1.0	15.1

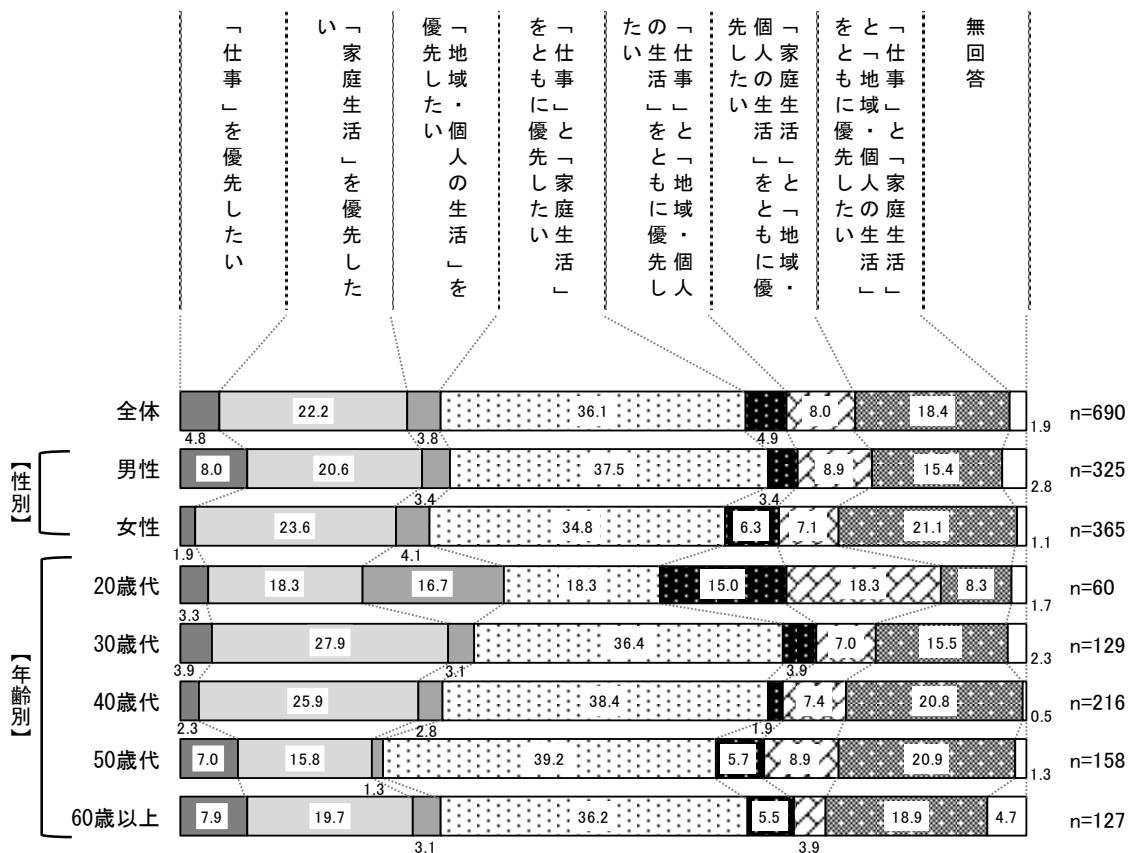
4-7 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問12から問13は、現在仕事に就いている方におたずねします。

問12 あなたは、暮らしの中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（付き合い、学習・趣味など）」の優先度について、どうしたいと思いますか。（○は1つ）

- ◆理想は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」、「家庭生活」を優先したい」が上位
- ◆前回調査と比べると、「仕事」を含む優先度はいずれも微増している

	平成28年9月	平成22年9月
「仕事」を優先したい	4.8%	3.9%
「家庭生活」を優先したい	22.2%	25.8%
「地域・個人の生活」を優先したい	3.8%	4.5%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	36.1%	35.8%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	4.9%	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.0%	8.4%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	18.4%	17.6%



【全体】

「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい（36.1％）が最も高く、次いで「家庭生活」を優先したい（22.2％）、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（18.4％）が高くなっています。

【性別】

男性は「仕事」を優先したい（8.0％）が女性（1.9％）より 6.1 ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は「地域・個人の生活」を優先したい、「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいがいずれも他の年代に比べて高くなっています。

【全国調査との比較】

国と比較すると、「仕事」を優先したい、「家庭生活」を優先したいは低く、「仕事」と「家庭生活」をともに優先したいは高くなっています。

性別で見ると、本市の女性は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい（21.1％）は国の女性（14.7％）より 6.4 ポイント高く、「家庭生活」を優先したい（23.6％）は国の女性（30.6％）より 7.0 ポイント低くなっています。

本市の男性は「仕事」を優先したい（8.0％）が国の男性（14.3％）より 6.3 ポイント低くなっています。

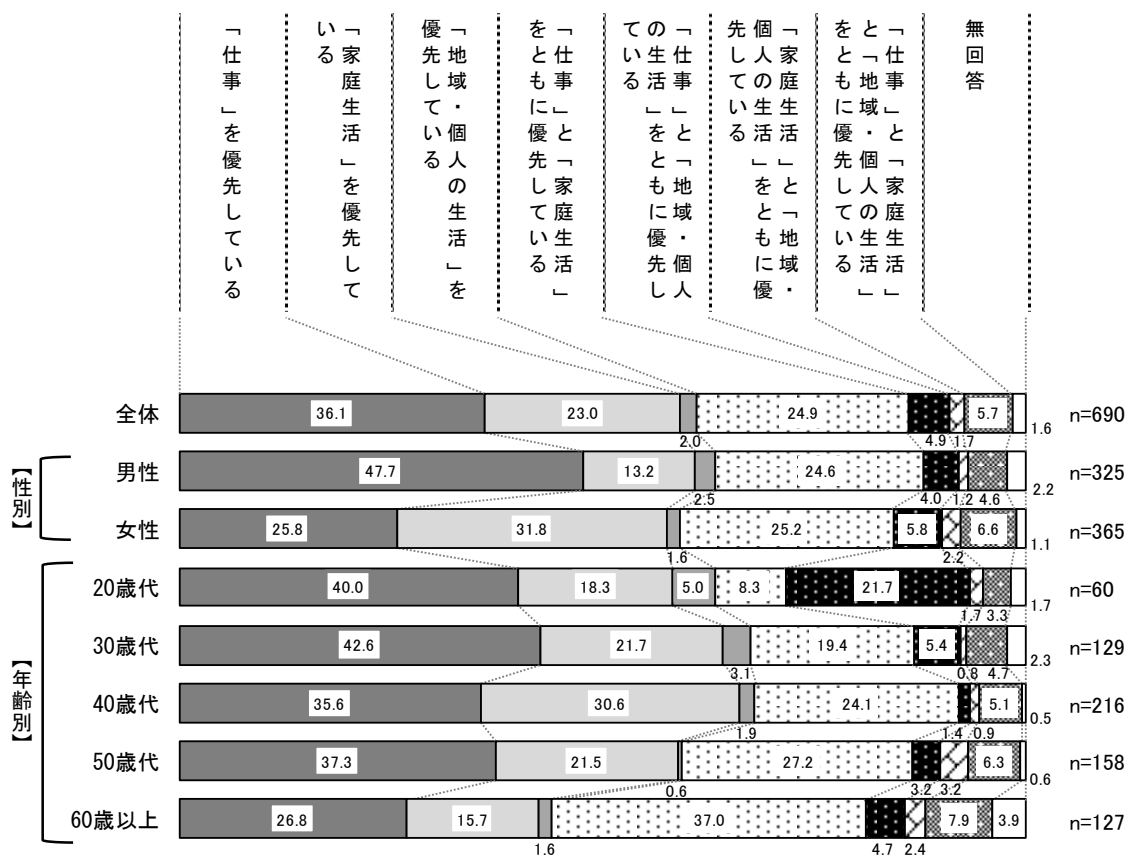
(%)

	春日井市		国(平成 28 年)			
		男性	女性		男性	女性
「仕事」を優先したい	4.8	8.0	1.9	8.9	14.3	4.2
「家庭生活」を優先したい	22.2	20.6	23.6	25.5	19.5	30.6
「地域・個人の生活」を優先したい	3.8	3.4	4.1	3.8	4.5	3.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	36.1	37.5	34.8	30.5	30.4	30.6
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	4.9	3.4	6.3	4.7	5.6	4.0
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	8.0	8.9	7.1	9.7	8.0	11.2
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	18.4	15.4	21.1	15.4	16.2	14.7

問 12(1) あなたは、現実には何を優先していますか。(○は1つ)

◆現実には「仕事」を優先している、「仕事」と「家庭生活」をともに優先している、「家庭生活」を優先しているが上位

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
「仕事」を優先している	36.1%	40.5%
「家庭生活」を優先している	23.0%	21.3%
「地域・個人の生活」を優先している	2.0%	3.7%
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	24.9%	23.3%
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.9%	2.7%
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	1.7%	3.2%
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.7%	4.2%



【全体】

「仕事」を優先している(36.1%)が最も高く、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先している(24.9%)、「家庭生活」を優先している(23.0%)が高くなっています。

【性別】

男性は「仕事」を優先している（47.7%）が女性（25.8%）より 21.9 ポイント高く、女性は「家庭生活」を優先している（31.8%）が男性（13.2%）より 18.6 ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が高いほど「仕事」と「家庭生活」をともに優先しているは高く、20 歳代は 8.3% であるのに対し、60 歳以上は 37.0% となっています。一方、20 歳代は「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している（21.7%）が他の年代に比べて高くなっています。

【全国調査との比較】

国と比較すると、本市は「仕事」を優先しているは国より 10.6 ポイント高く、「家庭生活」を優先している、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先しているは国より若干低くなっています。

性別でみると、本市の女性は「家庭生活」を優先している（31.8%）が国の女性（41.5%）より 9.7 ポイント低くなっています。

(%)

	春日井市		国(平成 28 年)			
		男性	女性	男性	女性	
「仕事」を優先している	36.1	47.7	25.8	25.5	37.0	15.8
「家庭生活」を優先している	23.0	13.2	31.8	30.5	17.5	41.5
「地域・個人の生活」を優先している	2.0	2.5	1.6	4.6	6.1	3.4
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	24.9	24.6	25.2	21.6	21.9	21.3
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.9	4.0	5.8	3.2	4.0	2.5
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	1.7	1.2	2.2	8.0	6.5	9.3
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	5.7	4.6	6.6	5.3	5.6	5.0

【理想と現実の比較】

理想では「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっていますが、現実では「仕事」を優先している」が最も高くなっています。また、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」のうち一つを優先したい（＝独立優先）か複数を優先したい（＝両立させたい）かという視点でみると、両立を理想とする人が合計 67.4%であるのに対し、現実に両立できている人は 37.2%となっており、現実が理想より 30.2 ポイント低くなっています。

性別でみると、理想では男女とも「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい」が最も高くなっていますが、現実では、男性は「仕事」を優先している」、女性は「家庭生活」を優先している」が最も高くなっています。両立の理想と現実については、性別での大きな差はみられませんでした。

国は、両立を理想とする人が 60.3%、現実に両立できている人が 38.1%で、現実が理想より 22.2 ポイント低くなっており、本市の方が理想と現実の差が大きくなっています。

(%)

			独立優先				両立				
			「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	計	「仕事」「家庭生活」をともに優先	「仕事」「地域・個人の生活」をともに優先	「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先	計
春日井市	全体	理想	4.8	22.2	3.8	30.8	36.1	4.9	8.0	18.4	67.4
		現実	36.1	23.0	2.0	61.1	24.9	4.9	1.7	5.7	37.2
		差(現実－理想)	31.3	0.8	-1.8	30.3	-11.2	0.0	-6.3	-12.7	-30.2
	男性	理想	8.0	20.6	3.4	32.0	37.5	3.4	8.9	15.4	65.2
		現実	47.7	13.2	2.5	63.4	24.6	4.0	1.2	4.6	34.4
		差(現実－理想)	39.7	-7.4	-0.9	31.4	-12.9	0.6	-7.7	-10.8	-30.8
	女性	理想	1.9	23.6	4.1	29.6	34.8	6.3	7.1	21.1	69.3
		現実	25.8	31.8	1.6	59.2	25.2	5.8	2.2	6.6	39.8
		差(現実－理想)	23.9	8.2	-2.5	29.6	-9.6	-0.5	-4.9	-14.5	-29.5
国(平成28年)	全体	理想	8.9	25.5	3.8	38.2	30.5	4.7	9.7	15.4	60.3
		現実	25.5	30.5	4.6	60.6	21.6	3.2	8.0	5.3	38.1
		差(現実－理想)	16.6	5.0	0.8	22.4	-8.9	-1.5	-1.7	-10.1	-22.2
	男性	理想	14.3	19.5	4.5	38.3	30.4	5.6	8.0	16.2	60.2
		現実	37.0	17.5	6.1	60.6	21.9	4.0	6.5	5.6	38.0
		差(現実－理想)	22.7	-2.0	1.6	22.3	-8.5	-1.6	-1.5	-10.6	-22.2
	女性	理想	4.2	30.6	3.3	38.1	30.6	4.0	11.2	14.7	60.5
		現実	15.8	41.5	3.4	60.7	21.3	2.5	9.3	5.0	38.1
		差(現実－理想)	11.6	10.9	0.1	22.6	-9.3	-1.5	-1.9	-9.7	-22.4

4-8 自身のワーク・ライフ・バランスの状況

問 12 から問 13 は、現在仕事に就いている方におたずねします。

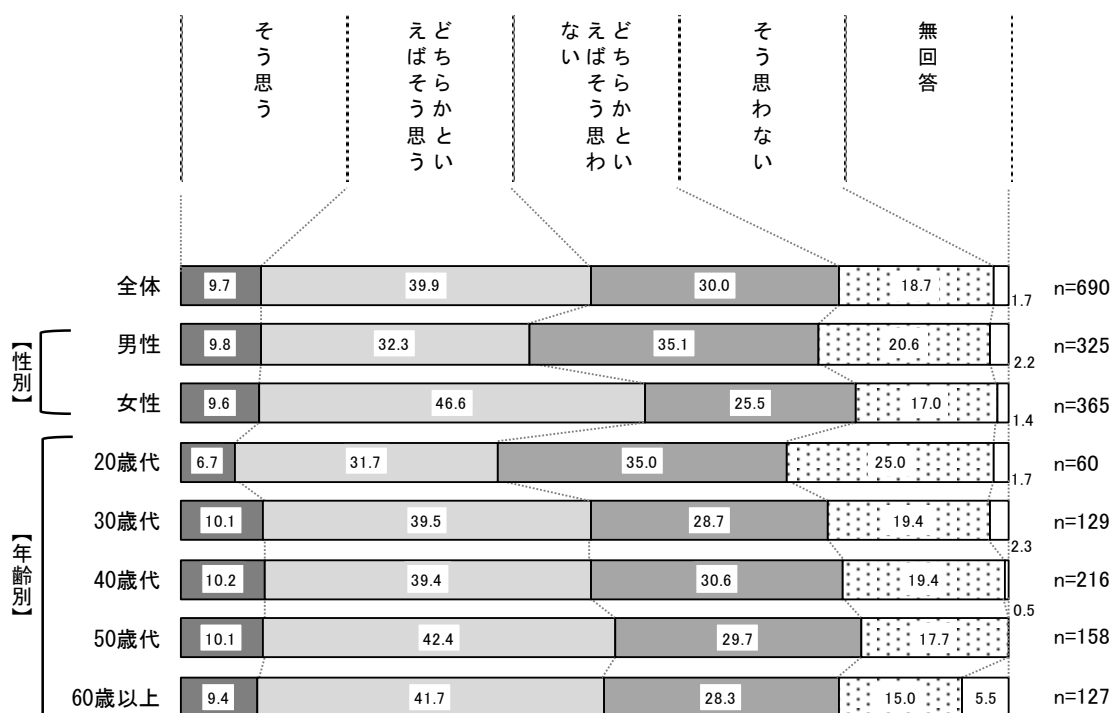
問 13 仕事や家庭生活、地域・個人の生活などについて自ら希望するバランスで取り組むことができる状態を“ワーク・ライフ・バランス”と言います。あなたは、現在、ワーク・ライフ・バランスがうまくとれていると思いますか。(〇は1つ)

◆『とれていると思う』は 49.6%、『とれていると思わない』は 48.7%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
『とれていると思う』	49.6%	46.3%
そう思う	9.7%	11.6%
どちらかといえばそう思う	39.9%	34.7%
『とれていると思わない』	48.7%	52.8%
どちらかといえばそう思わない	30.0%	31.7%
そう思わない	18.7%	21.1%

『とれていると思う』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合算

『とれていると思わない』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合算



【全体】

『とれていると思う』は 49.6%、『とれていると思わない』は 48.7%となっています。

【性別】

女性は『とれていると思う』(56.2%)が男性(42.1%)より14.1ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は『とれていると思う』(38.4%)が他の年代に比べて低くなっています。

4-9 非就業者の今後の就業意向

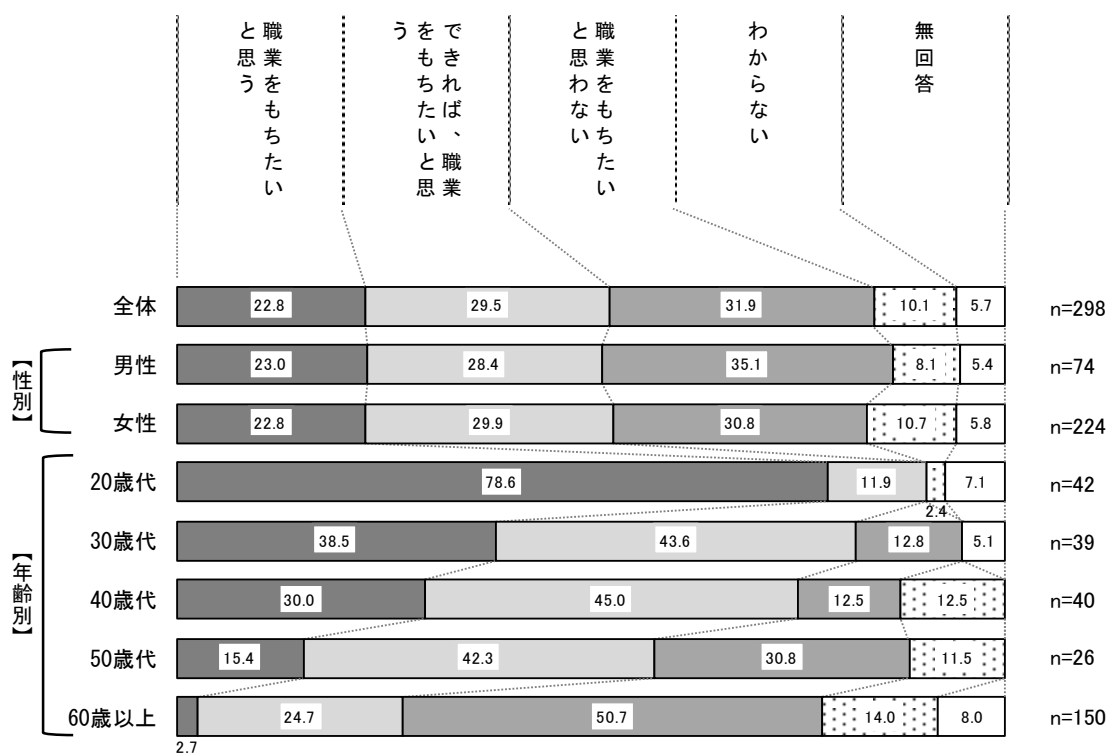
問 14 は、現在仕事に就いていない方におたずねします。

問 14 あなたは、今後、収入を得る職業をもちたいと思いますか。(○は1つ)

◆『職業をもちたい』は 52.3%、「職業をもちたいと思わない」は 31.9%

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
『職業をもちたい』	52.3%	55.4%
職業をもちたいと思う	22.8%	24.0%
できれば、職業をもちたいと思う	29.5%	31.4%
職業をもちたいと思わない	31.9%	29.6%
わからない	10.1%	7.0%

『職業をもちたい』…「職業をもちたいと思う」と「できれば、職業をもちたいと思う」を合算



【全体】

「できれば、職業をもちたいと思う」と「職業をもちたいと思う」を合わせた『職業をもちたい』人は52.3%となっています。一方、「職業をもちたいと思わない」人は31.9%です。

【性別】

男性は「職業をもちたいと思わない」(35.1%)が女性(30.8%)より4.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「職業をもちたいと思う」は高く、年齢が高いほど「職業をもちたいと思わない」は概ね高くなっています。

【性・年齢別】

60歳以上は男性は『職業をもちたい』(34.0%)が女性(24.0%)より10.0ポイント高くなっています。

(%)

		件数 (件)	『職業をもちたい』	職業をもちたいと思う	できれば、職業をもちたいと思う	職業をもちたいと思わない	わからない	無回答
20歳代	男性	16	93.8	87.5	6.3	—	6.3	—
	女性	26	88.5	73.1	15.4	—	—	11.5
30歳代	男性	1	x	x	x	x	x	x
	女性	38	81.6	39.5	42.1	13.2	—	5.3
40歳代	男性	1	x	x	x	x	x	x
	女性	39	74.4	28.2	46.2	12.8	12.8	—
50歳代	男性	6	66.7	—	66.7	33.3	—	—
	女性	20	55.0	20.0	35.0	30.0	15.0	—
60歳以上	男性	50	34.0	4.0	30.0	48.0	10.0	8.0
	女性	100	24.0	2.0	22.0	52.0	16.0	8.0

30歳代男性及び40歳代男性は該当者が1名のため、データを非掲載とし、「x」で表示した。

【結婚の有無別】

『結婚していない』人は『職業をもちたい』(71.0%)が結婚している人(46.9%)より24.1ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	『職業をもちたい』	職業をもちたいと思う	できれば、職業をもちたいと思う	職業をもちたいと思わない	わからない	無回答
結婚している	228	46.9	15.8	31.1	35.5	11.0	6.6
『結婚していない』	69	71.0	46.4	24.6	18.8	7.2	2.9

「結婚している」は「既婚(事実婚を含む)」、「結婚していない」は「未婚」「離別」「死別」の合計

【子どもの有無別】

子どものいない人は『職業をもちたい』（67.2%）が子どものいる人（46.1%）より21.1ポイント高くなっています。

	件数（件）	『職業をもちたい』	職業をもちたいと思う	できれば、職業をもちたいと思う	職業をもちたいと思わない	わからない	無回答
子どもがいる	217	46.1	16.6	29.5	35.9	11.1	6.9
子どもはいない	64	67.2	34.4	32.8	20.3	9.4	3.1

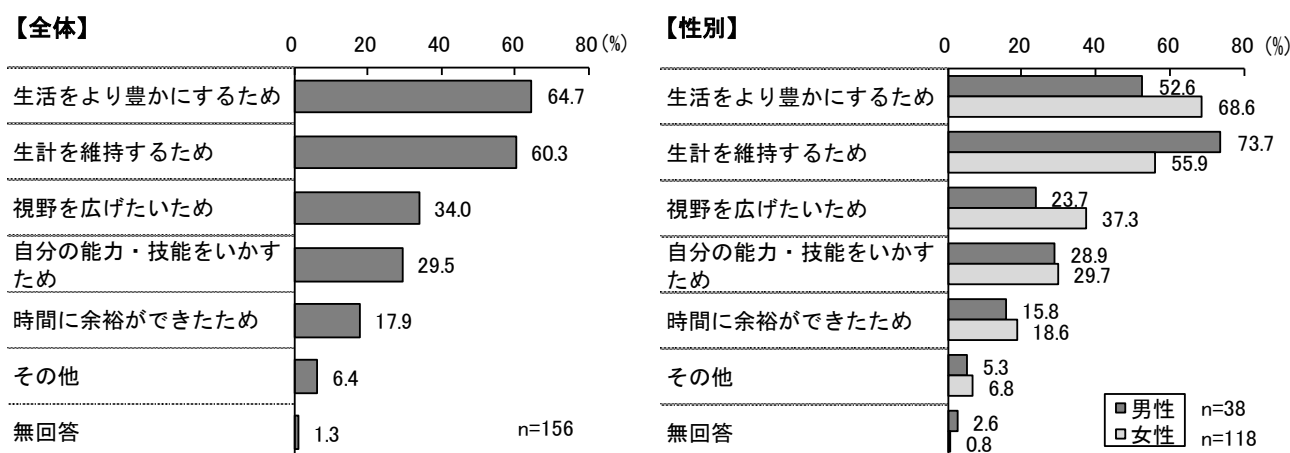
(%)

問14で、「1 職業をもちたいと思う」または「2 できれば、職業をもちたいと思う」と回答した方におたずねします。

問14(1) あなたが職業をもちたいと思っているのは、どのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

◆「生活をより豊かにするため」、「生計を維持するため」が6割以上

◆男性は「生計を維持するため」、女性は「生活をより豊かにするため」が最も高い



【全体】

「生活をより豊かにするため」(64.7%)が最も高く、次いで「生計を維持するため」(60.3%)、「視野を広げたいため」(34.0%)が高くなっています。

【性別】

男性は「生計を維持するため」(73.7%)が最も高く、女性(55.9%)より17.8ポイント高くなっています。

女性は「生活をより豊かにするため」(68.6%)が最も高く、男性(52.6%)より16.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代は「生計を維持するため」(76.3%)、40 歳代は「生活をより豊かにするため」(73.3%) がそれぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	生活をより豊かにするため	生計を維持するため	視野を広げたいため	自分の能力・技能をいかすため	時間に余裕ができたため	その他	無回答
20 歳代	38	71.1	76.3	28.9	34.2	5.3	5.3	—
30 歳代	32	71.9	62.5	40.6	25.0	6.3	6.3	—
40 歳代	30	73.3	53.3	36.7	33.3	23.3	6.7	3.3
50 歳代	15	60.0	66.7	46.7	26.7	33.3	13.3	—
60 歳以上	41	48.8	46.3	26.8	26.8	29.3	4.9	2.4

【結婚の有無別】

結婚している人は「時間に余裕ができたため」(24.3%) が『結婚していない』人(4.1%)より 20.2 ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「生計を維持するため」(81.6%) が結婚している人(50.5%)より 31.1 ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	生活をより豊かにするため	生計を維持するため	視野を広げたいため	自分の能力・技能をいかすため	時間に余裕ができたため	その他	無回答
結婚している	107	66.4	50.5	34.6	29.0	24.3	7.5	1.9
『結婚していない』	49	61.2	81.6	32.7	30.6	4.1	4.1	—

【子どもの有無別】

子どものいる人は「時間に余裕ができたため」(23.0%) が子どものいない人(11.6%)より 11.4 ポイント高くなっています。

子どものいない人は「生計を維持するため」(67.4%) が子どものいる人(53.0%)より 14.4 ポイント高くなっています。

(%)

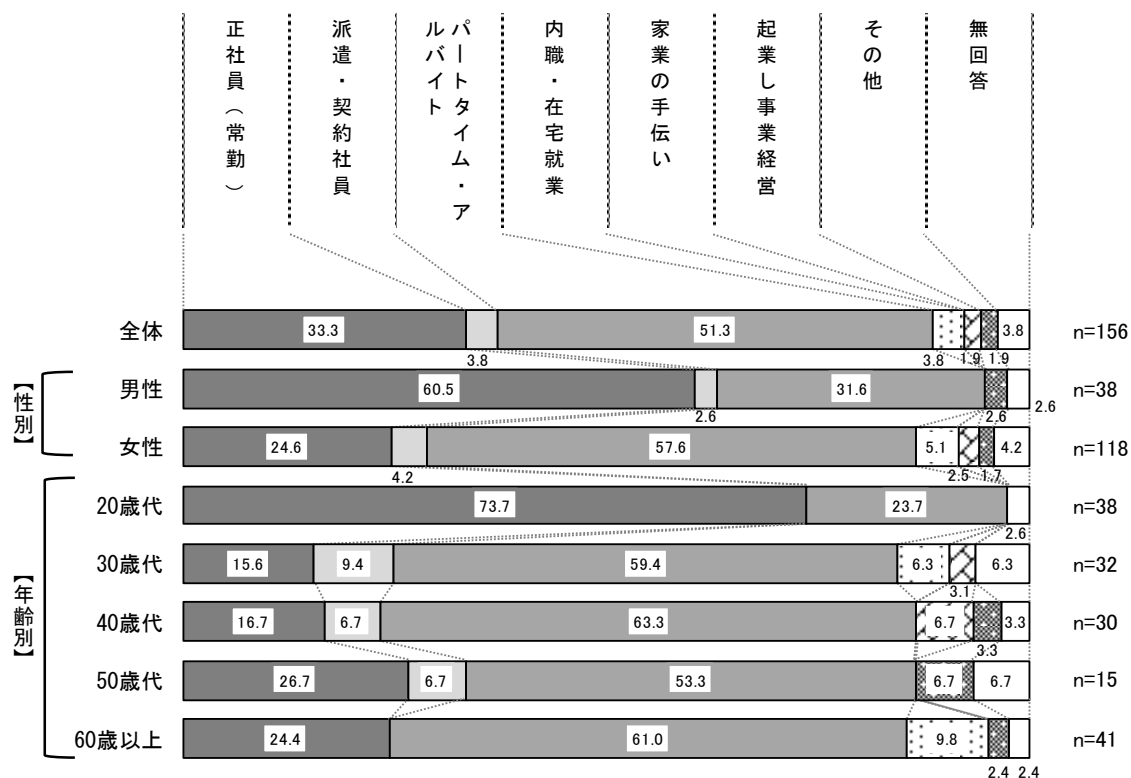
	件数 (件)	生活をより豊かにするため	生計を維持するため	視野を広げたいため	自分の能力・技能をいかすため	時間に余裕ができたため	その他	無回答
子どもがいる	100	64.0	53.0	36.0	31.0	23.0	7.0	2.0
子どもはいない	43	67.4	67.4	32.6	25.6	11.6	4.7	—

問 14(2) あなたが職業をもって働くとしたら、どのような形で働きたいですか。(○は1つ)

◆「パートタイム・アルバイト」が約5割、「正社員」が3割強

◆前回調査と比べて「正社員」が増加、「パートタイム・アルバイト」が減少

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
正社員(常勤)	33.3%	24.3%
派遣・契約社員	3.8%	3.7%
パートタイム・アルバイト	51.3%	58.7%
内職・在宅就業	3.8%	3.2%
家業の手伝い	—	0.5%
起業し事業経営	1.9%	5.3%
その他	1.9%	2.1%



【全体】

「パートタイム・アルバイト」(51.3%)が最も高く、次いで「正社員(常勤)」(33.3%)が高くなっています。

【性別】

男性は「正社員(常勤)」(60.5%)が高く、女性は「パートタイム・アルバイト」(57.6%)が高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「正社員（常勤）」が73.7%と非常に高くなっています。

【結婚の有無別】

結婚している人は「パートタイム・アルバイト」(65.4%)が『結婚していない』人(20.4%)より45.0ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「正社員（常勤）」(71.4%)が結婚している人(15.9%)より55.5ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	正社員 (常勤)	派遣・契約社員	パートタイム・ アルバイト	内職・在宅就業	家業の手伝い	営業 起業し事業経	その他	無回答
結婚している	107	15.9	4.7	65.4	4.7	—	2.8	1.9	4.7
『結婚していない』	49	71.4	2.0	20.4	2.0	—	—	2.0	2.0

【子どもの有無別】

子どものいる人は「パートタイム・アルバイト」(59.0%)が子どものいない人(44.2%)より14.8ポイント高くなっています。

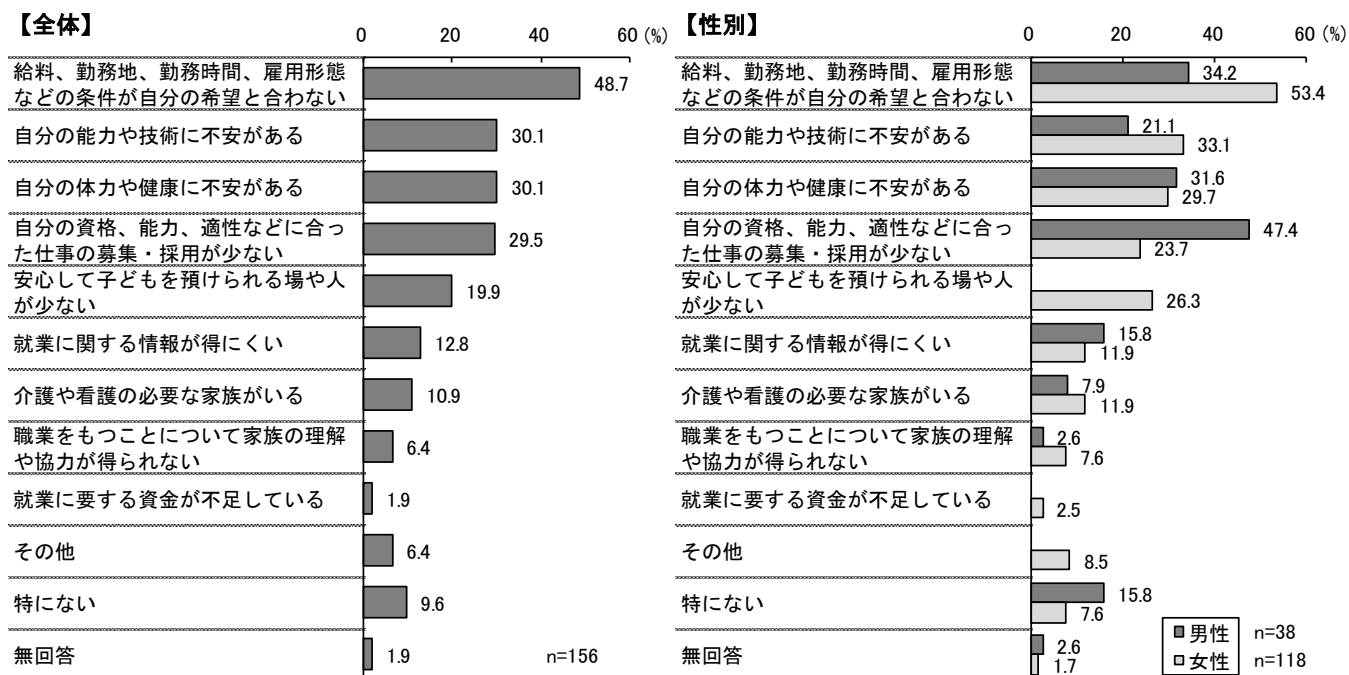
子どものいない人は「正社員（常勤）」(53.5%)が子どものいる人(20.0%)より33.5ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	正社員 (常勤)	派遣・契約社員	パートタイム・ アルバイト	内職・在宅就業	家業の手伝い	営業 起業し事業経	その他	無回答
子どもがいる	100	20.0	5.0	59.0	6.0	—	3.0	2.0	5.0
子どもはいない	43	53.5	—	44.2	—	—	—	2.3	—

問 14(3) あなたは、職業をもつ上で、何か困っていることがありますか。
 (あてはまるものすべてに○)

- ◆「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」が約5割
- ◆男性では「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」、女性では「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」が最も高い



【全体】

「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(48.7%)が最も高く、次いで「自分の能力や技術に不安がある」「自分の体力や健康に不安がある」(ともに30.1%)、「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」(29.5%)が高くなっています。

【性別】

男性は「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」(47.4%)が最も高く、次いで「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(34.2%)が高くなっています。

女性は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(53.4%)が最も高く、次いで「自分の能力や技術に不安がある」(33.1%)が高くなっています。

【年齢別】

30歳代は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」、「安心して子どもを預けられる場や人が少ない」、60歳以上は「自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特になし	無回答
20歳代	38	36.8	34.2	15.8	21.1	13.2	5.3	2.6	—	—	2.6	26.3	5.3
30歳代	32	71.9	37.5	15.6	12.5	53.1	18.8	3.1	12.5	—	12.5	6.3	—
40歳代	30	63.3	33.3	43.3	23.3	23.3	3.3	20.0	10.0	3.3	—	6.7	—
50歳代	15	53.3	26.7	60.0	46.7	6.7	20.0	6.7	—	—	6.7	—	—
60歳以上	41	29.3	19.5	34.1	48.8	2.4	19.5	19.5	7.3	4.9	9.8	2.4	2.4

【結婚の有無別】

結婚している人は「給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない」(52.3%)が『結婚していない』人(40.8%)より11.5ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「自分の能力や技術に不安がある」(38.8%)が結婚している人(26.2%)より12.6ポイント高く、「特になし」(20.4%)が結婚している人(4.7%)より15.7ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特になし	無回答
結婚している	107	52.3	26.2	28.0	27.1	28.0	13.1	14.0	9.3	1.9	7.5	4.7	1.9
『結婚していない』	49	40.8	38.8	34.7	34.7	2.0	12.2	4.1	—	2.0	4.1	20.4	2.0

【子どもの有無別】

子どものいない人は「自分の体力や健康に不安がある」(46.5%)が子どものいる人(24.0%)より22.5ポイント高く、「特にない」(16.3%)が子どものいる人(5.0%)より11.3ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	給料、勤務地、勤務時間、雇用形態などの条件が自分の希望と合わない	自分の能力や技術に不安がある	自分の体力や健康に不安がある	自分の資格、能力、適性などに合った仕事の募集・採用が少ない	安心して子どもを預けられる場や人が少ない	就業に関する情報が得にくい	介護や看護の必要な家族がいる	職業をもつことについて家族の理解や協力が得られない	就業に要する資金が不足している	その他	特にない	無回答
子どもがいる	100	50.0	25.0	24.0	28.0	31.0	12.0	12.0	9.0	3.0	10.0	5.0	1.0
子どもはいない	43	46.5	34.9	46.5	32.6	—	16.3	11.6	2.3	—	—	16.3	4.7

5 地域活動について

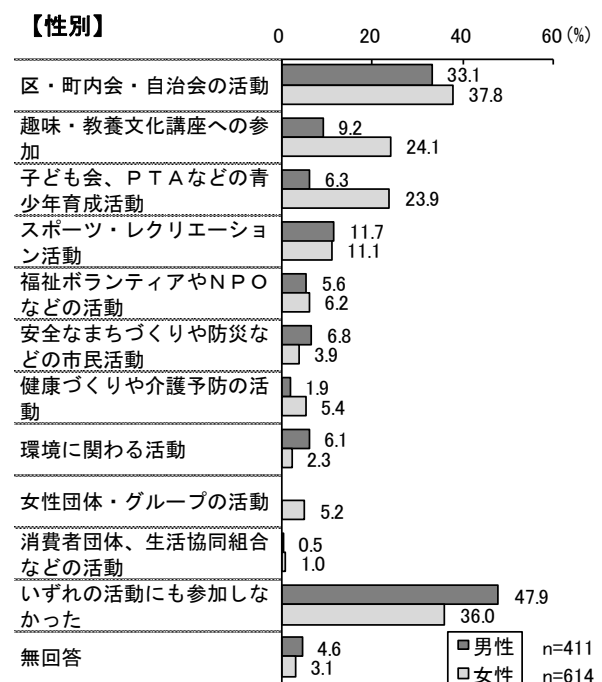
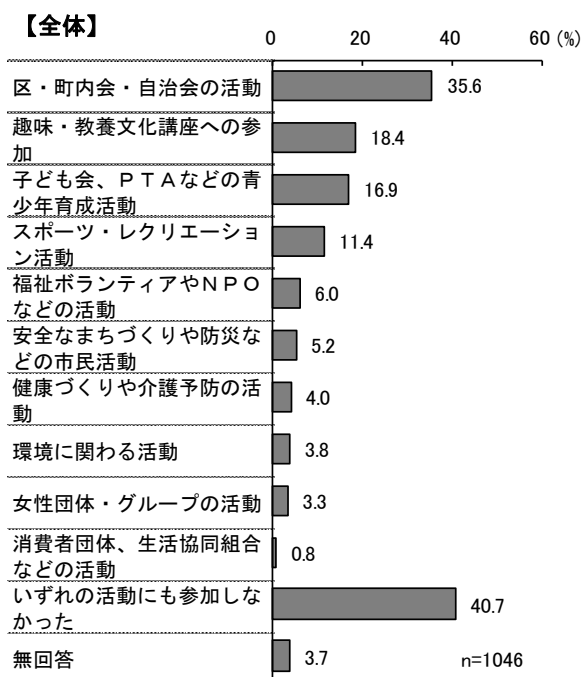
5-1 地域活動への参加状況

問 15 最近5年間に、あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 「いずれの活動にも参加しなかった」が最も高い
- ◆ 参加した活動では、「区・町内会・自治会の活動」、「趣味・教養文化講座への参加」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が上位
- ◆ 前回調査と比べて「区・町内会・自治会の活動」以外のすべての活動への参加が減少

※前回調査の設問文は「あなたは、次のような地域活動に参加したことがありますか」。

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
区・町内会・自治会の活動	35.6%	33.7%
趣味・教養文化講座への参加	18.4%	28.7%
子ども会、PTAなどの青少年育成活動	16.9%	27.0%
スポーツ・レクリエーション活動	11.4%	17.6%
福祉ボランティアやNPOなどの活動	6.0%	7.1%
安全なまちづくりや防災などの市民活動	5.2%	5.4%
健康づくりや介護予防の活動	4.0%	6.1%
環境に関わる活動	3.8%	4.8%
女性団体・グループの活動	3.3%	6.8%
消費者団体、生活協同組合などの活動	0.8%	4.7%
(防災に関する活動)		11.6%
(文化・芸術活動)		9.3%
いずれの活動にも参加しなかった	40.7%	32.3%



【全体】

「いずれの活動にも参加しなかった」（40.7％）が最も高く、次いで「区・町内会・自治会の活動」（35.6％）、「趣味・教養文化講座への参加」（18.4％）、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」（16.9％）が高くなっています。

【性別】

女性は「趣味・教養文化講座への参加」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」が2割台で、男性より高くなっています。

【年齢別】

40歳代は「区・町内会・自治会の活動」、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」、60歳以上は「趣味・教養文化講座への参加」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
20歳代	106	4.7	5.7	3.8	4.7	5.7	—	0.9	0.9	0.9	—	74.5	4.7	
30歳代	171	19.9	14.0	16.4	7.0	1.2	2.9	1.8	4.7	1.8	0.6	55.0	3.5	
40歳代	265	48.3	17.4	34.0	12.5	5.7	4.5	1.9	3.8	2.6	0.8	26.4	1.5	
50歳代	191	46.6	15.2	13.1	11.0	4.7	5.8	3.7	4.7	3.1	—	36.1	5.2	
60歳以上	291	38.5	27.5	8.9	15.5	10.0	8.2	8.6	3.8	5.2	1.7	36.4	4.5	

【結婚の有無別】

結婚している人は「区・町内会・自治会の活動」（42.4％）が『結婚していない』人（17.7％）より24.7ポイント高く、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」（20.1％）が『結婚していない』人（7.5％）より12.6ポイント高くなっています。

『結婚していない』人は「いずれの活動にも参加しなかった」（62.8％）が結婚している人（33.0％）より29.8ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
結婚している	757	42.4	20.2	20.1	12.7	6.2	5.9	4.2	4.6	3.4	0.9	33.0	4.0	
『結婚していない』	266	17.7	12.0	7.5	7.5	5.3	2.6	3.4	1.5	2.3	0.4	62.8	3.0	

【職業別】

パートタイム・アルバイトは「区・町内会・自治会の活動」(46.7%)、「子ども会、PTAなどの青少年育成活動」(29.5%)、専業主婦・専業主夫は「趣味・教養文化講座への参加」(33.3%)が、それぞれ他の職業に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
会社員	320	31.3	8.1	7.8	11.3	3.8	5.0	0.6	5.6	0.3	0.3	49.1	4.4	
公務員	53	32.1	7.5	26.4	17.0	5.7	5.7	1.9	1.9	1.9	—	45.3	—	
派遣・契約社員	30	23.3	20.0	20.0	10.0	3.3	—	—	3.3	—	—	40.0	6.7	
パートタイム・アルバイト	210	46.7	21.9	29.5	11.0	6.2	6.7	4.3	2.4	4.8	0.5	31.0	4.3	
自営業	65	41.5	20.0	13.8	10.8	7.7	4.6	6.2	6.2	7.7	3.1	32.3	4.6	
農業	3	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
内職・在宅就業	9	66.7	55.6	44.4	22.2	11.1	—	—	—	—	—	11.1	—	
専業主婦・専業主夫	174	37.9	33.3	23.0	12.6	8.6	3.4	8.6	3.4	6.3	1.7	29.3	2.9	
学生	24	12.5	8.3	12.5	4.2	12.5	—	—	4.2	—	—	58.3	4.2	
無職	100	28.0	23.0	5.0	12.0	7.0	8.0	9.0	3.0	4.0	1.0	53.0	4.0	
その他	27	44.4	7.4	11.1	3.7	—	7.4	3.7	—	—	—	51.9	—	

【子どもの有無別】

子どものいる人は「区・町内会・自治会の活動」(44.7%)が子どものいない人(13.2%)より31.5ポイント高くなっています。

子どものいない人は「いずれの活動にも参加しなかった」(70.5%)が子どものいる人(29.9%)より40.6ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	区・町内会・自治会の活動	趣味・教養文化講座への参加	子ども会、PTAなどの青少年育成活動	スポーツ・レクリエーション活動	福祉ボランティアやNPOなどの活動	防災などの市民活動	安全なまちづくりや防犯などの活動	健康づくりや介護予防の活動	環境に関わる活動	女性団体・グループの活動	消費者団体、生活協同組合などの活動	いずれの活動にも参加しなかった	無回答
子どもがいる	739	44.7	21.1	22.6	13.7	6.6	6.5	5.1	4.7	3.8	1.1	29.9	4.2	
子どもはいない	220	13.2	10.5	0.9	5.9	3.6	1.8	1.4	1.8	1.8	—	70.5	1.8	

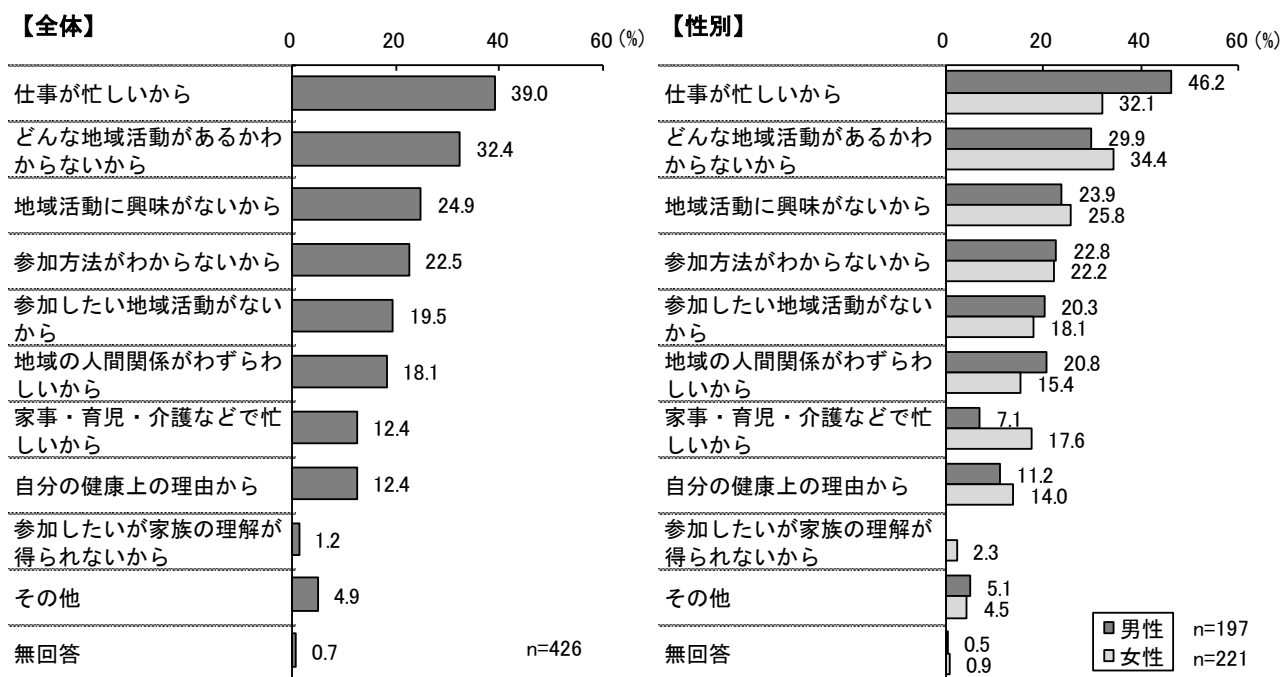
問 15 で、「11 いずれの活動にも参加しなかった」と回答した方におたずねします。

問 15(1) いずれの活動にも参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

◆「仕事が忙しいから」、「どんな地域活動があるかわからないから」、「地域活動に興味がないから」が上位

◆前回調査と比べて「仕事が忙しいから」が減少し、「参加したい地域活動がないから」が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
仕事が忙しいから	39.0%	50.0%
どんな地域活動があるかわからないから	32.4%	33.0%
地域活動に興味がないから	24.9%	19.6%
参加方法がわからないから	22.5%	19.9%
参加したい地域活動がないから	19.5%	11.3%
地域の人間関係がわずらわしいから	18.1%	17.9%
家事・育児・介護などで忙しいから	12.4%	14.3%
自分の健康上の理由から	12.4%	8.0%
参加したいが家族の理解が得られないから	1.2%	0.3%
その他	4.9%	5.1%



【全体】

「仕事が忙しいから」(39.0%) が最も高く、次いで「どんな地域活動があるかわからないから」(32.4%)、「地域活動に興味がないから」(24.9%) が高くなっています。

【性別】

男性は「仕事が忙しいから」(46.2%)が女性(32.1%)より14.1ポイント高く、女性は「家事・育児・介護などで忙しいから」(17.6%)が男性(7.1%)より10.5ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「どんな地域活動があるかわからないから」、40歳代は「地域活動に興味がないから」、60歳以上は「自分の健康上の理由から」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の人間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
20歳代	79	43.0	44.3	26.6	30.4	19.0	2.5	11.4	5.1	—	6.3	—
30歳代	94	50.0	38.3	29.8	28.7	20.2	13.8	16.0	4.3	—	2.1	—
40歳代	70	50.0	28.6	37.1	20.0	15.7	27.1	12.9	4.3	1.4	2.9	2.9
50歳代	69	40.6	39.1	20.3	21.7	20.3	23.2	13.0	15.9	—	2.9	—
60歳以上	106	17.0	16.0	14.2	13.2	19.8	23.6	10.4	29.2	3.8	8.5	0.9

【結婚の有無別】

結婚している人は「家事・育児・介護などで忙しいから」(16.8%)が『結婚していない』人(6.6%)より10.2ポイント高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	地域の人間関係がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
結婚している	250	36.0	30.0	24.0	20.0	20.0	20.4	16.8	10.4	1.6	4.8	0.8
『結婚していない』	167	43.1	35.9	25.7	26.3	18.0	14.4	6.6	16.2	0.6	4.8	0.6

【職業別】

会社員は「仕事が忙しいから」(55.4%)、専業主婦・専業主夫は「家事・育児・介護などで忙しいから」(27.5%)、無職は「参加したい地域活動がないから」(32.1%)、「地域の人間関係がわずらわしいから」(28.3%)、「自分の健康上の理由から」(43.4%)が、それぞれ他の職業に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	参加したい地域活動がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
会社員	157	55.4	36.3	31.8	28.7	17.8	17.2	10.8	3.2	—	3.2	1.3
公務員	24	58.3	33.3	16.7	12.5	20.8	8.3	8.3	—	—	4.2	—
派遣・契約社員	12	41.7	33.3	50.0	16.7	33.3	25.0	—	—	—	8.3	—
パートタイム・アルバイト	65	41.5	32.3	26.2	18.5	10.8	15.4	18.5	16.9	—	3.1	1.5
自営業	21	61.9	33.3	14.3	14.3	14.3	19.0	—	9.5	4.8	4.8	—
農業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
内職・在宅就業	1	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
専業主婦・専業主夫	51	9.8	31.4	15.7	19.6	15.7	15.7	27.5	19.6	5.9	5.9	—
学生	14	21.4	14.3	21.4	28.6	7.1	—	—	—	—	21.4	—
無職	53	3.8	22.6	15.1	17.0	32.1	28.3	9.4	43.4	1.9	5.7	—
その他	14	28.6	42.9	21.4	28.6	42.9	28.6	7.1	—	—	—	—

【子どもの有無別】

子どものいる人は「家事・育児・介護などで忙しいから」(19.0%)が子どものいない人(7.1%)より 11.9ポイント高くなっています。

子どものいない人は「どんな地域活動があるかわからないから」、「地域活動に興味がないから」が子どものいる人より 10ポイント以上高くなっています。

(%)

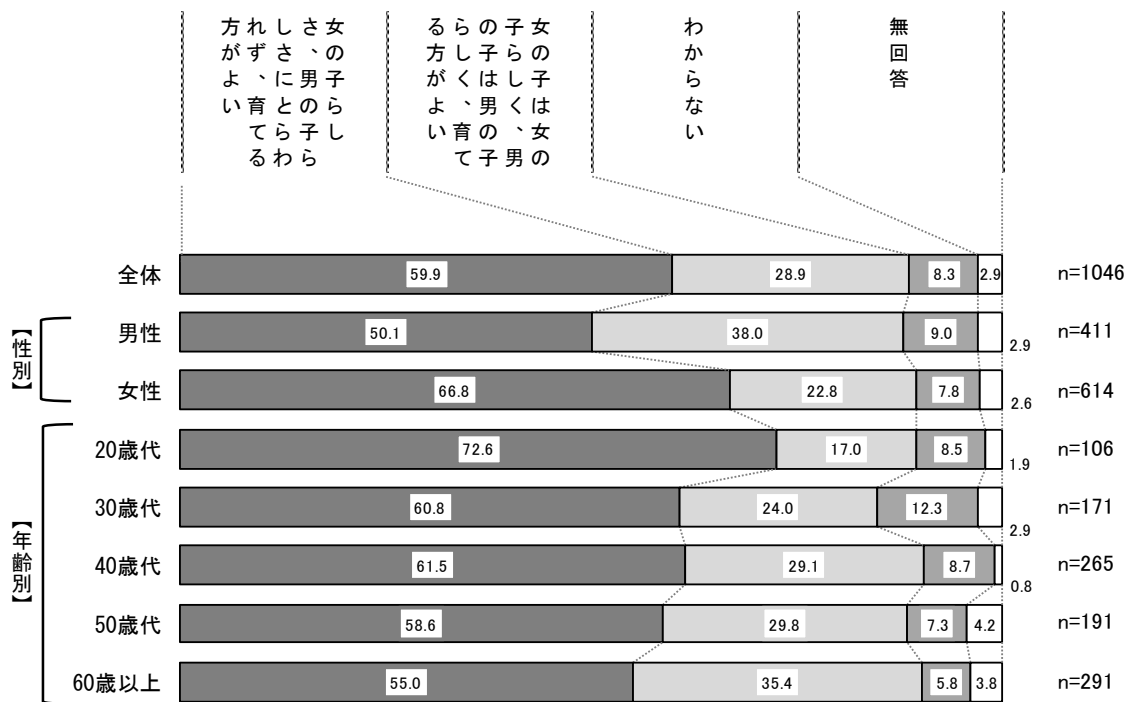
	件数(件)	仕事が忙しいから	どんな地域活動があるかわからないから	地域活動に興味がないから	参加方法がわからないから	参加したい地域活動がないから	参加したい地域活動がわずらわしいから	家事・育児・介護などで忙しいから	自分の健康上の理由から	参加したいが家族の理解が得られないから	その他	無回答
子どもがいる	221	36.7	26.7	19.5	19.5	17.6	20.4	19.0	12.7	1.8	5.0	0.9
子どもはいない	155	40.0	37.4	32.3	24.5	21.3	15.5	7.1	14.8	0.6	2.6	0.6

6 子どもの教育について

6-1 望ましい子どもの育て方

問 16 あなたは、どのように子どもを育てるのがよいと思いますか。(〇は1つ)

◆「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」は約6割、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」は約3割



【全体】

「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(59.9%)が最も高く、次いで「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」(28.9%)が高くなっています。

【性別】

男性は「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」(38.0%)が女性(22.8%)より15.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(72.6%)が他の年代に比べて高くなっています。

【子どもの有無別】

子どものいる人は「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい」(31.9%) が子どものいない人 (20.0%) より 11.9 ポイント高くなっています。

子どものいない人は「女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい」(67.3%) が子どものいる人 (57.8%) より 9.5 ポイント高くなっています。

(%)

	件数 (件)	女の子らしさ、男の子らしさにとらわれず、育てる方がよい	女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく、育てる方がよい	わからない	無回答
子どもがいる	739	57.8	31.9	7.0	3.2
子どもはいない	220	67.3	20.0	11.4	1.4

6-2 子どもに期待する進学先

問17 子どもにはどこまで進学することを期待しますか。女の子と男の子の場合について、それぞれ1つずつ選んで、番号に○をつけてください。

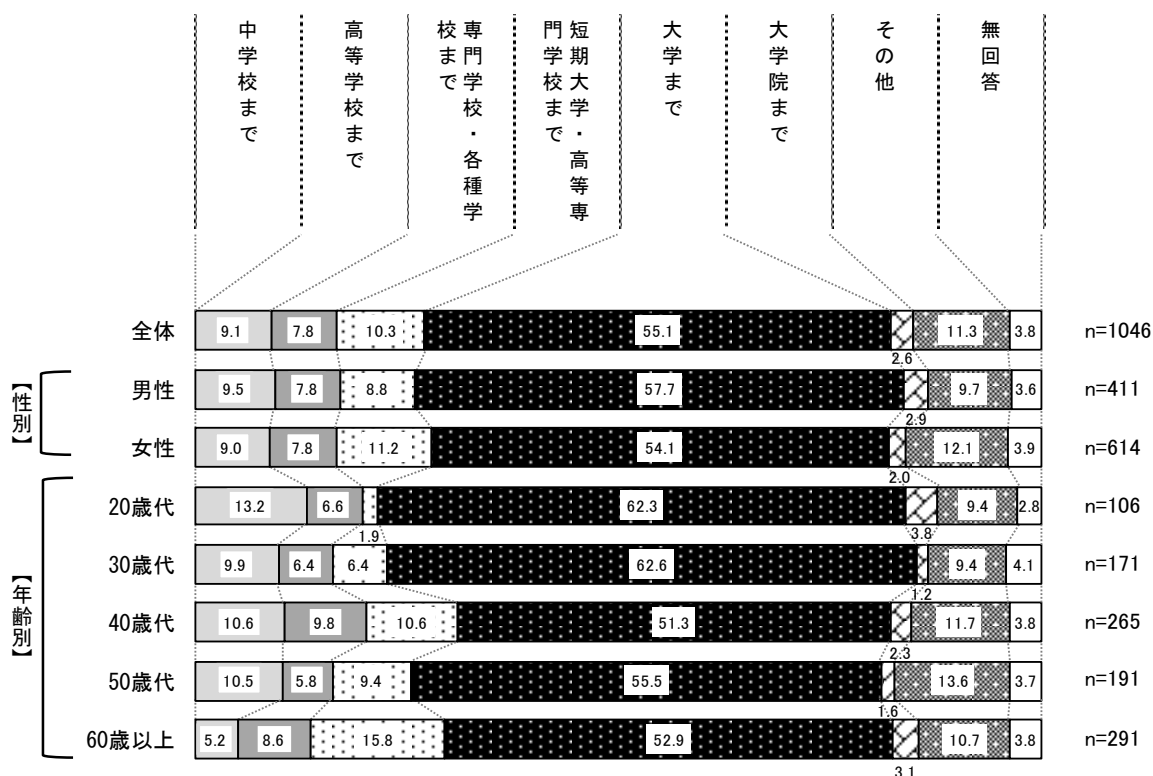
<女の子の場合>

◆「大学まで」が5割強、「短期大学・高等専門学校まで」が約1割

◆前回調査と比べて「高等学校まで」が減少し、「大学まで」が増加

※前回調査の設問文は「子どもの教育はどこまでを期待しますか」。

	平成 28 年9月	平成 22 年9月
中学校まで	—	3.9%
高等学校まで	9.1%	23.2%
専門学校・各種学校まで	7.8%	8.1%
短期大学・高等専門学校まで	10.3%	16.9%
大学まで ※前回調査は「4年制大学まで」	55.1%	39.1%
大学院まで	2.6%	1.0%
その他	11.3%	4.1%



【全体】

「大学まで」(55.1%)が最も高く、次いで「その他」(11.3%)、「短期大学・高等専門学校まで」(10.3%)が高くなっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

20歳代・30歳代は「大学まで」が6割以上と若干高くなっています。

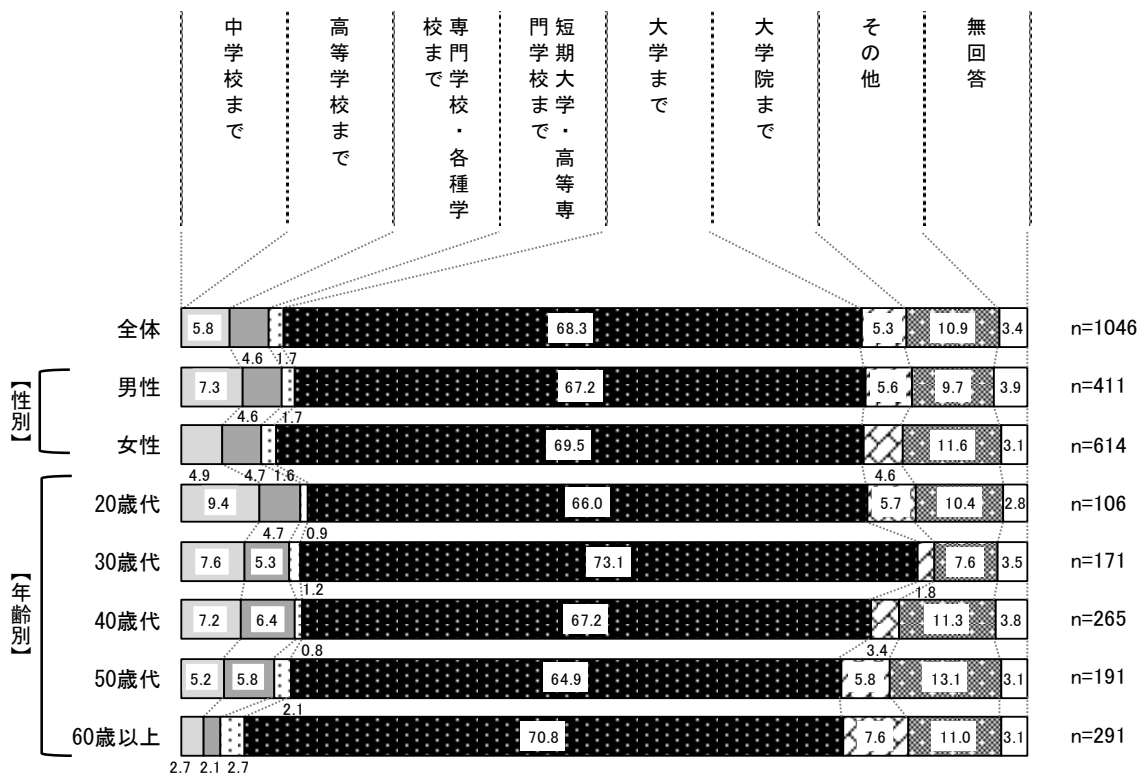
<男の子の場合>

◆「大学まで」が7割弱、他は1割未満

◆前回調査と比べて「高等学校まで」が減少し、「大学まで」が増加

※前回調査の設問文は「子どもの教育はどこまでを期待しますか」。

	平成 28 年 9 月	平成 22 年 9 月
中学校まで	—	4.5%
高等学校まで	5.8%	20.8%
専門学校・各種学校まで	4.6%	6.7%
短期大学・高等専門学校まで	1.7%	2.8%
大学まで ※前回調査は「4年制大学まで」	68.3%	53.8%
大学院まで	5.3%	4.1%
その他	10.9%	4.4%



【全体】

「大学まで」(68.3%)が最も高く、次いで「その他」(10.9%)、「高等学校まで」(5.8%)が高くなっています。

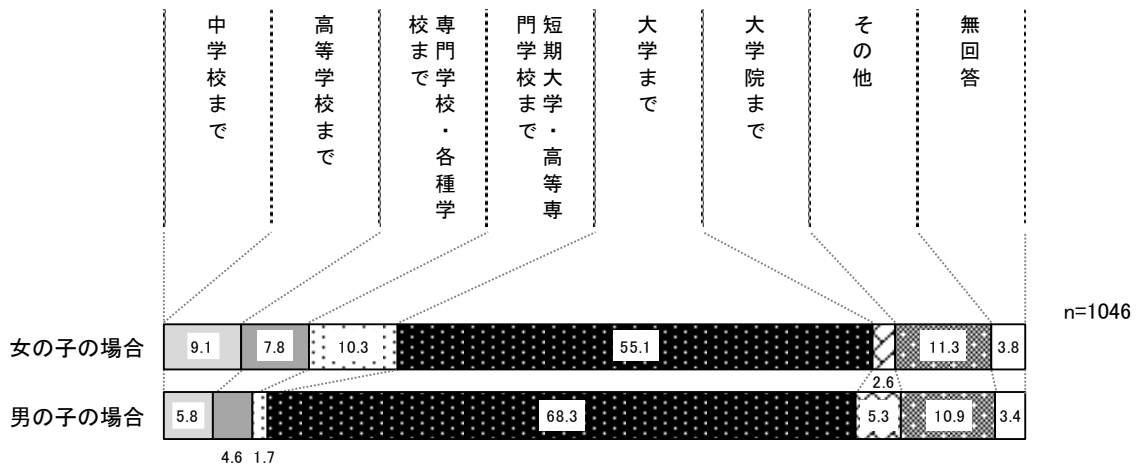
【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

30歳代は「大学まで」(73.1%)が若干高くなっています。

【女の子と男の子の比較】



女の子の場合は「短期大学・高等専門学校まで」(10.3%)が男の子(1.7%)より8.6ポイント高く、男の子の場合は「大学まで」(68.3%)が女の子(55.1%)より13.2ポイント高くなっています。

【中学生・高校生との比較】

女子の進学希望と一般市民の女の子への期待についてみると、一般市民は「短期大学・高等専門学校まで」が中学生・高校生より若干高くなっています。中学生・高校生は「大学まで」が約60%で一般市民(55.1%)より若干高くなっています。

男子の進学希望と一般市民の男の子への期待についてみると、中学生・高校生と一般市民はともに「大学まで」が60%台ですが、中学生・高校生は「高等学校まで」が20%台で一般市民(5.8%)より高くなっています。

●女子の進学希望と、一般市民の女の子への期待

	中学生女子	高校生女子	一般市民
中学校まで	—	—	—
高等学校まで	13.1%	13.8%	9.1%
専門学校・各種学校まで	17.9%	16.7%	7.8%
短期大学・高等専門学校まで	4.8%	6.4%	10.3%
大学まで	60.6%	59.6%	55.1%
大学院まで	2.4%	1.4%	2.6%
その他	1.2%	1.1%	11.3%

●男子の進学希望と、一般市民の男の子への期待

	中学生男子	高校生男子	一般市民
中学校まで	1.1%	—	—
高等学校まで	21.0%	23.4%	5.8%
専門学校・各種学校まで	9.7%	5.0%	4.6%
短期大学・高等専門学校まで	1.1%	—	1.7%
大学まで	61.8%	65.3%	68.3%
大学院まで	3.7%	4.7%	5.3%
その他	1.5%	1.3%	10.9%

7 メディアにおける性・暴力や性別役割分担の表現について

7-1 メディアにおける性・暴力や性別役割分担の表現について

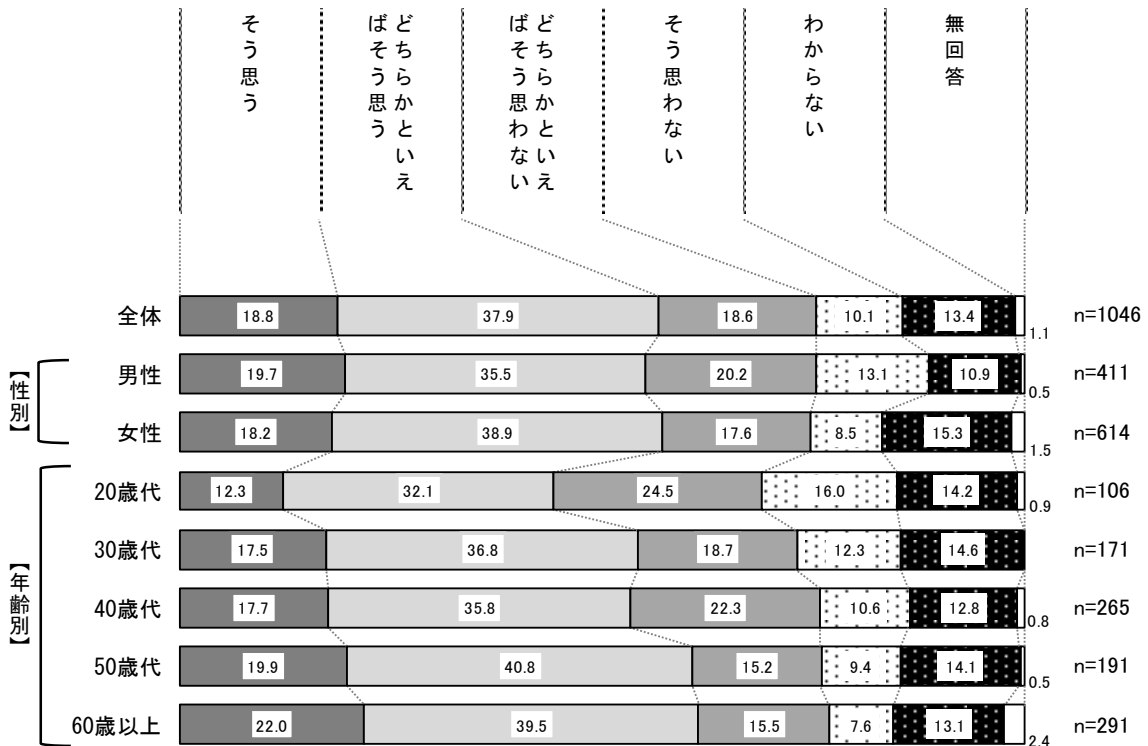
問18 あなたは、テレビ、新聞、雑誌、インターネット、コンピュータゲームなどのメディアにおける性・暴力の表現や、性別による固定的な役割分担（「男は仕事、女は家庭」など）の表現について、問題があると思いますか。（○は1つ）

◆『問題があると思う』は56.7%、『問題があると思わない』は28.7%

平成28年9月	
『問題があると思う』	56.7%
そう思う	18.8%
どちらかといえばそう思う	37.9%
『問題があると思わない』	28.7%
どちらかといえばそう思わない	18.6%
そう思わない	10.1%
わからない	13.4%

『問題があると思う』…「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合算

『問題があると思わない』…「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合算



【全体】

『問題があると思う』は56.7%、『問題があると思わない』は28.7%となっています。

【性別】

男性は『問題があると思わない』（33.3%）が女性（26.1%）より7.2ポイント高くなっています。

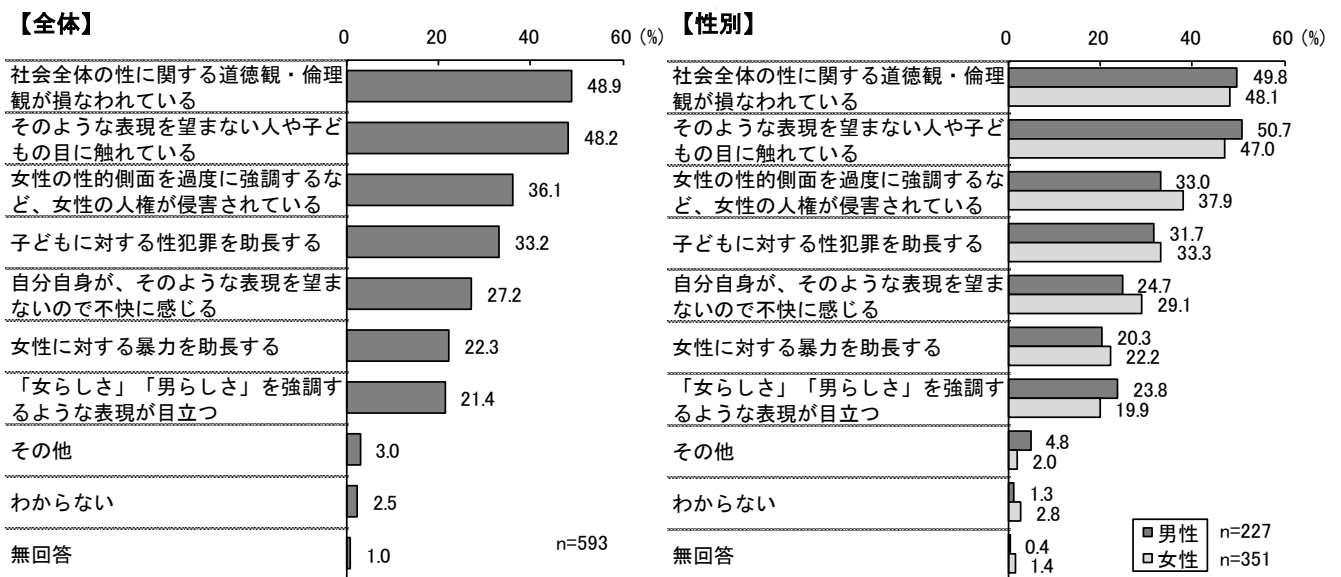
【年齢別】

20歳代は『問題があると思わない』（40.5%）が他の年代に比べて高くなっています。

問 18 で、「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した方におたずねします。

問 18(1) それはどのような点で問題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「そのような表現を望まない人や子どもに目についている」が約5割



【全体】

「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(48.9%)が最も高く、次いで「そのような表現を望まない人や子どもに目についている」(48.2%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」(36.1%)が高くなっています。

【年齢別】

年齢が高いほど「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が高くなっています。

20歳代・30歳代は「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ」、60歳以上は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（64.2%）、「女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている」（45.8%）、「自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる」（39.1%）が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	子どもに対する性犯罪を助長する	自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる	女性に対する暴力を助長する	「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ	その他	わからない	無回答
20歳代	47	29.8	51.1	25.5	19.1	25.5	17.0	31.9	4.3	2.1	—
30歳代	93	37.6	53.8	34.4	24.7	20.4	10.8	32.3	4.3	2.2	—
40歳代	142	40.8	55.6	31.0	31.0	16.2	24.6	15.5	4.2	3.5	—
50歳代	116	51.7	38.8	31.9	39.7	29.3	25.9	19.8	2.6	2.6	0.9
60歳以上	179	64.2	45.3	45.8	37.4	39.1	22.3	19.0	1.7	1.1	2.8

【子どもの有無別】

子どものいる人は「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」（52.0%）、「子どもに対する性犯罪を助長する」（34.1%）が子どものいない人を10ポイント以上上回っています。

子どものいない人は「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている」（57.1%）、「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ」（29.5%）が子どものいる人を10ポイント以上上回っています。

(%)

	件数(件)	社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている	そのような表現を望まない人や子どもの目に触れている	女性の性的側面を過度に強調するなど、女性の人権が侵害されている	子どもに対する性犯罪を助長する	自分自身が、そのような表現を望まないのので不快に感じる	女性に対する暴力を助長する	「女らしさ」「男らしさ」を強調するような表現が目立つ	その他	わからない	無回答
子どもがいる	431	52.0	46.2	35.5	34.1	26.7	20.4	18.6	2.8	2.3	1.2
子どもはいない	112	38.4	57.1	35.7	24.1	28.6	18.8	29.5	5.4	2.7	0.9

8 人権の尊重について

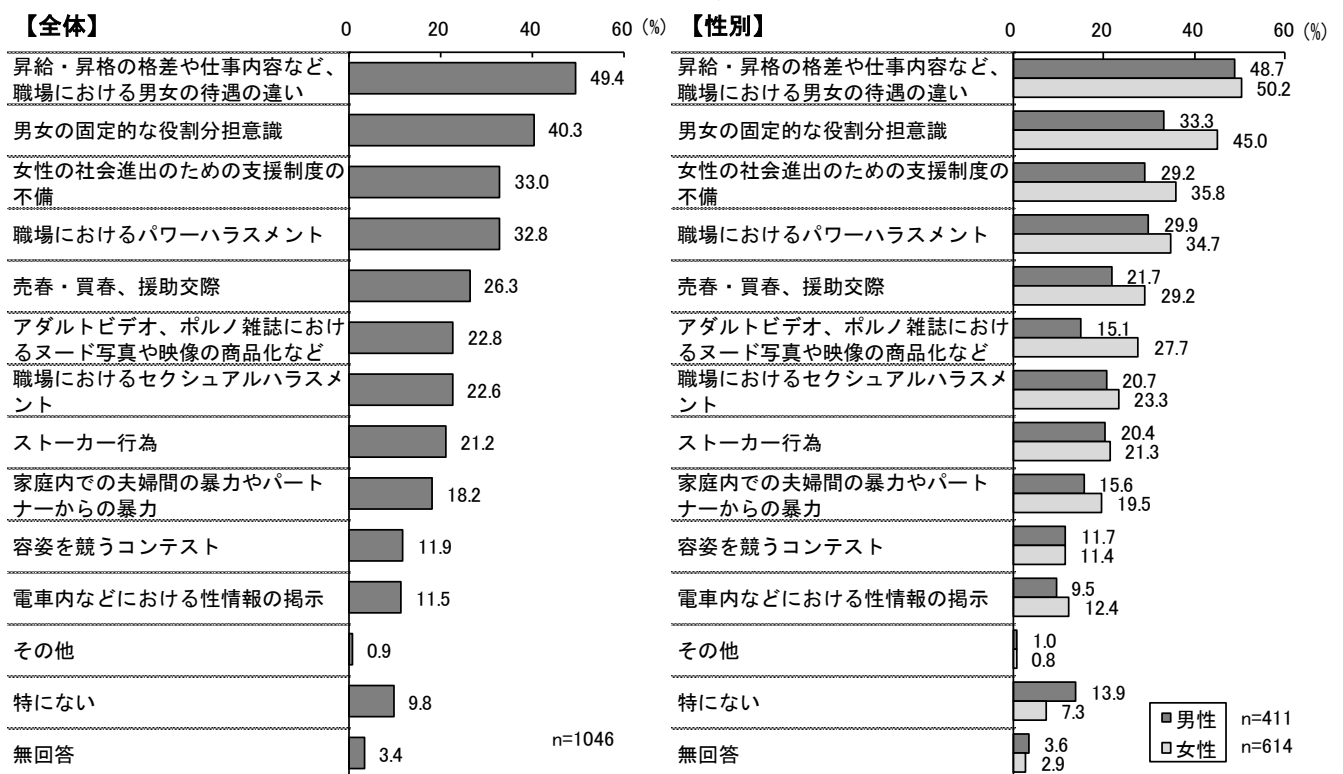
8-1 男女の人権が尊重されていないと感じるもの

問 19 男女の人権が尊重されていないとあなたが感じるものはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- ◆「昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い」が約5割
- ◆前回調査と比べて「昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い」が若干増加

※前回調査の設問文は「女性の人権が尊重されていないとあなたが感じるものはありますか。」

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い	49.4%	42.6%	44.5%
男女の固定的な役割分担意識	40.3%	38.1%	43.5%
女性の社会進出のための支援制度の不備	33.0%	31.8%	33.2%
職場におけるパワーハラスメント ※今回調査のみ	32.8%	—	—
売春・買春、援助交際	26.3%	26.2%	24.2%
アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など	22.8%	28.4%	20.0%
職場におけるセクシュアルハラスメント	22.6%	18.6%	25.1%
ストーカー行為	21.2%	18.6%	15.0%
家庭内での夫婦間の暴力やパートナーからの暴力	18.2%	18.8%	22.2%
容姿を競うコンテスト	11.9%	10.3%	7.5%
電車内などにおける性情報の掲示	11.5%	12.3%	14.2%
その他	0.9%	0.7%	1.6%
特になし	9.8%	10.5%	10.9%



【全体】

「昇給・昇格の格差や仕事内容など、職場における男女の待遇の違い」（49.4%）が最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識」（40.3%）、「女性の社会進出のための支援制度の不備」（33.0%）が高くなっています。

【性別】

女性は「男女の固定的な役割分担意識」、「アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけるヌード写真や映像の商品化など」がともに、男性より10ポイント以上高くなっています。

【年齢別】

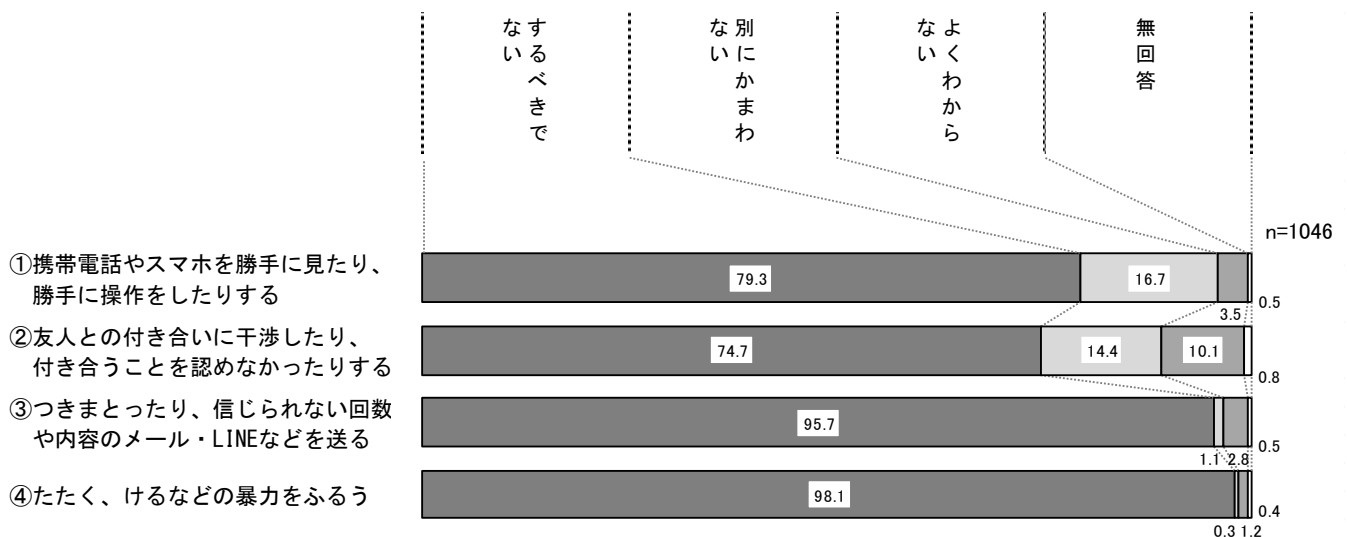
20歳代は「職場におけるセクシュアルハラスメント」（28.3%）が他の年代に比べて若干高くなっています。

		(%)													
	件数 (件)	昇給・昇格の格差や仕事内容など、 職場における男女の待遇の違い	男女の固定的な役割分担意識	女性の社会進出のための支援制度 の不備	職場におけるパワーハラスメント	売春・買春、援助交際	アダルトビデオ、ポルノ雑誌におけ るヌード写真や映像の商品化など	職場におけるセクシュアルハラスメ ント	ストーカー行為	家庭内での夫婦間の暴力やパート ナーからの暴力	容姿を競うコンテスト	電車内などにおける性情報の揭示	その他	特にな い	無回 答
20歳代	106	39.6	38.7	23.6	29.2	18.9	15.1	28.3	15.1	18.9	7.5	3.8	0.9	16.0	4.7
30歳代	171	53.2	43.3	34.5	29.2	25.1	18.7	19.3	17.5	14.0	6.4	11.7	1.2	7.6	3.5
40歳代	265	44.5	41.5	34.3	32.1	22.3	21.9	19.2	19.6	14.3	10.2	10.6	1.5	9.1	1.9
50歳代	191	52.9	39.8	34.0	31.9	28.3	24.6	19.9	21.5	19.9	12.6	8.9	—	10.5	1.0
60歳以上	291	53.3	38.1	34.0	37.1	31.3	27.1	25.8	25.8	21.6	16.5	15.5	0.7	9.6	5.2

8-2 夫婦・恋人間の暴力等について

問 20 あなたは、夫婦や恋人との間で、①～④のようなことについてどう思いますか。それぞれ1つずつ選んで、番号に○印をつけてください。

◆「つきまとったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る」、「たたく、けるなどの暴力をふるう」は「するべきでない」が9割以上

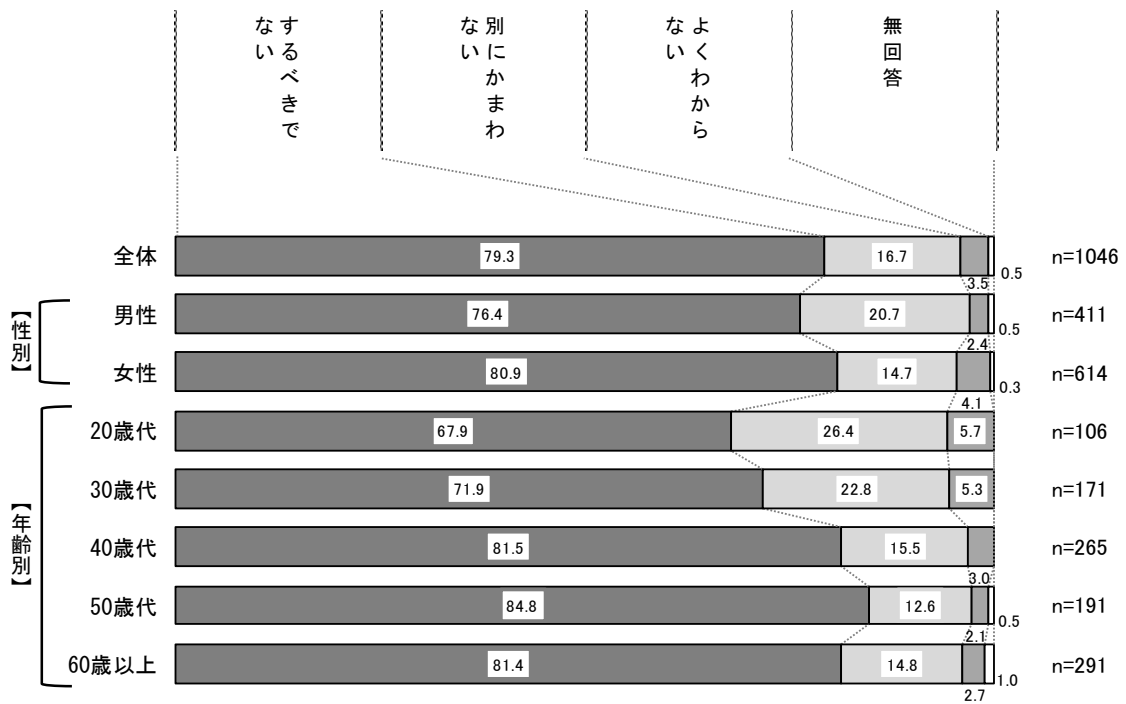


【全体】(①～④)

「するべきでない」は「たたく、けるなどの暴力をふるう」(98.1%)、「つきまとったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る」(95.7%)で90%以上と高くなっています。一方、「別にいい」は「携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする」で16.7%、「友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする」で14.4%、他の項目では約1%となっています。

<①携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする>

◆「すべきでない」は79.3%、「別にかまわない」は16.7%



【全体】

「すべきでない」は79.3%、「別にかまわない」は16.7%となっています。

【性別】

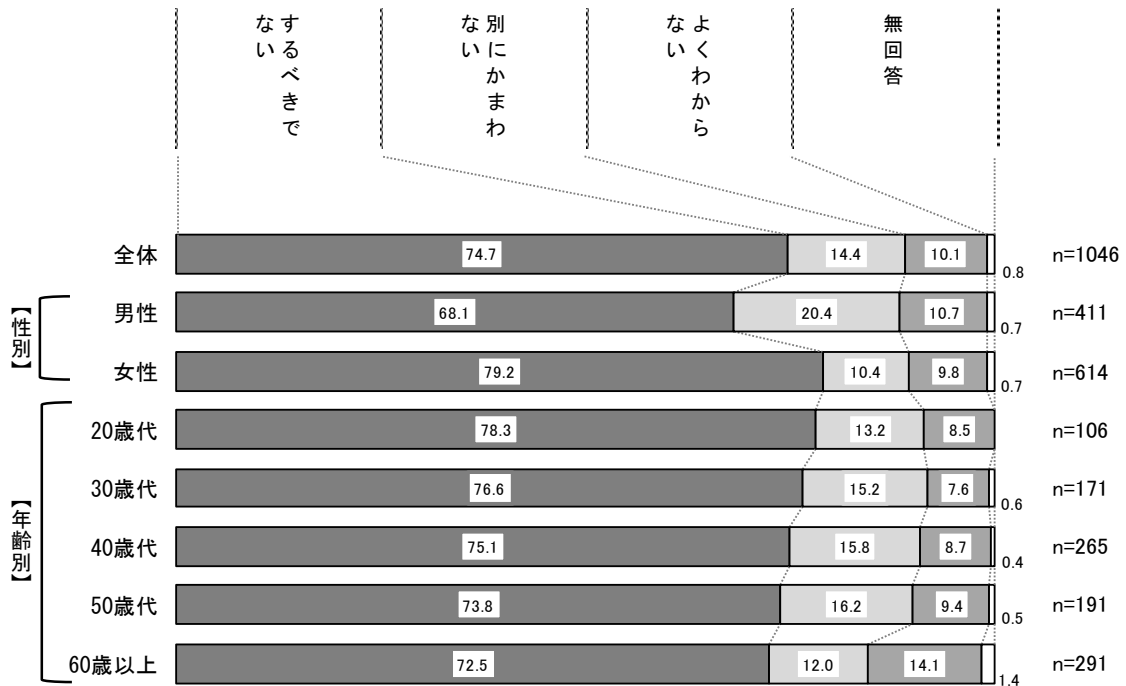
男性は「別にかまわない」(20.7%)が女性(14.7%)より6.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「別にかまわない」(26.4%)が他の年代に比べて高くなっています。

<②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする>

◆「すべきでない」は74.7%、「別にかまわない」は14.4%



【全体】

「すべきでない」は74.7%、「別にかまわない」は14.4%となっています。

【性別】

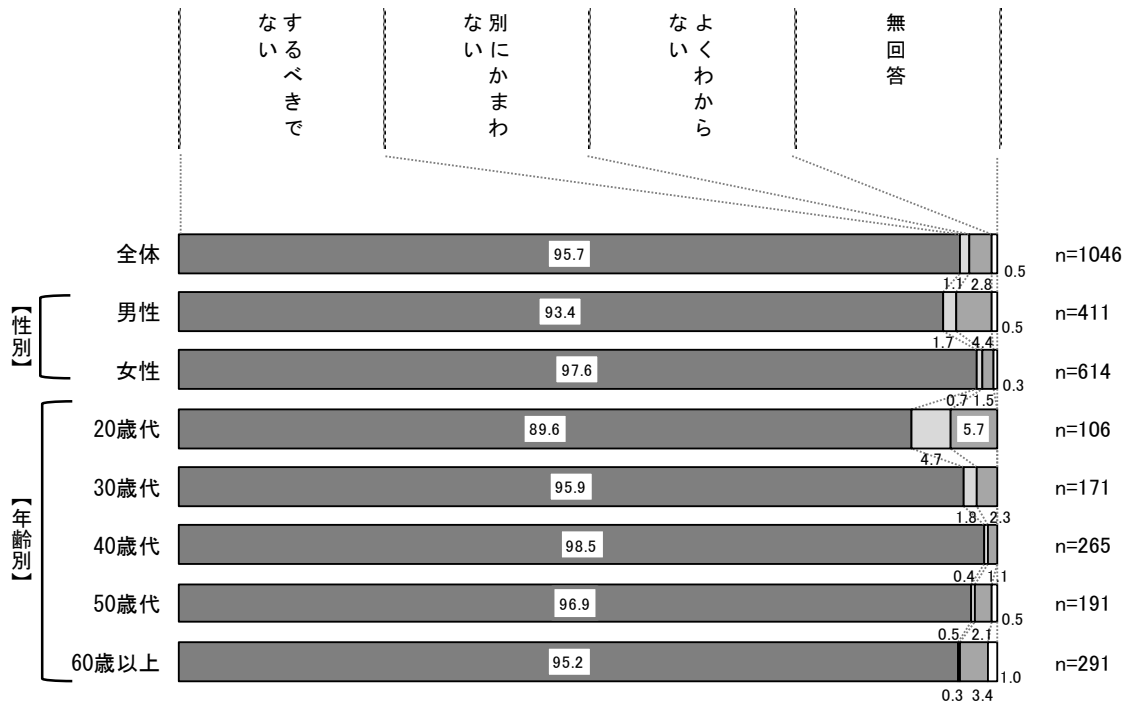
男性は「別にかまわない」(20.4%)が女性(10.4%)より10.0ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「すべきでない」は高くなっていますが、いずれの年代でも7割以上となっています。

<③つきまとったり、信じられない回数や内容のメール・LINE などを送る>

◆「すべきでない」は95.7%、「別にかまわない」は1.1%



【全体】

「すべきでない」は95.7%、「別にかまわない」は1.1%となっています。

【性別】

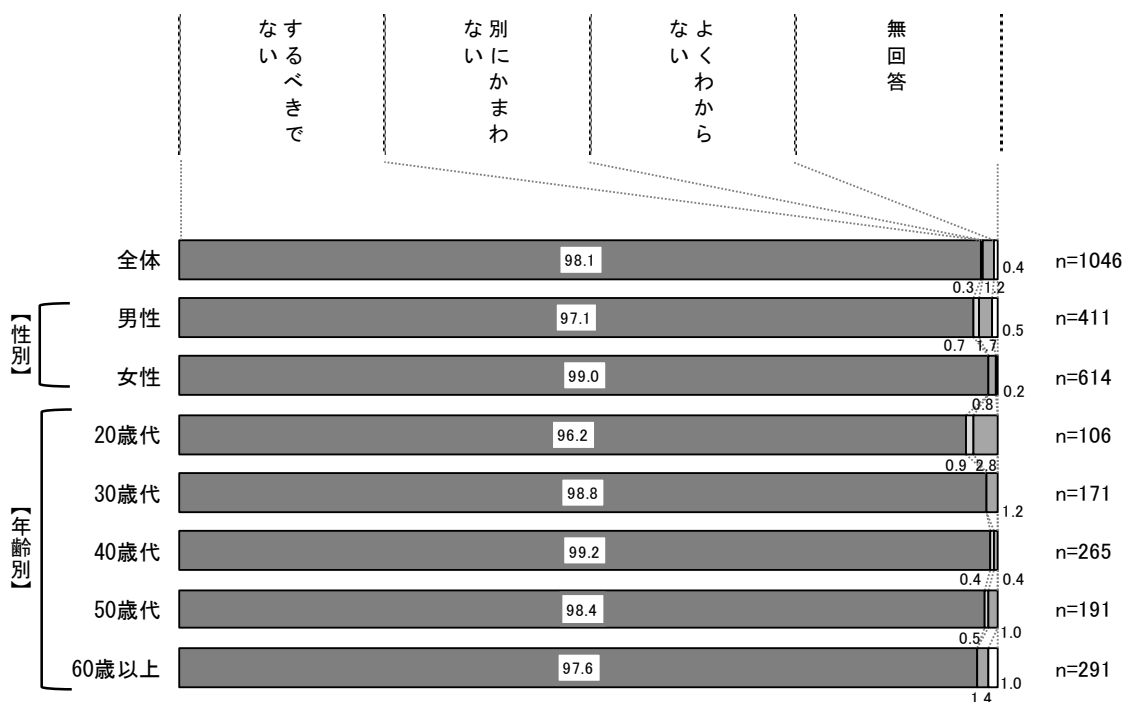
女性は「すべきでない」(97.6%)が男性(93.4%)より若干高くなっています。

【年齢別】

20歳代は「すべきでない」(89.6%)が他の年代に比べて若干低くなっています。

<④たたく、けるなどの暴力をふるう>

◆「すべきでない」は98.1%、「別にかまわない」は0.3%



【全体】

「すべきでない」は98.1%、「別にかまわない」は0.3%となっています。

【性別】

大きな差はみられませんでした。

【年齢別】

大きな差はみられませんでした。

【中学生・高校生との比較】

「すべきでない」と答えた割合を比較すると、「携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする」、「つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る」については、中学生・高校生より一般市民の方が10ポイント以上高くなっています。

「友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする」は中学生・高校生と一般市民ともに約75%で、差はみられませんでした。

●「すべきでない」の割合

	中学生	高校生	一般市民
①携帯電話やスマホを勝手に見たり、勝手に操作をしたりする	61.8%	67.3%	79.3%
②友人との付き合いに干渉したり、付き合うことを認めなかったりする	75.0%	75.3%	74.7%
③つきまったり、信じられない回数や内容のメール・LINEなどを送る	81.4%	81.7%	95.7%
④たたく、けるなどの暴力をふるう	—	93.5%	98.1%

8-3 恋人・配偶者から暴力を受けた経験

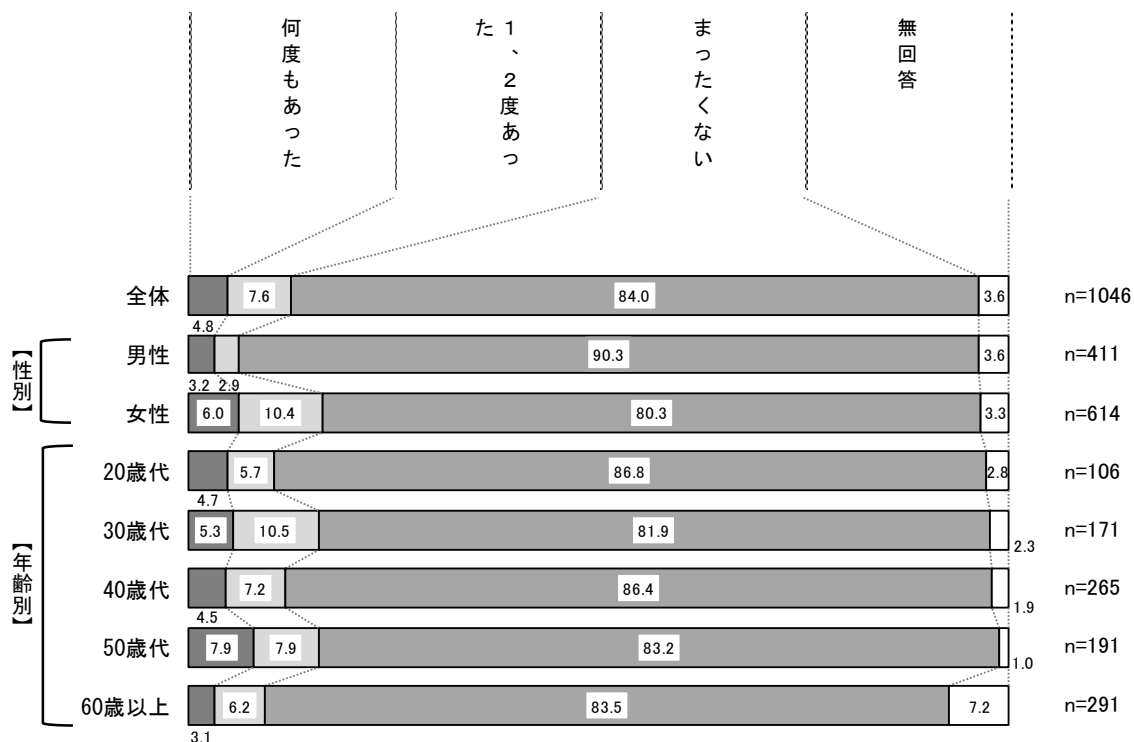
問 21 最近5年間に、あなたの恋人や配偶者（事実婚や別居中、離婚後を含む）から、身体的・精神的・性的・経済的暴力を受けたことがありますか。（○は1つ）

◆『暴力を受けたことがある』人は12.4%

◆前回調査と比べて『暴力を受けたことがある』人が減少し、「まったくない」人が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
『暴力を受けたことがある』	12.4%	14.6%	16.1%
何度もあった	4.8%	6.3%	7.4%
1、2度あった	7.6%	8.3%	8.7%
まったくない	84.0%	77.3%	78.0%

『暴力を受けたことがある』…「何度もあった」と「1、2度あった」を合算



【全体】

『暴力を受けたことがある』は12.4%、「まったくない」は84.0%となっています。

【性別】

女性は『暴力を受けたことがある』（16.4%）が男性（6.1%）より10.3ポイント高くなっています。

【年齢別】

30歳代・50歳代は『暴力を受けたことがある』（ともに15.8%）が他の年代に比べて高くなっています。

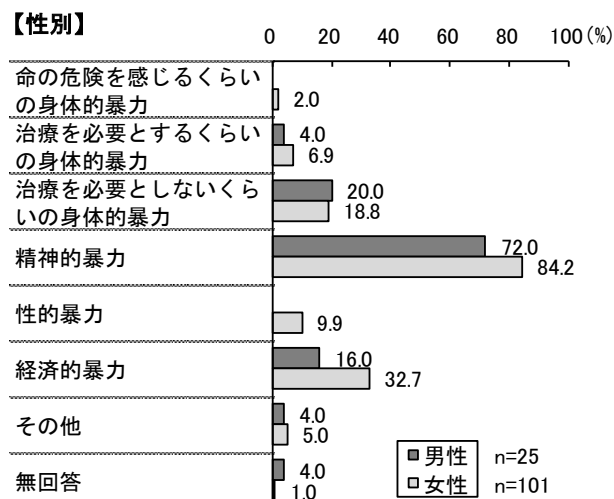
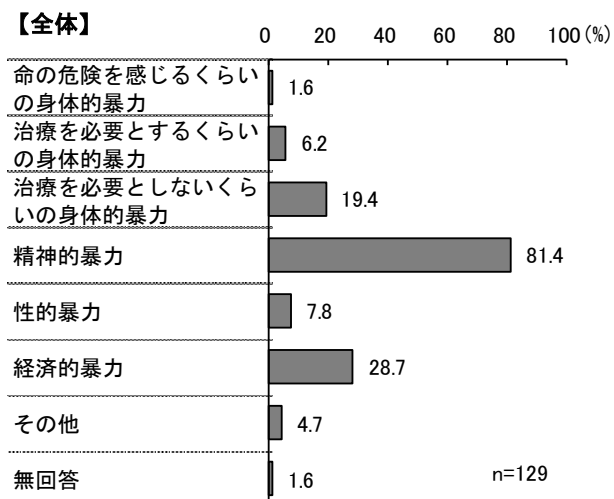
問 21 で、「1 何度もあった」または「2 1、2度あった」と回答した方におたずねします。

問 21(1) どのような暴力を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

◆「精神的暴力」が約8割

◆前回調査と比べて「精神的暴力」、「経済的暴力」が増加

	平成 28 年9月	平成 22 年9月	平成 18 年9月
命の危険を感じるくらいの身体的暴力	1.6%	3.9%	5.8%
治療を必要とするくらいの身体的暴力	6.2%	9.2%	6.8%
治療を必要としないくらいの身体的暴力	19.4%	23.0%	23.0%
精神的暴力	81.4%	71.1%	59.7%
性的暴力	7.8%	14.5%	13.6%
経済的暴力	28.7%	23.7%	17.3%
その他	4.7%	4.6%	—



【全体】

「精神的暴力」(81.4%)が最も高く、次いで「経済的暴力」(28.7%)、「治療を必要としないくらいの身体的暴力」(19.4%)が高くなっています。また、「命の危険を感じるくらいの身体的暴力」は1.6%、「治療を必要とするくらいの身体的暴力」は6.2%となっています。

【性別】

女性は「性的暴力」が9.9%で、男性は「性的暴力」の回答はありませんでした。

【年齢別】

40歳代は「経済的暴力」、50歳代は「精神的暴力」が、それぞれ他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数 (件)	命の危険を感じる くらいの身体的暴力	治療を必要とする くらいの身体的暴力	治療を必要としない くらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他	無回答
20歳代	11	9.1	9.1	18.2	81.8	18.2	27.3	18.2	—
30歳代	27	3.7	—	33.3	77.8	7.4	25.9	3.7	3.7
40歳代	31	—	9.7	19.4	80.6	12.9	41.9	—	—
50歳代	30	—	3.3	6.7	93.3	3.3	23.3	3.3	—
60歳以上	27	—	11.1	18.5	74.1	3.7	25.9	7.4	3.7

【結婚の有無別】

『結婚していない』人は「性的暴力」(21.9%)、「経済的暴力」(37.5%)が結婚している人より10ポイント以上高くなっています。

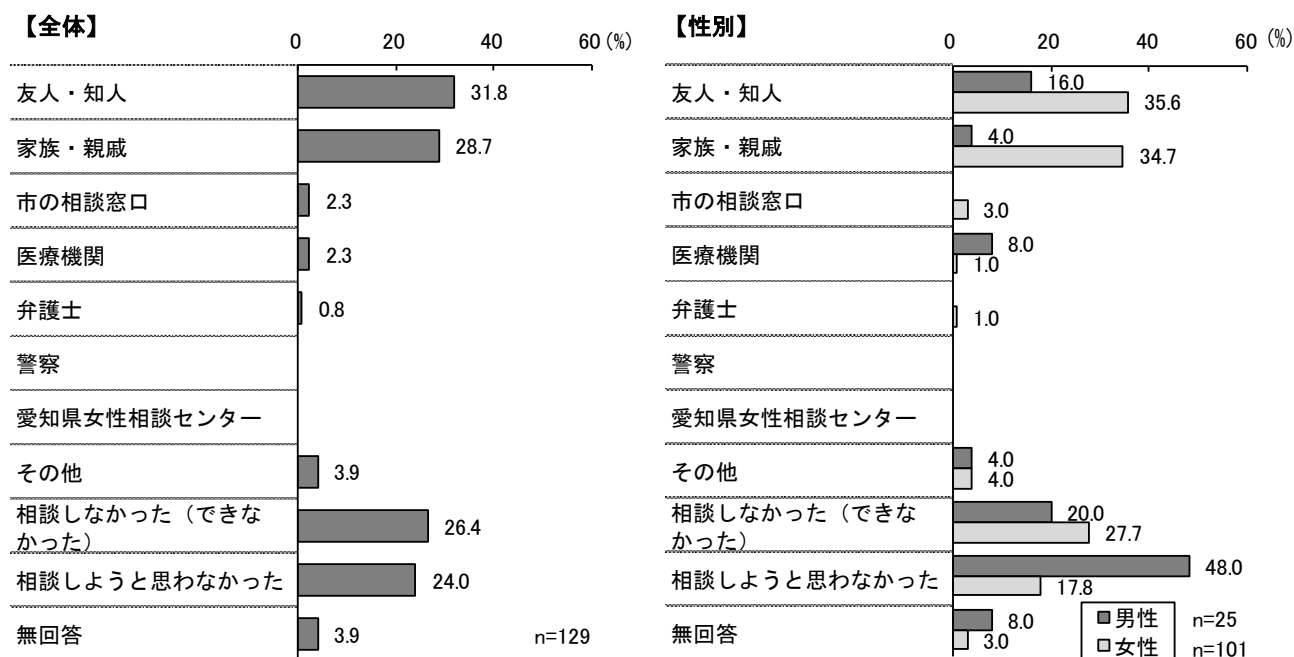
(%)

	件数 (件)	命の危険を感じる くらいの身体的暴力	治療を必要とする くらいの身体的暴力	治療を必要としない くらいの身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	その他	無回答
結婚している	94	—	4.3	21.3	81.9	3.2	26.6	5.3	2.1
『結婚していない』	32	6.3	12.5	12.5	81.3	21.9	37.5	3.1	—
未婚	13	15.4	7.7	7.7	69.2	23.1	23.1	7.7	—
離別	16	—	18.8	6.3	93.8	18.8	56.3	—	—
死別	3	—	—	66.7	66.7	33.3	—	—	—

問 21 (2) あなたは、暴力を受けたときに、誰（どこ）に相談をしましたか。
 （あてはまるものすべてに○）

◆相談相手は「友人・知人」、「家族・親戚」が約3割

◆「相談しなかった（できなかった）」、「相談しようと思わなかった」は2割以上



【全体】

「友人・知人」（31.8%）が最も高く、次いで「家族・親戚」（28.7%）が高くなっています。また、「相談しなかった（できなかった）」が26.4%、「相談しようと思わなかった」が24.0%となっています。

【性別】

女性は「友人・知人」、「家族・親戚」が全体に比べて若干高く、「相談しようと思わなかった」が全体に比べて若干低くなっています。

【年齢別】

40歳代は「相談しなかった（できなかった）」（32.3%）が全体に比べて若干高くなっています。

	件数（件）	友人・知人	家族・親戚	市の相談窓口	医療機関	弁護士	警察	愛知県女性相談センター	その他	相談しなかった（できなかった）	相談しようと思わなかった	無回答
20歳代	11	81.8	45.5	—	—	—	—	—	—	—	—	9.1
30歳代	27	33.3	33.3	—	—	—	—	—	7.4	18.5	37.0	—
40歳代	31	29.0	29.0	3.2	6.5	—	—	—	3.2	32.3	19.4	—
50歳代	30	30.0	26.7	3.3	—	3.3	—	—	3.3	30.0	20.0	3.3
60歳以上	27	14.8	18.5	3.7	3.7	—	—	—	3.7	33.3	29.6	11.1

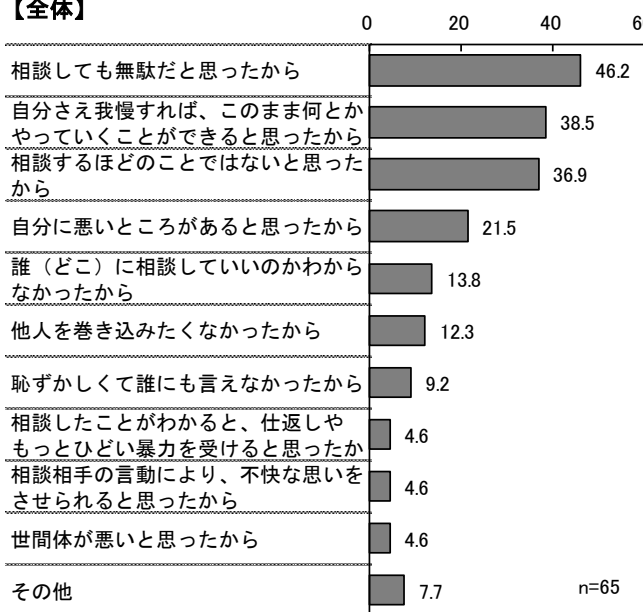
(%)

問 21 (2) で、「9 相談しなかった（できなかった）」または「10 相談しようと思わなかった」と回答した方におたずねします。

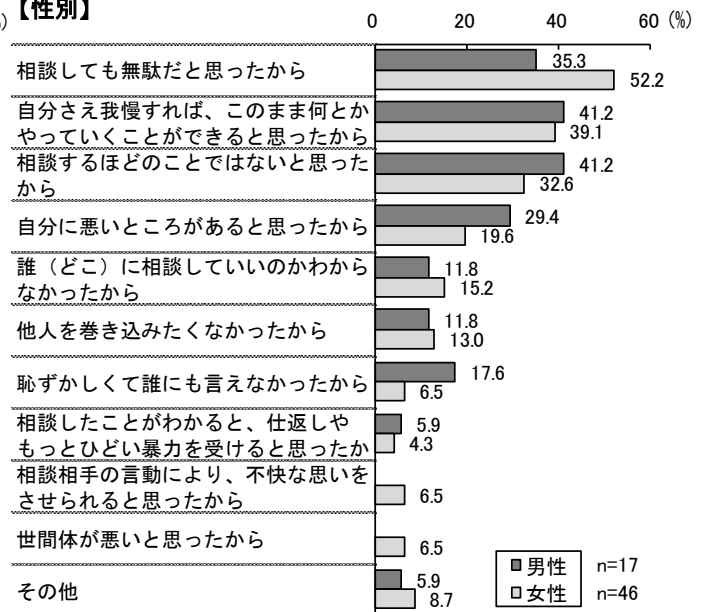
問 21 (3) その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

◆「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」、「相談するほどのことではないと思ったから」が上位

【全体】



【性別】



【全体】

「相談しても無駄だと思ったから」（46.2%）が最も高く、次いで「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」（38.5%）、「相談するほどのことではないと思ったから」（36.9%）が高くなっています。

【性別】

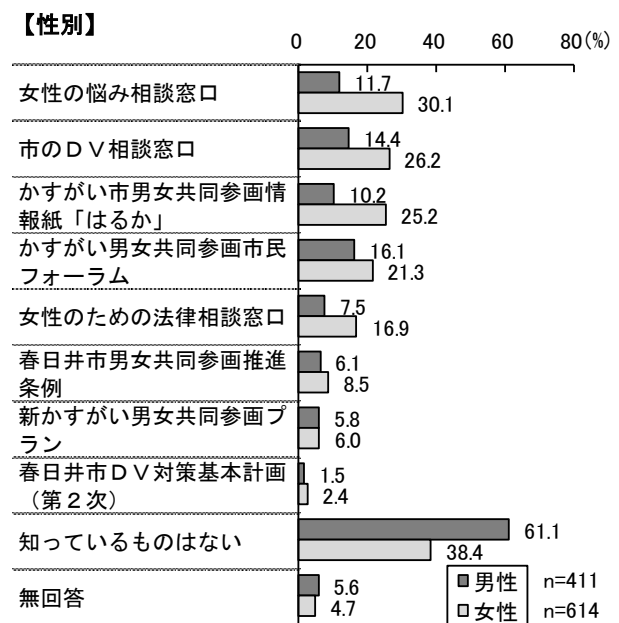
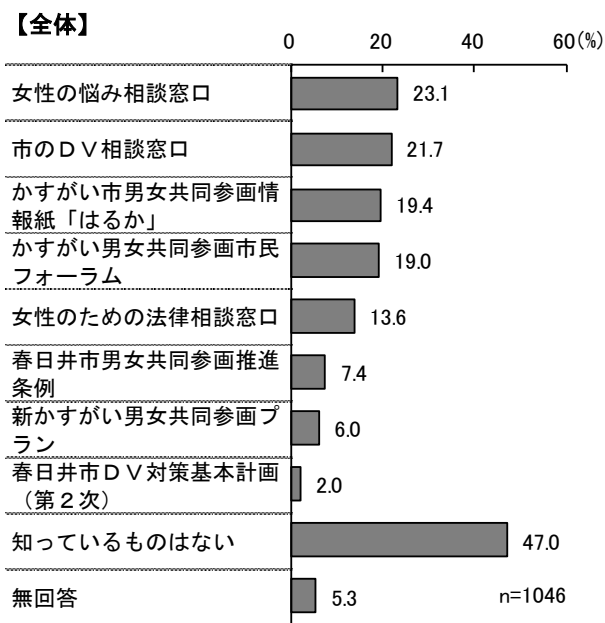
女性は「相談しても無駄だと思ったから」（52.2%）が全体に比べて若干高くなっています。

9 市の男女共同参画の取り組みについて

9-1 市の男女共同参画の取り組みの認知度

問 22 春日井市では男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みをしています。あなたが知っているまたは聞いたことがあるものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- ◆ 「女性の悩み相談窓口」、「市のDV相談窓口」、「かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」、「かすがい男女共同参画市民フォーラム」の認知度が約2割
- ◆ 「知っているものはない」が47.0%



【全体】

「女性の悩み相談窓口」(23.1%)が最も高く、次いで「市のDV相談窓口」(21.7%)、「かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」」(19.4%)、「かすがい男女共同参画市民フォーラム」(19.0%)が高くなっています。また、「知っているものはない」が47.0%となっています。

【性別】

女性は「女性の悩み相談窓口」、「市のDV相談窓口」、「かすがい市男女共同参画情報紙「はるか」」が男性より10ポイント以上高くなっています。

男性は「知っているものはない」(61.1%)が女性(38.4%)より22.7ポイント高くなっています。

【年齢別】

年齢が低いほど「知っているものはない」は高く、20歳代は70.8%となっています。

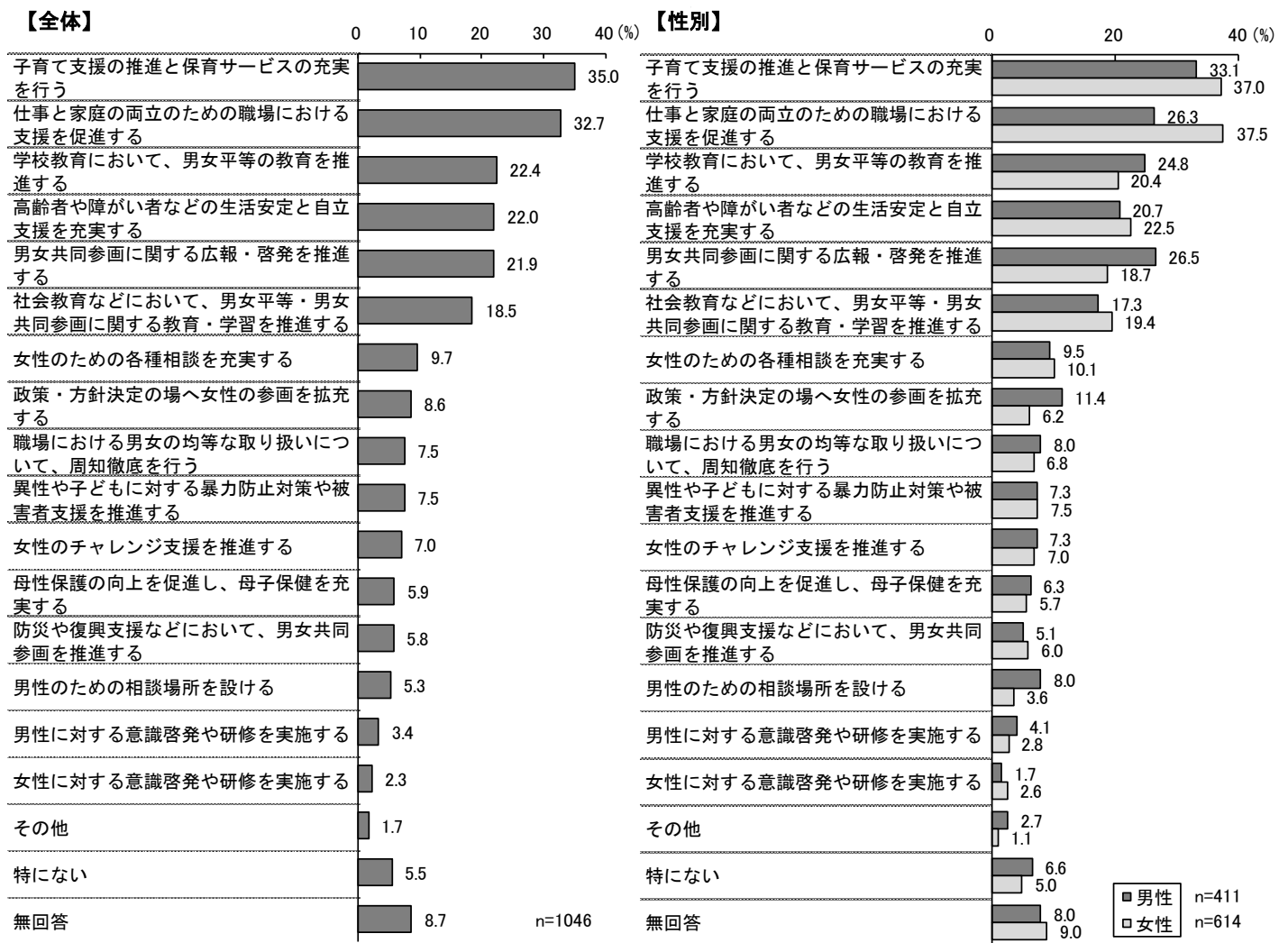
(%)

	件数 (件)	女性の悩み相談窓口	市のDV相談窓口	かすがい市男女共同 参画情報紙「はるか」	かすがい男女共同参 画市民フォーラム	女性のための法律相 談窓口	春日井市男女共同参 画推進条例	新かすがい男女共同 参画プラン	春日井市DV対策基 本計画(第2次)	知っているものはない	無回答
20歳代	106	12.3	6.6	5.7	8.5	2.8	3.8	1.9	0.9	70.8	5.7
30歳代	171	22.8	18.1	9.9	19.3	8.2	5.8	5.3	1.8	55.0	5.8
40歳代	265	25.7	29.4	21.1	16.2	13.6	4.9	4.2	1.1	46.8	1.9
50歳代	191	24.1	20.9	24.1	21.5	14.7	7.9	7.9	2.1	44.5	2.6
60歳以上	291	22.7	21.6	24.4	24.4	18.2	12.0	8.2	3.4	37.5	8.9

9-2 男女共同参画社会形成のために市が注力すべきこと

問 23 男女共同参画社会を形成していくため、今後、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

◆「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」、「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が3割以上



【全体】

「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」(35.0%)が最も高く、次いで「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」(32.7%)、「学校教育において、男女平等の教育を推進する」(22.4%)が高くなっています。

【性別】

女性は「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」(37.5%)が男性(26.3%)より11.2ポイント高くなっています。

【年齢別】

20 歳代・30 歳代は「子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う」が 40%以上、30 歳代・40 歳代は「仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する」が 40%以上と、いずれも他の年代に比べて高くなっています。60 歳以上は「高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援を充実する」(32.0%) が他の年代に比べて高くなっています。

(%)

	件数(件)	子育て支援の推進と保育サービスの充実を行う	仕事と家庭の両立のための職場における支援を促進する	学校教育において、男女平等の教育を推進する	高齢者や障がい者などの生活安定と自立支援を充実する	男女共同参画に関する広報・啓発を推進する	社会教育などにおいて、男女平等・男女共同参画に関する教育・学習を推進する	女性のための各種相談を充実する	政策・方針決定の場へ女性の参画を拡充する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底を行う	異性や子どもに対する暴力防止対策や被害者支援を推進する	女性のチャレンジ支援を推進する	母性保護の向上を促進し、母子保健を充実する	防災や復興支援などにおいて、男女共同参画を推進する	男性のための相談場所を設ける	男性に対する意識啓発や研修を実施する	女性に対する意識啓発や研修を実施する	その他	特になし	無回答
20 歳代	106	40.6	37.7	15.1	10.4	16.0	17.9	13.2	2.8	10.4	10.4	6.6	10.4	4.7	10.4	2.8	0.9	—	9.4	5.7
30 歳代	171	46.2	42.7	24.6	9.4	15.8	20.5	9.9	4.1	7.0	7.6	8.2	8.2	1.2	7.0	4.1	2.9	2.3	4.7	8.8
40 歳代	265	38.1	40.8	24.5	19.2	22.3	18.9	9.1	7.5	8.3	6.0	7.9	6.4	3.8	5.7	1.9	3.0	3.0	4.2	4.9
50 歳代	191	30.9	30.4	20.4	27.2	24.6	16.8	14.7	7.3	8.9	7.9	8.4	4.7	9.4	5.8	4.7	2.1	0.5	6.3	7.3
60 歳以上	291	27.8	20.3	22.3	32.0	25.4	18.6	6.2	14.1	4.5	7.2	5.2	3.1	7.9	2.1	3.4	1.7	1.7	5.8	13.7

10 自由意見

(とりまとめ中)

